

號を出でずして廢刊するの止むを得ざるに至りたりき。既にして岸田の歸朝するや、時方に東北の亂ありて、世情恟々、天下騷然たり。彼は此形勢を觀て、再び一新聞紙を發行し、題して藻鹽草といひ、軍事通信を主として、之に内外諸般の報道を加へ、且つ最初は毎月二回の發行なりしを、久しからずして之を週刊に改め、紙面の體裁、記事の内容頗る整頓したるものありしを以て、其愛讀者も次第に増加したりしが、惜いかな主筆岸田が東京、横濱間の汽船運送業を開始すると共に、間もなく廢刊したりき。

藻鹽草と相前後して出たる新聞紙の重なるものを擧げなば、柳川春三の手に成れる中外新聞、宣教師ベリーの編輯せる萬國新聞、福地源一郎、條野傳平の共同經營に係る江湖新聞、辻新次、鈴木唯一の發起したる遠近新聞を外にして、尙ほ六合新聞、内外新聞、新聞事略、江城日誌、隨事新誌等十種ありき。然れども以上は皆月刊若くは週刊の新聞紙にして、且つ悉く木版を以て印刷し、其編輯の如きも簡單にして、一として組織ある方法に據れるものなく、今日より之を見れば、寧ろ進歩せざる雜誌の體裁に近きものなりき、蓋し當時未だ歐洲活版器械の輸入なかりしが爲に、大仕掛の新聞紙を發行するに由なかりしは論なく、又新聞記者を專業として世に立たんとするもの未だ輩出せざりしが爲に、新聞紙經營に従事するものも、唯だ之を以て士人の片手間仕事と心得

たりしに似たり。是を以て其社會に於ける勢力の如き、固より言ふに足るものなかりき。是れ實に慶應元年より明治元年に至る四年間の新聞紙の状態なりとす。

獨り此時代に在りて異彩を放ちたりしは江湖新聞にして、其毎號の紙上は殆ど薩長攻撃の議論及び記事を以て填充し、遂に政府の忌諱に觸れて、發行禁止の厄に遭ひたるのみならず、主筆福地は官憲の糾問を受けて、若干日の監禁に處せられたりき。従來政府は新聞紙に對して何等の取締法をも設けざりしが、此時始めて之が必要を感じ、官許を経ずして發行したる新聞紙は、總べて之を禁止することゝ爲したれば、江湖新聞を始め、其他の諸新聞紙は皆一網に打盡せられたりき。但官報の前身たる太政官日誌(明治元年三月創刊)及び鎮守府日誌のみは官憲の命を承けて發行するものたりしを以て、禁止の範圍外にありたるのみ。

## 第二 日刊新聞紙の勃興

斯の如く一旦發生したる新聞紙は、江湖新聞の發行禁止と共に相前後して廢滅に歸したりと雖、政府部内に於ける進歩主義者は相當の取締の下に新聞紙の發行を奨励するの利益あるを認め、參議木戸孝允の如きは、明治四年四月長三洲、關篤輔等に保護を與へて、新聞雜誌と名けたる一新



聞紙を起さしめたりき。然れども此新聞紙は毎月六回の定期刊行にして、終に日刊の域に進む能はずして廢刊したりしが、尋いで横濱毎日新聞の發行を見るに及びて、茲に日刊新聞の陸續相踵ぎて出づるの新機運を導きたりき。此新聞紙は始めて活版器械を使用し、且つ其編輯、印刷、販賣等の各機關も稍々整頓したれば、嘗に日本に於ける日刊新聞紙の元祖たるのみならず、又當時にありては實に模範新聞紙たるの名譽を有するものなりき。後年本社を東京に移して、東京横濱毎日新聞と改題し、沼間守一、島田三郎、肥塚龍等之を經營するに至りて、居然文壇の重鎮たる位置を占めたり。

横濱毎日新聞の起るや、東京日日、郵便報知、朝野、曙、讀賣、東京繪入等の日刊新聞紙相前後して創刊せられ、明治五年より同八年までの間に、全國の新聞紙は日刊と定期刊行とを合計して一百餘種の多きに達したりき。東京日々は江湖新聞の復活して日刊となりし者にて、明治五年二月其第一號を發行し、初めは岸田吟香之が主筆たりしが、後には福地源一郎社長兼主筆となりて、其流麗莊重の筆を揮ひ、且つ編輯技術の上に新案創意を施したるもの亦頗る多かりき。例へば欄外の餘白を利用して廣告、相場表を之に掲出したる如き、臨時附録を發行したる如き、探訪員設置の先鞭を著けたる如きは是なり。同年東京日々に次いで起りたる郵便報知は時の驛遞頭前島

密が其屬僚小西義敬をして創刊せしめたる新聞紙なり。蓋し前島は通信機關の發達が新聞紙の力に待つ所多かるべきを信じたるに由れり。最初の郵便報知は毎月五回の定期刊行なりしが、明治六年之を日刊に改め、更に紙面を擴張して東京日日と對壘相當るに至れり、栗本鋤雲之が編輯を主裁し、古澤滋論説を擔當し、東京日日が木戸孝允一派の意見を代表して漸進主義を唱道したるに對し盛んに急進主義の政論を發表したりしかば、此二新聞紙の筆戰は、一時文壇の壯觀を極めたりしが、其後矢野文雄、藤田茂吉、犬養毅、箕浦勝人等筆を執るに及び、紙面は一層光彩を發するに至れり。既にして朝野新聞（社長兼主筆成島柳北）出で、八年一月曙新聞（社長青江秀、主筆末廣重恭）現はるゝに及び、世間此二新聞紙と横濱毎日、東京日日、郵便報知とを併稱して日本の五大新聞紙といひ、政府亦其言論より生ずる反響の小ならざるを知りて、漸く之を憚るに至れり。

是より先き横濱毎日新聞より少しく後れて發行したる日新眞事誌は、始めて其紙上に論說欄を設け、屢々大井憲太郎、古澤滋（後に郵便報知新聞の記者たり）等の政治論文を掲載して時人の注意を惹き、尋いで明治六年大藏大輔井上馨、大藏三等出仕澁澤榮一の連名を以て政府に提出したる財政意見書を公表して、閣議衝突の真相を暴露し、以て頗る國論を喚起したりしかば、新聞



紙の勢力は、俄に朝野に認識せらるゝに至れり。特に其翌年に於ける征韓論の破裂に次いで民選議院の建白ありしより、諸新聞紙は主として時事問題を批評する傾向を示し、中に就き東京日々、横濱毎日、郵便報知、朝野及び曙の各新聞紙上に於ては、毎日論説を連載して政治の得失を議し、其言論往々危激に渉る者ありき。是を以て政府は遂に明治八年六月讒謗律を制定して、新聞記者の罰金及び體刑を設け、且つ新聞紙の檢閲を嚴密にするの手段を執りたりき。而して劈頭第一此法律の犠牲となりたる者は曙新聞の末廣重恭にして、彼は罰金二十圓、禁獄三個月の宣告を受け、之に續で東京日々、市喜山景雄、朝野の成島柳北、郵便報知の岡敬孝等同じく罰金禁獄に處せられ、當時筆禍を買ふもの全國を通じて二十三名の多數を出だし、中には一人にして二回以上の處罰に逢ふもの亦少なからざりき。而も政府が新聞紙の言論を檢束したる結果は、却て新聞紙の讀者を増加し、従つて新聞紙の勢力を發展するの動機となれり。

然れども此時代に於て最も聲價ありし五大新聞は、孰れも論説を主とし、雜報までも論文體を加味したるもの多かりしかば、紙面全體の調子甚だ高くして、衆俗に接近し難く、之を購讀するものは、殆ど教育ある上流社會に限られたる狀ありしが如し然るに鈴木田正雄といへる人あり、子安峻、本野盛亨等と相謀りて、明治七年十一月讀賣新聞を創刊し、専ら家庭向きの雜報を採集

し、且つ全紙總振假名の通俗文章と爲したりしかば、中等以下の公衆も頗る之を歡迎したりき。特に明治八年四月前田健次郎を編輯長として發行したる東京繪入新聞の如きは、日本に於て始めて新聞紙に挿畫を應用し、又始めて新聞小説を掲出し、以て編輯技術の上に新生面を開きたりき。されば此二新聞紙は政治趣味に偏したる五大新聞紙と對照して、社會趣味の記事に富めるを以て稱せられ、日本の新聞紙界に別種の特色を發揮するを見たりき。但此類の新聞紙に記者たるものは、大抵戯作者、若くは其系統を有する儕輩多くして、學問思想あるものは之に與らざりしを以て、自ら世間の輕蔑を受くるを免れざりき。之に反して所謂五大新聞紙に在りては、其編輯局は人格高く、知識にも乏しからざる士流を以て組織したれば、たとひ新聞紙としては尙ほ甚だ幼稚なりしにも拘はらず、其言論は優に時代精神を指導するの權威なかりしにはあらず。

### 第三 政治新聞の全盛時代

明治八年四月漸次立憲政體を建つるの聖勅發表せられ、越えて十二年府縣會の設立せられてより以來、日本はやがて政論の時代に入り、或は國會請願の運動となり、或は政黨の組織となり、明治十五年遂に國會開設の聖勅を見るに至つて、新聞紙を發行するもの益々増加し、而も其大多



數は大抵政黨の機關たらざるものなく、之が記者たるものにして政治家たらざるもの實に幾何もなかりき。太甚しきは其所屬政黨の名を冠したる新聞紙あるを見るに至りたりき。一例を擧ぐれば大阪に立憲政黨起るや、明治九年に創刊したる大阪日報は、立憲政黨新聞と改題したる如き是れなり。されば從來小新聞と稱せられたる雜報本位の新聞すらも、往々政論を掲載し始めて、政治新聞の色彩を帯び來れり。其頃寺家村逸雅の創刊したる有喜世新聞の如きは、専ら市井の事故、狹斜の出來事を報道するを目的としたるものなりしも、久しからずして改進黨新聞と改題し、自ら改進黨の機關たるを示し、繪入自由新聞亦自由黨の機關たるを表し、讀賣新聞の如きも、改進黨の高田早苗等を入れて政論を書かしむるに至りたりき。されば此時代に於ては戲作者の手に成れる新聞小説は忽ち衰へて、政治を主題とせる小説之に代つて紙上に掲載せられ、政論を得意とする新聞記者も筆を小説に染めて其抱負を述ぶるものを出だし、かば、大新聞と小新聞とを問はず、均しく政治趣味に傾くの觀を爲したりき。

斯くの如く當時の新聞紙界が滔々として政論渦中に投せらるゝと共に、政治上に於ける新聞紙の勢力は驚くべき發展をなしたるのみならず、全國の大小新聞紙は殆ど悉く政府の反對黨に占領せられたりしを以て、政府部内に於ても亦機關新聞を作りて自家の政略を辯護せしむるの必要を感じたるものあり、乃ち從來半官報の名ありし東京日々新聞の外に丸山作樂をして明治日報を起さしめ、水野寅次郎をして東洋新聞を創刊せしめ、大學の書生を傭うて獨逸流の國家萬能説を鼓吹せしめ、以て大に民權自由論と戦はしめたりき。世間之を稱して御用新聞といひたりしが(御用新聞の名稱は東京日々新聞が明治八年太政官御用の標榜を掲げたるに淵源す)、其勢力は到底反對黨の諸新聞紙に拮抗するに足らざりき。況んや政府は間もなく政黨以外に超然たるの方針を執り、従つて其機關新聞に對する關係も自然に冷却したりしに於てをや。是に於てか明治、東洋の二新聞紙は數年ならずして廢刊し、福地源一郎も亦東京日々を去り、斯くて天下の文壇は反對新聞紙の飛揚跋扈に任ずるの外なかりき。

然れども政治新聞の獨り全盛を極めたる結果として、當時の新聞紙は其性質に於て勢ひ狹義ならざるを得ざりき。詳言せば、政論を以て編輯局を支配したるが故に、紙面の内容は甚だ單調にして、政治以外に國民の生活問題と交渉する百般の事項を閑却したる傾向ありき。政黨の機關として、新聞紙を製造したるが故に、獨立意見、公平の記事を其紙上に見ること不可能なりき。此二個の理由によりて讀者の範圍は自然に制限せられ、遂に收支相償はずして廢刊するもの比々相踵ぐに至れり。願ふに政黨は確に新聞の勃興を促したるに相違なしと雖、新聞紙の發達を妨げた



るも亦同じく政黨たりしは疑ふ可からず。

#### 第四 新聞紙の過渡時代

是時に當り、不偏不黨獨立自尊の旗幟を掲げたる一大新聞は東京に生れたりき。明治十五年を以て創刊したる時事新報は即ち是れなり。社主に中上川彦次郎、編輯長に伊東茂右衛門、印刷長に岡本貞然の署名を見たりと雖、實際の主裁者は三田學派の開祖たる福澤諭吉なりき。其創刊の趣意に據れば、其名を時事新報と命じたるは専ら近時の文明を記して、此文明に進む所以の方略事項を論じ、日新の風潮に後れずして、之を世上に報道せんとするにありき。即ち唯近時の文明といふのみ、日新の風潮といふのみ。而して其執る所の主義を問へば、小は一身一家の獨立を固くし、大は國家の獨立を圖るといひ、其眼中常に政黨政派の別なきのみならず、政治を本位とせずして、文明の指導者たらむとする廣義の新聞紙を以て自ら期したりき。されば其紙面の如きも、務めて單調に陥るを避け、記事の種類頗る豊富にして、特に經濟事項及び社會趣味多く、其文章亦三田流の通俗平易を旨としたれば、期年ならずして、比較的多數の讀者を收攬し、日本新聞紙界に革進の動機を與へたりき。

次に面目を一新したるは郵便報知新聞なりき。蓋し明治十五年以後の郵便報知は矢野文雄を社長とし、藤田茂吉、犬養毅、箕浦勝人、尾崎行雄等の少壯政治家を以て經營し、専ら政論を發表するの機關に供して、營利を目的とせざりしが故に、成るべく大新聞の品位を保持せんとし、其紙幅を大きくし、其定價をも高くして、發行部數の多寡を問はざりしが、其後矢野が歐洲を漫遊し、明治十八年を以て歸朝するや、直に郵便報知新聞の改革に著手し、先づ其紙面を縮少し、記事の傍訓を施し、小説の掲載を始め、且つ其定價をも引下げて、中等以下の階級にも入り易からしめたれば、讀者の範圍は自然に擴張したりき。尋いで彼は夕刊を發行したりしが、此斬新なる計畫のみは、當時交通機關の不備なりしと、印刷機械の不完全なりしとの爲に、終に失敗に歸したりき。兎に角從來大新聞紙を以て自ら任じたる郵便報知新聞が其體裁を改めて、稍々小新聞に近きものとなりたる事實は、一面に於て所謂大新聞若くは純政治新聞を經營するの甚だ困難なりしを證するものなり。されば此前後に出現したる諸新聞紙は、専ら多數の讀者を得るの目的を以て編輯せられたるもの多く、東京中新聞、都新聞及びやまと新聞の如きは、皆此過渡時代に生れたるものなり。而して二十三年一月に創刊したる國民新聞はまさしく當時の要求に適合したる最好の標本的新聞紙なりき。其主筆徳富猪一郎は嘗に奇警なる時代批評家として文壇に承認せられた



るのみならず、其新聞紙の編輯技術に於ても亦非凡の技倆ありしは能く國民新聞の紙面に表現したりき。其記事の多方面、多趣味にして、孰れの階級にも愛讀を禁ずる能はざらしめたる如き、其通俗を旨とする間にも、務めて卑野に陥るを避け、一種清新の氣常に文字の上に磅礴たりし如きは疑ひもなく此新聞紙の特色なりき。加ふるに繪畫主任を特設して、新聞紙の挿畫に種々の意匠を施し、以て讀者の感興を強くするの一創案を實行したる如きは、頗る新聞紙界の注意を惹きたるものゝ如し。

然れども時事新報と云ひ、郵便報知新聞と云ひ、將た國民新聞と云ひ、孰れも未だ純然たる資本的企業の性質を有するものにあらざりき。蓋し其經營者は本來自ら筆を執るの新聞記者にして、資本家の態度を以て新聞紙界に臨みたるものにあらざればなり。然るに明治十二年に創刊したる大阪朝日新聞は、數年の後村山龍平の經營に屬するに及びてより、稍々資本的企業たる性質を帯び來り、新聞紙の發達は他の一般生産事業と均しく、大に資本の力に待つものなるを示すに至れり。村山龍平は新聞記者として何等の能力を有したるにあらずと雖、彼は新聞紙の特性を領解し、如何なる新聞紙が最も多數の讀者を得べきかに留意し、先づ報道の迅速機敏を以て新聞紙界に雄飛せんとし全力を通信機關の利用に注ぎたりき。其結果は内外電報となり、特派通信者の設置と

なり、此多方面に多額の費用を投ずるを惜まざりしかば、新聞紙界は茲に資本競争の端緒を開くに至れり。是より先き明治十六年大阪立憲政黨新聞を改題して大阪毎日新聞と爲し、初めは柴四郎、竹内正志等専ら編輯に従事したりしが、後に渡邊治之を引受けて大に紙面を改良し、大阪朝日の聲價頓に騰るや、更に之と對抗せんが爲に、亦盛んに通信機關を利用し、互に電報料の多寡を以て相争の狀を呈したりき。從來大阪には津田貞を編輯長とせる大阪新報、原敬を主筆とせる大東日報、中江篤介を主筆とせる東雲新聞ありしと雖、皆資本の競争に堪えずして廢刊し、遂に關西の文壇は大阪朝日及び大阪毎日の二新聞紙に分有せらるゝを見たりき。

斯くて新聞紙界の資本的企業家たる村山龍平は、明治二十一年別に東京に東京朝日新聞を起し、大阪朝日と相聯結し、大膽に通信費を放散して、益々報道の迅速機敏を圖りたれば、當時の新聞紙界は殆ど其風靡する所とならんとする勢ありき。例へば明治二十二年憲法發布せらるゝや、大阪朝日は憲法の全文を電報せしめ、直に號外を發して之を市中に配布したるが如き、又二十三年帝國議會開くるや、其詳細なる議決録を悉く電報せしめ、之を別附録と爲したる如き、到底他の新聞紙の企て及ばざる所なりき。之を要するに、此時代に於ける新聞紙經營者は、政論を主としたる從來の大新聞紙が漸く多數讀者の要求に適合せざるを認識したると同時に、新聞紙の性質をして



一般通信的ならしめ、且つ其組織を營業的ならしむるの方針に傾きつゝありしが如し。

獨り此間に於て特殊の色彩を帯びたる一新聞あり、日本即ち是なり。此新聞紙は明治二十二年三月を以て創刊し、谷干城、三浦梧樓等一派の保守主義を代表して、歐化政略に反對し、勤儉尙武を唱へ、其立言時に褊狹に失するものなきにあらざりしと雖、主筆兼社長たる陸實の文才及び人格は、日本をして遂に新聞界一方の重鎮たらしめたり。元來論說を主としたる新聞紙なるを以て、其記事までも論文體を具へたるもの多く、且つ自ら標置すること頗る高くして、他の新聞紙が滔々相率ゐて雜報新聞とならんとするに際し、獨り卓爾として高等批評を任務とする大新聞たらんことを期したりき。是れ其甚だ珍とすべき所以なり。日本よりも一年前に出でたる東京新報の如き、其創刊者たる朝比奈知泉の健筆に依つて、一時日本と論陣相當りしが、數年ならずして廢刊し、尋で朝比奈は東京日々新聞に入つて之が主筆となれり。

## 第五 新聞紙の發達

明治二十三年議會の開設と共に、全國の新聞紙は其黨派の機關たると否とを問はず、再び政治新聞たるの姿態を現はし來れり。而して新聞記者にして衆議院議員に當選したるもの亦多かりしの

みならず、議員の主なる者は、大抵直接間接に新聞紙に關係したるを以て、衆議院と新聞紙とは内外相應して所謂輿論なるものを製造したりき。初期議會以來衆議院の解散問題たりしものは、一として新聞紙に依りて提議せられざるなく、然らずとも新聞紙の輿書を経ずして、之に輿論の形式を賦したることは、未だ曾て之あらざりき。衆議院に政費節減、民力休養の問題出づるときは、其背後には必ず新聞紙ありて之を是認し、始めて輿論と爲れり。衆議院に對外硬派の上奏建議等起るときは、新聞紙は必ず之と相聯合して其言論を鼓吹し、衆議院に行政改革、財政整理を主張するものあるときは、新聞紙は必ず之に聲援を與ふるによりて、權威ある題目となるを得たりき。されば若し政府を以て政治的勢力の第一級とせば、議會は其第二級にして、新聞紙は其第三級の位地に在りと謂ふべく、或場合に於ては、政府の新聞紙を畏るゝこと寧ろ議會に過ぎたるの觀ありて、新聞紙の發行停止は頻りに此時代に行はれたりき。

然れども一面に於ては、發行停止の爲に新聞紙の維持難を感ずるに至りしと共に、一面に於ては新聞紙界は既に自營競争の時代に入りしを以て、其編輯狀態は頗る進歩して事務的、技術的且つ營業的となりたりき。第一、此時代に於ては、主なる新聞紙は内外樞要の地に常設通信員を置き、又大事件の起りたるときは、争うて特派通信員を出だすに至りたりき。第二、海外電報の價値を



認識して、ロイタル電報の供給を受け、若くは特約電報を掲載するものあるに至りたりき。第三、各種の通信會社陸續創立して、新聞記事の原料を供給する機關となりたれば、新聞紙は更に之を精製品となすの編輯技術を練習し、從て新聞紙の實質は漸次に改良を加ふるに至りたりき。第四、多數の新聞紙は人心を刺激する警察種、即ち所謂三面記事に重きを置くの傾向を示し、社會の暗黒面を描寫して、讀者の好奇心に投せんと勉むるに至りたりき。此傾向を代表したるものは、明治二十五年に創刊したる萬朝報及び二十六年に起りたる二六新報にして、特に萬朝報の如き一時は惡徳新聞の醜名を受けたりしが、其經營者たる黒岩涙香は、最も深刻なる訶發主義の新聞記者として一般に認識せられ、而して彼は此主義に由りて萬朝報の讀者を著しく増加するを得たりき。第五、新聞小説の如きも、政治を主題とするもの全く迹を絶ちて、寫實主義の人情小説若しくは探偵小説の流行を見るに至り、坪内逍遙、尾崎紅葉、幸田露伴、森鷗外、山田美妙齋等の創作、及び森田思軒の翻譯小説も歡迎せられたりき。第六、政治家を兼ねたる新聞記者漸く其勢力を失ひ、純粹なる新聞記者新に輩出して、有力なる地位を占め、朝比奈知泉、徳富猪一郎、陸實、三宅雄二郎、石河幹明、竹越與三郎等各自其一家の文體と議論とを以て文壇に雄視するに至れり。第七、國會開設以前の新聞論説は多くは抽象的理論に傾きたりしが、此時代の論説は直に實際問

題に接觸するに至れり。第八、明治二十三年政府が佛國より輪轉印刷機を購入して之を官報の印刷に使用してより、東京、大阪の兩朝日新聞先づ之に倣ひ、時事新報亦之に繼ぎて輪轉印刷機を使用したれば、舊式の手刷器械を使用する新聞紙は到底之と競争する能はずして、新聞紙界に於ける資本の力の愈々大切なるを自覺するに至れり。

尋いで明治二十七、八年の日清戦役あるや、從來新聞紙を手にしたることなかりし下層社會までも、之を讀むを樂しむに至りしかば、一面に於ては、各新聞紙の發行部數俄に驚くべき増加を來したると共に、一面に於ては、各新聞紙が互に多數の讀者を收攬せんが爲に、編輯技術の上に更に顯著なる進歩を示したるは言ふまでもあらず、若し日清戦役によりて最も大なる利益を享けたるものを擧げなば、新聞紙は必ず其一に數へらるべし。

## 第六 最近の新聞紙

日清戦役以後の各新聞紙は概して營業本位、讀者本位の一方に傾き、新趣向の競争と爲り、號外及び附録の競争と爲り、廣告の競争、割引販賣の競争、其他あらゆる競争盛んに行はれて、中には競争に疲れて倒れたるものありしが、競争の勝利者として偉大の膨脹を爲したるもの亦少か



らず。此時に當り、幾多の變遷を経て、遂に三木善八、村井弦齋等の經營に移りたる郵便報新聞は、郵便の二字を削りて、單に報知新聞と改稱し、自ら政黨との關係を絶ちたるを宣言して、新聞紙の性質を一變したるを明かにし、先づ挿畫を加へ、文字を平易にし、主力を三面記事に用ひて、家庭向の高等雜報新聞と爲し、且つ戰爭文學の副産物とも見るべき『日の出島』と題する弦齋の小説を掲載したりしが、此新聞政略は戰役に導かれて増加したる新らしき讀者の要求に適合し、従つて其發行部數日に月に増加し、戰役以前僅に五六千の讀者を有したる報知新聞は、數年ならずして正に之に十倍するの盛況を見るに至れり。是れ報知新聞の新經營者は戰役後の新聞讀者が中等以下の家庭に最も多き事實を洞觀して、巧みに其趣味好尚に投じたるが故なり。加ふるに彼は讀者と新聞紙との關係を一層親密ならしむべき種々の創案に於ても、亦各新聞紙の魁たりき。例へば職業案内、衛生顧問若くは法律顧問等の欄を設るや、他の新聞紙にして之に倣ふもの少からざりし如きは是れなり。

次に新聞紙の發達を促したるものは、戰役後に勃興したる事業熱なりき。蓋し事業熱の勃興と共に、經濟事項は新聞記事の重要な部分を占むるに至りしを以て、商工業者と新聞紙とは次第に密接し、此方面に於ける新聞紙の販路は亦廣大なるのみならず、新事業の勃興に伴うて、一般經濟の發達を來し、従つて國民の富を膨脹したれば、自然に新聞の購買力を増加したり。而して經濟事項の報道は最も精確と迅速とを要するが故に、各新聞紙の探訪機關は益々活動し、電信電話の使用は愈々繁劇を極め、有力なる新聞紙に至つては、長距離の専用電話を使用して、通信の機能を一層敏活ならしめ、又輪轉印刷機を使用するもの漸次に増加し、最近に於ては一新聞紙にして、二三臺の輪轉印刷機を使用するもの珍しからず、中には色刷輪轉機をも据付けたるものあり。報知新聞、中央新聞の如き即ち是れなり。

此の如く近時の新聞紙は日清戰役後に至りて急激の發達を致したりと雖、其最も多く發行部數を増加したる新聞紙は、最も巧みに中等以下の讀者に對する新聞政略を運用したるもの、如く、即ち文字を平易ならしむること、成るべく挿畫を多くして人の目を惹くこと、理窟なき問題よりも、感情的記事に紙面の大部分を割愛すること、世人の好奇心を動かすの出來事は、勉めて之を誇大に報道すること、高尚なる趣味よりも、通俗なる娛樂の材料を家庭に供給すること、國民の生活と直接の關係ある經濟事項を最も機敏に通信すること等に於て、編輯技術の能事を盡したり。是れ近時の新聞紙が營業本位の方針に支配せられたる結果なりと謂はざるべからず。蓋し新聞紙も亦利益を得るを一つの目的として製造する精神的製品にして、經濟上の眼より見ば、毫も他の生



產品と異なる所なきが故に、高級新聞記者の理想が往々資本家の意思に抑制せらるゝことあるは、免るべからざる勢なり。されば久しく獨自一己の本領を維持して、容易に軟化せざりし日本も、其持主を變更すると共に、其紙面は頗る通俗的となり、其新聞政略は全然營業的となれり、況んや其他をや。

且つ夫れ最近の新聞紙は、一面に於ては其發達に伴うて、經營上の規模次第に擴張したる結果、自然に編輯費用の増加を來したると共に、一面に於ては、營業上の競争日に月に激甚を極むるの結果、成るべく廉價に新聞紙を讀ましむるを努め、常に定價の大割引を行ふのみならず、屢々無代價發送に依りて讀者を收攬する方法流行するに至れり。従つて如何に發行部數の多き新聞紙にても、單に之より得る所の収入のみにては、編輯其他の費用を償ふこと容易ならざれば、新聞紙の殆ど唯一財源たるべきものは、廣告料の収入あるのみ。即ち新聞紙の經濟は廣告料に依つて維持せらるるといふも可なり。されば近時の新聞紙は、恰も争うて廣告機關たらんと欲するもの、如く、而して廣告の掲載最も多きは、信用聲價の最も大なる新聞紙たるを表するの狀態なるが故に、廣告取扱事務は編輯局以外に特立せる重要な位置を占むるに至れり。是に於て編輯局を以て新聞政略を指導したる時代は既に去つて、今や新聞政略を定むるの權力は、寧ろ營業部の管理者に

移りたりといふを適當と爲す。大阪朝日、大阪毎日の兩新聞紙の如きは、其最も完全なる實例なるべく、如上の傾向は日露戰役後に至つて、益々顯著なるものに似たり。

然れども新聞紙の任務及び新聞記者の位地に關して、正當なる觀念を有する人物を持主としたる新聞紙に在つては、單に營利を目的とせずして、常に新聞紙の信用及び名譽を維持するの用意を盡せり。此の種の新聞紙は常に記事の選擇を慎むのみならず、最も重きを論說に置けり。且つ營業本位の新聞紙に於ても、近來發行部數の驚くべき増加を見たと共に、其讀者に及ぼすべき感化の偉大なるを自覺し、漸次自重自尊の念を抱くに至りしは、亦疑ふべからざる事實なり。故に最近の新聞紙は、其性質の小新聞の系統に屬するものにも、毎日少くとも必ず一篇の論說を掲載せざるものなし。唯從來の新聞論說と對照せば、近時の新聞論說には主筆の一家言、若くは黨派の代辯と認むべきもの甚だ少くして、時々發生したる事實問題を有りの儘に説明解釋するを旨とするものゝ如し。中には殊更に危激の言論を弄して、讀者を煽動するものあれども、概して言はゞ新聞論說の如きも、時代の進歩と共に亦次第に向上しつゝあるは明白なり。

願れば明治十年頃には、全國の新聞紙約一百餘種に過ぎざりしが、同三十七年の調査に據れる全國新聞紙の府縣別數は左の如し。



東京	京都	大阪	北海道	栃木	三重	静岡	岐阜	長野	福島	青森	秋田	宮城	兵庫	石川	福井	岡山	山口	徳島	愛媛	大分	熊本	鹿児島	臺灣
五四	七	二四	二五	三	一七	五	五	九	六	五	七	〇	四	三	三	七	三	四	五	三	六	二	三
神奈川	長崎	埼玉	千葉	新潟	群馬	茨城	奈良	愛知	山梨	滋賀	宮城	岩手	山形	鳥取	島根	広島	和歌山	香川	福岡	佐賀	宮崎	沖縄	
一四	二	一	三	一八	四	三	四	三	四	九	五	六	五	三	二	二	六	七	六	二	一	一	一

合計 三百七十五種

即ち之を明治十年に較ぶれば、全國の新聞紙は約四倍の増加なり。此外英米人の手に成る英文新聞紙は、横濱に五種神戸に二種あり。英人ブロンクリーの發行するジャパン、メーブル最も著はる。而して現時東京に於て發行する主なる新聞紙を挙げれば、東京日々新聞(社長本多精一)、時事新報(社長福澤一太郎)、報知新聞(社長箕浦勝人)、國民新聞(社長徳富猪一郎)、東京毎日新聞(社長島田三郎)、中央新聞(社長大岡育造)、東京朝日新聞(社長代理池邊吉太郎)、萬朝報(社長黒岩周六)、東京二六新聞(社長秋山定輔)、讀賣新聞(社長本野盛亨)、日本(社長伊藤欽亮)等にして、大阪朝日及び大阪毎日の兩新聞紙は、其勢力殆ど東京諸新聞紙以上と稱せらる。若し夫れ日本人の發行する英字新聞紙に至つては、唯一のジャパン、タイムスあるのみ。

新聞紙雜誌及び出版事業



更に新聞紙の發行部數に就いて之を言はゞ、明治十年頃には毎日一萬以上發行するもの僅に東京日々新聞のみなりしが、今や地方新聞にても三萬以上の發行部數を有するもの少からず。最も勢力ある新聞紙に至つては、十萬乃至二十萬を發行する者二三にして止まらざるのみならず、孰れの新聞紙も漸次其發行部數を増加するを觀れば、遠からずして五十萬以上を發行する新聞紙を出だすに至るも亦難からざるべし。蓋し國民教育の普及したる結果なり。明治三十七年の調査に據れば、全國の小學校二萬千三百八十三校。其男女生徒の數約五百十四萬四千一百餘名にして毎年平均約一二萬餘名の卒業生を出だせり。次に中學校は二百六十七校、其生徒十萬一千一百九十餘名にして、毎年卒業生を出だすこと約一萬餘名、又高等女學校は九十五校、其在學生一萬八千五百三十餘名にして、毎年平均約五千餘名を出だせり。新聞紙の需要日に増加するも亦宜ならずや。(以下「雜誌及び出版事業」の部は省略す)

(四十一年二月)

## 第八篇 外人月旦

### 露國現皇帝ニコラス二世

露國現皇帝ニコラス二世陛下は、即位式舉行五年前即ち明治二十四年日本に來遊せられたりしを以て、我國民中陛下の風采容貌を記憶し居るもの少なからざる可し。其眉目雋麗にして、其態度の沈毅なりしは、人をして天晴れ大國の主權者たるべき天資を想望せしめたりき。遼東還附以來我國民は兒童走卒も陛下の名を知らざるものなく、滿洲問題の日露問題と爲るに及で、陛下の雷名は益々國民の耳に轟けり。而して近時露國の絶東に對する行動は、陛下が恰も侵略主義の君主なるもの、如くに我國民の眼に映じつゝあり。陛下は果して侵略主義の君主なる乎、果して滿洲を領するが爲には日本と開戦するをも避けざらんとする乎。余は其の然るを信する能はず。

陛下が先帝アレキサンドル三世の露化主義<sup>ルシフエーション</sup>を繼紹したるは可なり。而も其の領土開拓の政略は、全く自滅政略たるに過ぎずして、唯だ徒らに官府の權力を助長するを見るのみ。數年前前大藏大臣ウキツテ氏の皇帝に捧呈したる報告書に云へるあり、我大露帝國は、其の開拓したる領土を以て、帝國の繁榮及び國庫の源泉たらしめむと欲せり。然れども實際は之れに反するの結果を顯は



し、却つて領土の經營に對して莫大の經費を支出し、之れが爲めに本國人民の負擔を増加するに至れりと。是れ正しく事實を告白したる直言なり。例へば近時に於ける滿洲の施設を見よ、其の規模の雄大なるは實に世界の驚歎を博するに足るとするも、露國が之れに向て投じたる十餘億の金額は、總て本國人民の負擔となるに非ずや。東清鐵道は敷設したり、ダルニー市は新設せられたり。絶東に發展したる露國の勢力は旺盛なり。而も是れと同時に露國の中央及び幹部は、漸次衰微の傾向を示しつつあるを認めざる可からず。

露化主義の要は、國家の根軸を鞏固にして、露國の統一を完成するに在り。然るに露國政府は却つて國家の外輪を擴大せむと謀り、殆ど露國の全資財を擧げて邊境の用に供せり。邊境は則ち由て以て榮えむ。然れども本國人民は窮乏と飢餓とに襲はれ、累々たる貧民團體は、最も富める中央地方に簇生し、其の數漸やく増加して全露西亞に及ばむとするの勢あり。此の状態を見たるウキツテ氏は、各地に農事會を組織して農民救済の方法を講せんとしたりき。然れども農事會の委員等は、政府の豫期せざる報告書を作れり。彼等は露國衰微の原因必らずしも地方農民の無智無能に存せずして、政府の財政及び行政其宜しきを得ざるに存するを知れり。故に其の報告書は、農事改良意見の代りに、權利請願を意味するの文字を以て満たされたり。曰く上下各階級に普通な

る、且つ一定不動の法律を與へよ。曰く審問なくして人權及び財産を奪ふことなからしめよ。曰く行政命令に依て漫りに人民を牢獄に投じ、若くは財産を沒收するを禁せよ。曰く拘引、罰金、放逐、監視及び公權の褫奪等の如きは、行政權を以て之れを執行す可からず。曰く旅行制度を廢すべし。曰く體刑を廢すべし。曰く良心の自由を擔保せよと。其の要求する所は此に止らずして、彼等は國民の能力を發達せしめむが爲に、普通教育費は國庫の支辨たらざるべからずといへり。高等及び大學の教育は國民一般に之れを公開せざる可からずといへり。何人も子弟を教育するの權利を妨げらるべからずといへり。學校教科書は各地其の祖國の言語を以て編纂するを許すべしといへり。彼等は更に一步を進めて政府の新組織を要求し、立法權を附與せられたるセムストツォーを開設せざるべからずといへり。此の最後の要求たるや其終局の目的は露國をして一の聯邦帝國たらしめむとするに在り。即ち地方自治を擴張し、中央政府にも人民をして之れに參與せしむること猶ほ獨逸帝國の如くならしめむと欲するに似たり。此の報告書の發表せらるゝや、内務大臣は直に之れを押收して、編纂者を嚴罰し、農事會の議長たるエム、アリソツプ氏は投獄せられ、委員等は悉くイルクツクに遠竄せられたりき。余は爰に農事會の報告書が果して露國の危急を救済する唯一の方案を含める者なるや否やを論斷せずと雖、露國の外長的膨脹の裏面に、國民の疲



弊と之れに伴へる國家の衰微とを伏在せる状態は、此の報告書に據りて其の一斑を窺ふに足るべし。而して露國皇帝が此の状態を眞解して其の内外の政略を一變せざるに於ては、露國の未來は或は寒心すべきものなくむばあらじ。

顧ふにニコラス二世陛下は、自由主義代議政治を喜ぶの君主に非ざるべし。蓋し陛下は幼にしてボベドノスチエツフを師傅とせられ、夙に專制思想を注入せられたるのみならず、先帝アレキサンデル三世の傳へたる露化主義は、陛下に於て亦露國を統治するの大方針たり。故に芬蘭人が曾て露國官吏の專横を陛下に訴へて、地方自治の施行を哀願するに當り、陛下は之れを斥けて採用せず、地方の利害は帝國全體の利害に殉せざる可からずと勅宣したりき。初め陛下の帝位に就くや、露國の人民は陛下に期するに内政の改革を以てしたり。而して陛下は先帝の政略に循由して毫も變更する所なきがゆゑに、獨り芬蘭人のみならず、總て傳來の權利を復興せむと欲せる各地方民は、皆之れが爲に絶望したりき。

然れども陛下は先帝に比すれば一層温和にして、一層仁慈の情に富めり。其の思想は專制主義に傾けりと雖も、要するに古への所謂仁君にして、專制主義を以て善政を行はむとするのなり。唯だ露國の政治組織頗る不完全なるが爲に、執政官各自己の權力を亂用して私福を擅にし、

往々陛下の聰明を壅蔽せむとするがゆゑに、其の内外に於ける施設の動もすれば陛下の累を爲すものあるを見るのみ。露人コストマロツフ氏の舉示したる露國現時の重なる役者を見よ。

- エム、ボベドノスチエツフ 異教徒迫害者
- エム、ウキツテ 信仰自由の友にして代議制の敵
- エム、ボゴリエボシフ 學生壓制者
- 將軍、ヅワンノヴスキ 學生の友
- エム、ゴレムキン 代議制の主張者
- エム、デロツチ 平和の友
- エム、シビヤギン ウキツテの忠僕
- エム、ブレーフ ウキツテの永久の敵

露國皇帝たるもの、斯くの如き雜駁なる顧問を對手として國利民福を舉げむとするも亦難からずや。故に露國は純然たる專制君主國なりと雖も、君主の大權は却つて官權に壓迫せられ、官權獨り熾むにして、國民の事情は君主に通せざるの弊あり。之れを獨逸帝國のウイリヤム二世陛下に比すれば、其の大權の發動に於て寧ろ劣れるものあるに似たり。

露國現皇帝ニコラス二世



露國の改革家として有名なるエム、デムチンスキー氏は、曾てニコラス二世陛下に奏疏を上つて、國政改革の要を陳じ、其の文一たび倫敦タイムズ紙上に發表せらるゝや、歐洲の政論社會は、最も深き同情と大なる興味とを以て之れを讀みたり。本年一月彼れは再び露國の官府制度を攻撃したる一大論文を發表して世人の視聽を聳動したるが、其の言善く露國人民の感情を代表せるものありと稱せらる。彼れは露國の執政官を罵つて、國民を進歩の途上に指導することなく、却つて自ら國民の感情に反對せる政策を採り、以て君主と臣民との間に鴻溝を劃したりといひ、斯くの如きは政府の權力過大にして、執政官が任意の處置を爲し得るの結果なりと斷じ、昨年内務大臣ブレーツ氏が農事會を迫害したる事實を擧げて之れが例證と爲せり。彼れ曰く、農事會に於ける博士マルチノフ及びゴナコフ兩氏の發言は、唯だ農事大會は各階級より選舉せられたる代議員を以て之れを組織し、而して其の代議員には與ふるに言論の自由と人身の不可侵權を以てすべしといふに過ぎず。此の主張の正當なるや否やは別問題とするも、冷靜に之れを判斷すれば、兩氏の意見は必らずしも露國の現制度に對する謀叛なりと認むべきに非ず。然るに内務大臣は直に兩氏を拘引せしめて之れを遠竄に處せり。されば農事會の報告書公布せらるゝに及で、國民は兩氏を目して殆ど聖者にして且つ義人なりといふに至れり。夫れ誠實の意見を發表すれば則ち

遠竄せられ、而して此の遠竄せられたるものは、聖者として國民に渴望せられ、其の意見は一個の信條として國民の頭腦に藏せらる。是れ豈國家の慶事ならむやと。彼れは露國の危險を救ふの道、唯だ官府專制の主義を棄て、官民共同の組織を行政機關に採用するに在りと爲し、之れを爲すの捷徑は、先づゼムストツオー（露國の地方議會）を活動せしむるより善きはなしと論じ、ゼムストツオーの行動の公正無私なるに反して、官府の腐敗、貪慾其の極に達したるを指摘したり云々。

デムチンスキー氏は曰く、凡そ露國の官府は、國民生活の眞状態より發射せる光線を屈折せしめて、之れを我が皇帝に直達せしめざるの三稜鏡なり。現時露國人民の生活は頗る複雑にして、獨り皇帝の之れを領解する能はざるのみならず、執政官と雖も亦之れを領解するを得ず、何となれば彼等は常に憲兵に護衛せられて國民と接近することなきを以てなり。各般の事實が彼等の案頭に報告せらるゝまでには既に幾多の變更を受け若くは偽造せられ、而して最後には所謂閣臣カブレット、オウ、ニスキーの上奏の名に依りて、全く虚構せられたる事實を敍聞に達するに至る。彼れ曰く、露國に新聞なきに非ず。然れども總べての新聞は、無數の秘密檢閲を循環して、動もすれば思想の全體を抹殺せらるゝを如何せむやと。彼れは此の秘密檢閲を評して、是れ法律にもあらず、又た皇



帝の勅令にもあらずして、官府の任意に出でたる處置なりといひ、以て其の皇帝と國民との觸接を妨遏するの不可なるを説き、彼れは此の弊を除く唯一方法は、ゼムストツオーを發達せしむるの外あらずとして曰く、言論の自由を有せる大なる公機關を建設せば、之れに依りて國民生活の眞状態と接近するの執政官を擧ぐるゝこと容易なるを得べく、而して其の人物は、剛健の意力と清新なる思想を有し、夫の全生涯を行政官府に託する羊皮的顔色の官吏とは固より其の選を異にするべきや言ふを待たずと。

彼れ又た曰く、露國政府が成るべくゼムストツオーの權力を削小せむとするの方針を採れるは、其の言動の或は官府の安寧を擾たさむことを恐るゝが爲めなるべし。然れども斯る恐怖心は、要するに官海の漁業を習慣とする輩が、自己の目的の爲に寧ろ暗黒なる境界を利益とするの見地より生ずるのみ。言論の自由は決して國家の危害とならざるのみならず、良心ある政府に在ては、之れに依りて國民の眞實の感情及び輿論を知るの利益を享くべきなりと。即ち彼れは其の結論に於て、ゼムストツオーに關する考案を述べて曰く、地方行政區劃は、數個の自治體より成り、各自治體の事務は、其の自治體の選舉したる代議員を以て成れるゼムストツオーに管掌せしめ、而して各ゼムストツオーは、中央議會即ち國民的ゼムストツオーに代議士を出だすべし。此の考案

にして實行せらるゝを得ば、皇帝と臣民とを直接せしめて上下和衷の美を濟し、遂に露國をして世界の最大國たらしむるを得るや疑ふ可からずと。露國に於て代議政治を主張するものは、時として専制主義の人物より出づることあり、アレキサンダー、ノヴィコフ氏の如き其の一人なり。彼れは初め樞密顧問官の位地に居り、内政に對しては極端の専制主義を採りしに拘らず、其の後地方官として人民に直接するに於て、其の地方政治に於ける經驗は、彼れをして翻然其の主義を一變せしめたり。彼れは鞭撻と壓抑を唯一手段とせる露國行政官が、徒らに國民の能力發達を阻碍するの外に何等の效を奏する能はざるを覺れり。専制主義の行用は不道德にして且つ自滅の方向に進むものなるを信せり。彼れ豈其の先入思想の全く誤謬なりしを懺悔せざるを得むや。

之れを要するに現時の露國に在ては、内政を改革するを最も急要となす。苟も内政にして現狀態を維持するに於ては、たとひ凶暴なる虚無黨なきも、たとひカーライルの儘ける如き佛國革命露國に再現することなきも、露國は官權偏重と國民窮乏との爲めに、近かき未來に於て畏るべき危険に遭遇すべし。此の時に當り、ニコラス二世陛下にして、先づ内政改革の英斷を施すことを爲さず、偏へに領土開拓の政略を事とすることあらば、是れ所謂噴火山頭に立て舞踏するものに非ずや。行政官若くは武官として生活する一階級の如きは、自己の野心を逞ふせむが爲に、頻り



に露國の強大を世界に吹聴し、弱國小邦を威嚇して領土開拓の偉功を樹てむとす。雖も、露國の多數人民は、滿洲を經營して絶東に露西亞帝國を建設するよりも、日本と開戦して勝利を占むることの名譽を得るよりも、寧ろ内政を改革して本國人民の生活状態を進歩せしむるの施設あらむことを希望せり。況むや滿洲經營の代價甚だ高くして最早露國の力の堪ゆる所に非ず、日本との開戦は亦必勝を期す可からざるものあるに於てをや。

近時ニコラス二世陛下が農民解放信仰自由の二大綱を掲げたる勅宣<sup>エドマント</sup>を發表したりしは、露國革新の曙光として世界の注目せる一大事件なり。露國に於ける自由主義の新聞グイドモスチーは此の勅宣を評して曰く、是れ改革の一步を進めたるものなり、自由主義の勢力を發顯したるものなりと。然れども歐洲の新聞、特に英國の新聞は、農民解放、信仰自由の勅宣を認めて一個の空文たるに過ぎずと爲すもの多く、此の勅宣に依りて露國の人民が事實上の恩恵を被むることは斷じて之れあるを信する能はずと冷評したりき。蓋し露國の如き政府專權の國に在ては、形式の儼然たる勅令法律と雖も、唯政府の權力に依りて任意に之れを破壊するを得るがゆゑに、異教迫害のポベドノスチエフにして尙ほ宗務總監たる間は、專制主義の權化たるグレーツにして尙ほ内閣大臣たる間は、信仰自由農民解放の勅宣を有效ならしむること殆ど難きに似たり。是れニコラ

ス二世陛下の勅宣を嘲つて空文と爲す所以なり。然れども露國の内政改革は當面の急務なり。此の急務を棄て、唯だ國境の恢弘に専らならむとするは、決して露國の國情の許す所にあらず。而して又たニコラス二世陛下の性格と兩立するものにあらず。何となれば陛下は先帝アレキサンドル陛下と均しく平和を好むの人なればなり。陛下は皇太子たりし時、君主學の第一課目として軍事教育を受けたり。然れども其の個人的趣味は殺伐なる軍事に存せずして、平和なる生活に存したりき。陛下は其の性格の重なる點に於て先帝に類したる如く、彼の種族團練の快樂を求むるの情殷かむなるに於て最も先帝に肖たるものあり。此の情を推して之れを内に施すときは則ち自ら仁政の福音と爲る可く、之れを外に及ぼすときは則ち自ら平和主義の政策と爲らざるを得ず。乃ち夫の露佛同盟の如き、其の條款は密封せられて之れを窺ひ知るに由なしと雖も、陛下の目的が歐洲の平和に在るや疑ふ可くもあらず。されば陛下は一方に於ては益々佛國の交親を固うするを勉むると同時に、一方に於ては獨逸の友情を繋ぐの方針を執り、以て佛國をして冒險の危險より免かれしむるを謀れり。又た陛下の案出したる海牙の平和會議の如きは、悪魔の假裝會として一時の笑柄たりしと雖も、陛下の性格より見れば、世界の平和は恐らくは中心の希望たらむ。若し夫れバルカン半島問題に對しては、先帝アレキサンドル三世が稍々冷淡なりしに反して、ニコ



ラス二世陛下は頗る之を重視して、絶えず之れに干渉するの迹あり。此頃陛下が澳國皇帝を訪問し、獨逸皇帝と會見したりと傳ふるや、歐洲の外交社會は此事件を推測して、是れ刻下東歐を擾亂しつゝあるマセドニヤ事件に關して澳獨兩帝と妥協し、先づ歐洲に於ける後顧を除きて、然る後全力を絶東問題に用ひむとするに外ならずと。此の說の當否は暫らく措くも、露國のバルカン半島に於けるは、宗教及び人種の關係に於て、最も痛切なる利害を有するが故に、半島の一治一亂は直ちに露國傳來の國是たる汎スラヴ主義の弛張に關するものたり。陛下の半島問題を重視するは固より當然なりと云ふべし。然れども陛下は之れに處するに於て、尙ほ勉めて平和の手段に依るを旨とし、隨つて其の土耳其に對する態度の如きも、亦挑戰的行動を避くるが爲めに頗る穩和の氣を帶べるもの、如し。陛下が歐洲の平和を念とするや亦諒とすべきものなくむばあらず。

顧みて露國の絶東問題に對する態度を見るに、往々平和主義と兩立せざるものあるのみならず、其の施設は露國をして戰慄すべき危険に陥らしむるの傾向あるは何ぞや。余はニコラス二世陛下の平和を理想とせる名君なるを信ずると共に、露國政府の絶東政略は必らず陛下を誤るの結果あらむを恐れざるを得ず。何となれば露國が絶東問題に富と力とを注入しつゝある間は、露國は本國の疲弊と、財政の困難とに由りて濟ふべからざる内部の頽敗を招くに至るべきを以てなり。然

らば世界最大強國として列國に雄飛せる露國も、焉ぞ他日第二の西班牙たらざるなきを知らむや。近時アレキシーフ大將は、絶東問題に關して絶對無限の權力を露國皇帝より委任せられたりと稱し、滿洲に對して跋扈陸梁殆ど到らざるなく、其の狀恰も滿洲占領を永久的ならしむるが爲めに凡百の手段を使用しつゝあるもの、如し。然れども彼れの行動は決して露國人民の意思を代表し居るものにあらず、彼れは唯だ官府の權力を藉つて自己の野心を遂げむとする一種の冒險者のみ。凡そ今世紀に於ける列國の領土開拓策は二個の動力より來る。一は資本力が投資の事業を海外に求むるの慾望と、一は國民の自然的膨脹是れなり。然るに露國に在ては、海外に投資を急要とするの有餘資本なく、又た國民の膨脹力は未だ他の歐洲列國民に及ばず。而して政府獨り領土開拓策に汲々たるに於ては、是れ根軸を弱めて徒らに外輪を擴大せむとするものにあらずして何ぞや。ニコラス二世陛下にして眞に露國の尊嚴を維持せとむせば、蓋ぞ暫らく其の本に反へらざる。本とは他なし、唯だ内政を改革して、文明の露國を建設する是れなり。(三十六年十二月)

## 獨逸現皇帝

### 其一 神權政治

獨逸現皇帝



獨逸現皇帝ツキリヤム二世陛下は、天父の代理者たらむとするに於て、露西亞のザールと其の位地を争はむとせり。彼れは獨逸皇室を包被せる莊嚴無比なる燈明に對して、他の何物より發射する光線をも通過するを許さざるなり。彼れは神格と同化し、神威を夾持して、獨逸帝國の臣民を統治せむとせり。彼れ曾て言へることあり、曰く、天佑を保有せる獨逸皇帝は、唯だ造物主に對する嚴肅なる責任あるのみ。宰相も、議會も、何人も朕をして此の責任より免かれしむること能はずと。曩に皇弟ヘンリー親王が東洋艦隊司令長官に任せられてキール港を發せむとするや、親王は將士に語つて曰く、余が中心の希望は、名譽に在らず、月桂冠に在らず。唯だ神聖なる皇帝陛下の福音を率士の濱に宣傳せむと欲するに在りと。獨逸現皇帝は祖宗の紀念碑を以て伯林を飾れり、是れ神靈の宿る處なれば也。彼れは言ひき、朕の祖父をして中世紀に生れしめば、必らず聖者として衆に尊信せられ、其の墳墓は世界萬民の禮拜場たるべしと。社會黨は宗教に反對するがゆゑに、至上至高權を有する皇帝を崇拜するを知らざるがゆゑに彼れは之れを罵つて悖逆の匪徒といひたりき。彼れは帝室劇場は皇帝の機械たらざる可からず、總ての技藝家は神徳を贊襄し、皇化を謳歌せざる可からずと主張し、此理由に依りて社會主義に傾けるハツプマンの作物を帝室劇場に演せしむるを禁じたりき。教授ウキルヒョーは獨逸第一流の碩學なれども、其の政治上

に自由主義を持するがゆゑを以て頗る之れを冷遇し、之れに反してヘルムホルツは帝政主義を辯護するが爲に之れに贈與するに獨逸の最高勳章を以てしたりき。彼れは思想は實に斯くの如し。されば彼れは即位の初、先づ政府の全權を自己の手に集中せむと欲し、終にビスマークを退隱せしめて、自ら帝國宰相の實權を掌握したりき。彼れは獨逸及び皇室には特殊の天命あるを信じたるがゆゑに、一日たりとも之れを他人の指導に任ずるを好まざりし者の如し。彼れは神權政治を復興して、之れを維持するに軍隊の力を以てせむと欲し、常に軍隊は帝位を鞏固にする眞の基礎なりとの意見を主張したり。彼れが始めて此の思想を發表したるは、陸海軍人に對する演説なりき。其の一節に曰く、獨逸帝國を統一するものは、議院の多數に非ずして、軍隊及び軍人なりと。彼れは十五歳より十八歳までラツセルの高等學校に出席し、尋でボン大學校に二個年の歲月を費やしたるも、此の一般教育を受けたる後は、彼れは専ら軍事を研究して大なる趣味と才能を發揮したりき。二十五歳にして陸軍大佐に任せられしが、彼れは普通士官の如く、最も嚴格に自己の職分を盡くしたりき。彼れが此の際に於て軍隊の感化を受けたること頗る多かりしは疑ふ可からず。故に彼れの即位するや、獨逸の臣民は皆謂へらく、彼れの軍人的氣象は、彼れをしてフレデリック大王を模範とするに至らしむべく、而して其の專制的感情は、彼れをして非立憲的行動に

獨逸現皇帝



出でしむべしと。何ぞ料らむ。彼れはフレデリック大王よりも一層專制的感情に富める君主ならむとは。

彼れは議院の行動を認めて、放言空論を事とする無用有害の機關と爲し、之れを輕蔑して成るべく其の權能を削小せむとしたりき。皇帝萬能力説は彼れの理想にして、彼れの眼中には、常に議院なきのみならず、又大臣宰相なるものなく、唯だ自己を中心としたる政府あるのみ。然れども彼れは餘りに多辯にして、到る處自信を發表するが爲めに、徒らに政治上の紛争を惹き起し甚しきに至ては自ら論壇に出で、臣民と討論するを憚らざりき。現に彼れは千八百九十五年、其の自ら立案したる海軍擴張案を議會に提出し、其の議事日程に上りたる日議場に親臨して、二時間餘の長廣舌を揮ひたりき。獨逸の一軍事雜誌會で彼れの行動を評して曰く、現皇帝が祖父ウキリヤム一世と全く異なる方法を以て、獨逸を統御するは必らずしも非難すべきに非ず。然れども皇帝が常に自ら進で時代問題に干渉するは、從來存在したる皇帝の威嚴を減退するの恐れあり。凡そ皇帝の威嚴は、時代問題より隔離し、臣民をして仰いで之れを瞻望せしむるに依て保持し得べし、然るに現皇帝は、臣民をして君主と對等の位地に於て對等の論争を爲さしむるの慣例を開きたり。是れ神聖なるべき皇帝の態度に非ざるなり。今や皇帝といへる觀念は、現皇帝が屢々公

衆に向て演説を試みたるが爲に頗る俗化せられたるを見るに於て、一朝形勢變ずれば、君主制度を顛覆して米佛の共和制を之れに代へむとするの運動始まらずといふべからず。是れ實に獨逸帝國の一大憂患なりと。蓋し彼れは君主の威嚴を用うるを知らず、之れを保持する所以の用意を缺き、其の大なる才能と剛健なる意思とは、君主としての彼れが人格をして寧ろ畸形ならしめたり。但だ若し彼れをして皇室に生れざらしめば、最も時代に適當なる大政治家たりしやも未だ知る可からざるなり。

## 其二 彼れの世界政策

ウキリヤム二世陛下は、國內に於ては神權政治を復興しつゝ、同時に海外に對しては世界政策を行ひ、以て列國をして伯林宮廷の發言を傾聽せしめむと欲せり。彼れは千八百九十六年の獨逸帝國建設紀念祭に於て、獨逸帝國を世界的帝國たらしむるが爲に、海軍の大擴張を必要とせりと演説して、大に列國の政府を驚かしたりき。彼れの海軍擴張案は、保守黨、國民自由黨及び社會黨等の反對を受けたりしに拘はらず、彼れは終に議會の群議を壓倒して之れを通過せしめたりき。彼れは陸軍組織を以て神權政治を國內に維持せむとするが如くに、又艦隊の力を以て世界政策を



海外に宣傳せむと欲するなり。千八百九十九年ハムブルク港に於て一甲鐵艦の進水式を舉行したる後、彼れは市民の歡迎會に親臨して、一場の演説を爲せしが、彼れ曰く、強大なる艦隊の編制は、現時の獨逸帝國に在て焦眉の急要なり。ハムブルクの市民は、一方に於ては結合したる獨逸人の爲し得るものを表示すると共に、一方に於ては海軍力の強弱が如何に我帝國の利害に關係するの大なるかを知れり。假りに朕の熱心なる希望に反對して、朕の計畫せる海軍擴張の成立を妨げたりとせよ、帝國の位地は決して今日の如くなるを得ざるべしと。又た皇弟ヘンリー親王を東洋艦隊司令長官に任ずるに當りて、彼れが親王に訓示したる大膽なる世界政策を見よ。彼れ曰く、爾の遠征は、朕が淑聖なる祖父及祖父の大宰相が樹立したる政策の論理的結果にして、且つ朕が崇敬せる先考の遺圖なり、之れを約言せば、是れ新統一帝國の海上權を現實にする第一著なり。新日耳曼民族のハンス同盟に正當の保護を與ふるは朕の義務にして、且つ帝國の要求なり。朕は遠隔の地方に在る日耳曼の同胞を保護せざる可からず、朕は獨逸の商業をして帝國國旗の下に均等の利益を得せしめむことを望む、而して帝國の權力は即ち海上の權力なるがゆゑに、二者決して分離し得べきものにあらず。願ふに海外に在る朕の臣民は、皆帝國の海軍に依て各自の生命財產を保護せらるべきものなるを信せり。故に若し日耳曼民族の權利を侵害するものあらば、爾は

宜しく甲裝せる拳を固めて彼等を撃てよ、月桂冠は自ら爾の頭上に在らむと。彼れは世界的帝國を建設するが爲に海上權の必要を認め、海上權の必要を認むるがゆゑに、海軍の大擴張を計畫したりき。

彼れは初め陸軍の教育を受けたり。即位後英國を研究し英國の海軍を觀察するに及で、始めて海軍に對する趣味を生ずるに至りしもの、如し。彼れが海軍擴張に熱心なる、或は自から列國海軍比較表を製し之れを議會に示し、或は自ら船舶の圖案を作りて之れを造船家の參考に供し、或は海軍に關する演説を屢々試みて、國民をして陸軍に於けるが如くに又た海軍にも趣味を得せしめむと努めたり。陸軍は獨逸に於て最も完全なる發達を見たり。是れ主としてピスマーク及びモルトケの經營したるところにして、獨逸の聯邦は、實に陸軍に依りて統一せられたりといふも可なり。現皇帝に至ては、更に獨逸をして海上の主動者たらしめんと欲し、其の海軍擴張案を議會に提出せむとするに當り、自己の決心を皇帝に告げて、朕は我海軍をして少くとも陸軍の位地と平衡ならしむるまで朕の計畫を進むべしといひたりき。今や獨逸は海軍に於て急速の進歩を見ると共に、歐洲列國は、遂に獨逸に對して一大警戒を爲し、特に英國の如きは、獨逸を以て英國の殖民地を威嚇するものなりと認むるに至れり。而してウキリヤム二世陛下は、事實に於ても英國と大に海上權を



争はんとするに似たり。

ビスマルクは殖民政策の獨逸に必要なるを認めたる政治家なりしも、其の思想は常に商業上の利害を離れざりき。彼れ以爲らく獨逸は領土を擴張するの目的を有せず、故に他の列國に比すれば、東洋に於ける政治上の關係極めて少なしと。然れどもウキリヤム二世の獨逸帝國を統治するに及びて、獨逸の殖民政策は漸く變化し始めたり。即ち日耳曼民族の國民的事業を光榮ならしめむが爲めに、政治的干涉の避くべからざるに至りたることは是れなり。千八百九十年、亞弗利加の境界に關する英獨條約の締結せらるゝや、獨逸は亞弗利加大陸に於て六十五萬方哩の領土を有するを自覺すると共に、此の領土の商業及び産業に對して政治上の保護を與ふるの方針を採らざる可からざるを認識したりき。況むや現皇帝は所謂る世界政策に依て、獨逸の勢力を海外に伸ばさむとするの雄心勃々たるをや。此に於てか現皇帝は叫んで曰く、朕は世界に於て大なる義務を有せり、朕が保護せざる可からざる日耳曼人は到る處に散在せり、獨逸の名譽は海外に於ても之れを維持せざる可からず。海神の三叉槍は既に朕の手に屬せりと。是れ英國が獨逸の行動に對して、自ら安むする能はざる所以なり。

### 其三 彼れの外交

獨逸現皇帝の外交は、變幻出沒殆ど端倪すべからざるに於て實に近代外交史の一奇觀たるべし。

彼れは即位以來、間斷なく歐洲の各朝廷を訪問するに依りて、歐洲外交界に於ける最も顯絶なる人物と爲り、而も其の個人的言動の異常なる亦甚だ一代の注目を惹きたり。佛國を除くの外、歐洲中殆ど彼れの足跡到らざる所なく、土耳其帝國すら二回までも彼れの訪問を受けたりき。歐伊兩國との同盟は、祖父の最後の政策を遵奉して之れを維持したりと雖も、彼れは佛國を孤立せしめむが爲に、早くも露國と親交を結ばむとし、即位後未だ一個月ならざるに艦隊を盛裝してセントピーターズボルクを訪問したりき。而も彼れは常に露國の君臣に歓迎せられざりしのみならず、其の結果は却つて露佛同盟を鞏固ならしめたりき。千八百九十年彼れは再びキール港に於て露帝と會見し、其快活なる性情と權變極りなき才略とを以て、前時代の外交的傷痕を治すべく獻酬甚だ努めたりしも、此の會見は露帝の冷淡なりしが爲に、全く沒要領を以て終りたりき。

若し夫れ英國に對しては、彼れは千八百八十九年女皇を訪問して、從來兩國の間に存在したる反感を和らげ、爾來六年間はゾイクトリア朝廷の親友たりしと雖も、彼れが強大なる海軍を組織



せむとするの野心及び信條は、勢ひ彼れをして非英國派の首領たらしめざるを得ざりき。然れども彼れの外交は動もすれば人意の表に出づるもの多く、英杜戦争の初には、陰に聲援を杜國に與ふるの迹ありしに拘らず、後ち忽ち翻覆して、英國元帥ロバートに十字勳章を贈與し、杜國前大統領クルーゲルを伯林に冷遇して、一時獨逸の輿論を激昂せしめたりき。

彼れが日清戦役後に於て露國の爲に火中の栗を拾ふの行動に出でたるは其目的の歐洲政略に存したりしや疑ふ可からずと雖も、其の宣教師殺害を理由として突然膠洲灣を占領したる機敏の措置は、流石にウキリヤム二世陛下の本領の在る所なるべし。日本國民は、獨逸が露國を助けて日本、遼東領有に干渉したるを不快とし、又た些細の口實を作りて膠洲灣を占領したるを喜ばずと雖も、北清事件以後に於ける獨逸の態度が、漸く絶東の平和を旨とするに至りしは、日本國民の深く感謝をせむとする所なり。彼は露國の滿洲占領を以て、支那の領土保全を危くするものと爲し、其の政府をして、支那の領土保全及び門戶開放を原則とするの英獨協商を締結せしめたり。今や日露交渉断絶して兩國戦端を啓くや、彼れの政府は直に嚴正中立を宣言して、明白に他意なきを表明したり。若し之れを獨逸外交の變化といはゞ、其の變化は頗る善良なる意味を有するものと謂ふべし。

#### 其四 彼れの人格

ウキリヤム二世陛下に對する獨逸臣民の批判は、讚美の辭少なくて、非難の語寧ろ多きが如し。而して彼れを非難する重なる理由の一は、彼れが君權を極端に擴張したりといふに在り。蓋し獨逸國民は、歐洲の國民中、最も君主を尊敬する古精神に富むと稱せらる。故に過激なる民政黨社會黨を除きたる多數の國民は、光榮ある帝國の臣民たるを喜び、皇室の存在を以て國民統一の基礎なりと信せり。然れども獨逸現皇帝は、其の臣民を悦服せしむるが爲に君權を用うるよりも、寧ろ其の臣民を威服せむが爲に之を用うるの傾向あり。夫れ神權政治は唯だ仁愛に依て成功すべし。然るに現皇帝は才と力とに依て之に成功せむとするがゆゑに、其の結果は反つて忠良なる國民の性格を戕害するに至るべし。是れ現皇帝に反感を表するもの漸く増加するに至りし所以なり。

現皇帝を非難する理由の二は、彼れが心的状態の浮泛にして莊重圓滿なる帝王的人格を缺きたりといふに在り。ウキリヤム二世陛下は大なる天才と多方面の趣味を有するだけ、自ら全智全能の君主なりと信じ、カイザルは獨り其の位地に於て萬民の上に卓越するのみならず、總てに於て

獨逸現皇帝



萬民に卓絶するものなりと自負せり。此故に彼れは文學に於ても、政治に於ても、科學に於ても、技藝に於ても、宗教に於ても、其他一切の事物に於ても、常に自己の判断及び批評を試み、而して他の判断及び批評は悉く誤謬にして、獨り自己の其れのみ正當なりと思惟せり。是れ彼れの祖父は勿論、フレデリック大王と雖も未だ會て爲さざる所なりき。斯くの如き性癖は君主としては最も大なる缺點を現はすものなり。

彼れを非難する理由の三は、其の感情の冷熱甚だ急激なりといふに在り。彼れは即位未だ日あらざるに忽ちビスマルクを免職して、獨逸臣民をして其の冷酷なるに一驚を喫せしめ、而も其死するや彼れの祖父の墓側に埋葬して特殊の敬意を表したりき。即位の初は社會改良主義に熱心なる同情を興へ、會て伯林に歐洲大會を開き、労働者の時間及生活状態と關聯したる問題を討議せしめたりしに、間もなく一切の社會黨に反對し、彼等は總て國家の賊なり皇室の敵なりと宣言したりき。是れ決して皇帝の威信を保つ所以の道にあらず。

之れを要するに獨逸現皇帝は、君主として恐らくは完全の典型にあらず。彼れは君主たるに最も必要な資質の分量よりも、寧ろ必要ならざる資質の分量に富めるを以てなり。然れども其の頭腦の間斷なく活動して常に何事をか爲さずば止まざらむとするの人格は、亦一代の耳目を聳動

するに足れるものなくんばあらず。(三十一年三月)

### 韓國皇帝陛下

滿洲丸便乗の日本國會議員及び新聞記者等が、戰地視察の途次上陸して京城に到るや、韓國皇帝陛下は、特に彼等に謁見の榮を興へて、親しく彼等と辭令を交換し給ひぬ。一種の磁器シキに富める陛下の人格は、忽ち彼等の間に噴々たる好評を博したりき。彼等は曰く、韓國皇帝は明君なりと、然り韓國皇帝陛下は、李朝歴代の君主中最も賢明なりと稱せられ、其の政治上の智識に於ても、恐らくは韓廷復た一人の陛下に及ぶものあらざるべし。現に京城に於ける政治的活動は、總べて陛下を以て中心と爲し、隨つて大小内外の政務悉く陛下の親裁する所にして、殆ど輔弼の臣に待つ所あることなし。陛下は信任の大臣を有せず、故に京城の政府には責任を有する大臣なし。有體にいへば京城の政府は事實上唯だ一人政府のみ。皇帝陛下は即ち京城の政府なり。

且つ陛下は頗る社交に長じ、風采閑雅、辯舌流暢にして、献酬の間に人心を收攬するの術甚だ巧みなるものあり。而して其の尊貴と謙遜とを調和したる如き態度と、稍々内氣なれども愛嬌乏しからざる容貌は、皇帝としてよりも、寧ろ個人として愛すべき天分あるを表するがゆゑに、初



對面を得たる外人は、大抵陛下に同情を捧げざるものなし。又た陛下は、頑冥なる排外家にあらずして、善く外人を引見し、無官の居留者と雖も、屢々拜謁を賜ふことあるを以て、外人間に於ける陛下の人望は甚だ高し。

然りと雖も、陛下の智力は決して圓滿に發達したるものにあらず。其一方に於ては極めて明晰なる判斷力、驚くべき機敏を示すことあるに拘らず、他方に於ては全く暗愚、事理を辨せざること小兒の如きものあり。蓋し陛下獨特の長所は、暗室に於ける秘密の計畫を案出するに在り。陛下は此の長所に依りて、從來屢々隣國の外交家を困惑せしめたりき。探偵術は陛下の最も喜び給ふ所にして、隱謀は殆ど陛下の日課なりといふも可なり。而して陛下は常に隣國に對して隱謀を施すのみならず、輔弼の臣と雖も常に陛下の隱謀中の物たらざるなし。陛下の主我的意思は甚だ強烈にして、其の理想とせらるるものは、唯だ李朝の王統を安全ならしむること是れのみ、陛下が自ら政權を總攬して敢て之を臣下に委ねざるは之れを臣下に委ぬるを以て王統を危くする所以なりと信するが爲めなり。唯夫れ陛下は自己の生命及び李朝の休戚に關心することは是れ急なれば、何の違あつて國家人民の爲めに永遠の大計を思ふことを得むや。されば現在禍福説は頗る陛下の人生觀に投合して、迷信を傳播する巫女は最も宮中に歡迎せらるるに至る。

日本の政治家は、曾て韓國の獨立を扶植せむが爲めに清國と戰を開きたりき。又た内政の改革財政の整理を京城の政府に教へて、大に先進國たるの義務を行はむとしたりき。然れども韓國皇帝陛下は日本政治家の爲す所に對して餘り多くの感謝を表せざりしのみならず、却つて狐疑不安の眼を以て之れを視ざるを得ざりき。何となれば獨立扶植といひ、若くは内政改革といふが如きは、未だ李朝の王統を安全ならしむる所以の道にあらざるを以てなり。由來韓國は眞の獨立國たる歴史を有せずして、寧ろ列國の正冊を奉じ、其の保護に賴るを以て萬全の國是と爲し、上下君臣を擧げて事大思想に支配せられて曾て之れを怪むものなかりき。故に陛下の患とせらるる所は、必らずしも強國の壓迫干渉其物に非らずして、古へより絶えず李朝を威嚇したる豪族が、外來の勢力と聯結して王室を危くするあらむことを是れ患ふるなり。具體的に之れを言へば、京城の政治團に於て、所謂日本黨、所謂露國若くは所謂清國黨なる名稱を冠する黨派の出現は陛下より之れを見れば、悉く是れ政權爭奪を事とするの匪徒なるがゆゑに陛下は其の孰れを敵とし孰れを味方とすといふが如きことなく、唯だ巧みに之れを操縱するを勉め給ふ。陛下の心事亦悲しからずや。

願ふに李成桂の王朝を創めしより茲に四百六十餘年、而して其の間眞の王政と名づくべきもの



僅に二三世ありしに過ぎずして、其餘は總て豪族政治若くは外戚政治ありしのみ。太甚しきは王室の式微と共に、王族概して貧困に陥り、中には自ら耕耘機織に従事して、僅に一家の生計を維持するものあるに至る。先王哲宗の如きも。其の未だ王位に就かずして、父全溪君に従ひ江華府に在るや、日に犁鋤を執つて常民と伍し、殆ど自ら其身の龍孫なるを知らざるほどなりき。然るに其一たび大統領を嗣ぐに及で、豪族互ひに新王を擁して權を争はむとしたりしが、金氏入つて后妃と爲るや、滿廷終に悉く金族に占領せられ、特に后妃の父金賢根は、耳目の慾を新王に進めて其の心身を嘗亂せしめ、竊かに王權を盗みて天下に號令したりき。今上皇帝陛下も亦た貧窶の間に成長し給へり。陛下は故大院君の第二子にして、李戴冕と稱し奉る。父大院君は久しく市井の間に放浪し遊俠の徒と交り、落魄の極、屢々陶甞を賣つて衣食を支へたりといへば、其の窮の甚しきを想ふべし。當時哲宗崩じて嗣なきや、翼宗の王妃を出だしたる趙家は、同族趙寧夏を立て王位を繼がしめむとし、憲宗の王妃を出だしたる洪家は、亦同族洪淳馨を以て哲宗の繼承者たらしめむとし、而して哲宗の後、妃金氏は洪趙二家の議を排して李戴冕を王位候補者たらしめ、群臣終に之れに賛して戴冕を王宮に迎ひ入れたりき。知るべし趙洪二家が各々外戚の威を狹みて李朝を移さむとするの野心ありしを。

斯くの如くにして幸運なる今上皇帝の即位を見たりと雖も、陛下の周圍は尙ほ隱謀の空氣を以て満たされたりき。大院君は政權に接近すべく領議政趙斗淳と結托せり。金族の一派は、大院君の政治に干渉するを恐れて、寧ろ彼れを敬して遠ざけむと努めたり。金族勝たむか、大院君の政治的運命は絶望なり。大院君勝たむか、金族に對する大打撃は必らず來らむ。而して此の票決は翼宗の未亡妃に依て與へられたり。曰く、嗣主尙ほ幼にして、國事多難なるの時、大院君宜しく大政に協贊すべしと。彼れは既に攝政の任に當れり。新内閣は彼れに依て作られたり。金族一派は全く圏外に掃蕩せられたり。大院君の勢力は巨人の濶歩するが如く、宮中府中に擴張せられたり。是に於てか彼れは積衰積弱の李朝を挽回し、豪族專横の宿弊を排除せむが爲めに、先づ王室の威嚴を立つるの必要を認めて景福宮の大工事を興せり。次に階級制度を打破して、人才登庸の門戸を開き、苟も才能あるものは市井微賤の出と雖も之れを重用し、之れに反して無能無術なるものは門閥高しと雖も之れを黜けて假藉する所なきを方針とせり。彼れは確かに改革の要點を失はざりき。李朝は彼れの施設に依て、頓に威嚴と繁榮とを加へたりき。豪族は震懼し、國民は驚駭したりき。

然れども外戚政治は、間もなく故閔后殿下に依て復興せられたりき。殿下は故閔致録の女にし



て、其の後妃に冊立せられたるは、實に大院君夫人の發議に由れりと雖も、大院君は初めより殿下に慊焉たらざるもの、如く、曾て殿下を冷評して女博士といひ、以て其の術學を悦ばざりしは著明なる事實なり。若し殿下をして尋常普通の女流たらしめば、如何に外戚政治を復興せむと欲すと雖も、到底大院君の猛手鐵腕を牽制するを得可からず。況むや大院君は皇帝陛下の生父たるに於てをや。然れども閔后殿下は韓國千古の才女なりき。其の好むで政治に干渉し給へるは、后妃として決して歎美すべき徳にあらずと雖も、其の機變百出、能く大院君と對抗したるのみならず、終に一たび閔族の天下を造りて、宮府の實權を收められたる經營の才略は亦た甚だ珍とすべし。唯だ閔族の利益と王室の繁榮と相兩立し得べきを信じ、極力外戚政治の扶植を謀りたるは、其の短見淺識正さしく婦人的なりと謂ふべし。

聞く初め現皇帝の鄭元容に迎へられ王宮に入らむとするや、惶懼措く能はず、次ぐに涕泣を以てし、元容を抱擁し歸らむことを求めて止まざりしと。因て思ふ、陛下は決して本來の隱謀家に非ざるのみならず、寧ろ平和を樂み、無事を好み給ふ仁人の質あり。然れども陛下は即位以來常に隱謀の舞臺に立ちて、各豪族野心家の政權爭奪を事とするの狀を視、且つ彼等が皆自家の利益を求むるの外に何等の希望なきものなるをも知り、彼等に依て李朝の安固を圖らむとするは、恰

も盜賊を以て倉庫の護衛たらしむるに同じき所以を解し、又た韓國の君主は、豪族の擁立する所なれば、王位の繼嗣問題は常に隱謀の源泉たるを免れざるを悟り、而して韓國の人民には健全なる尊王心なきことを認めたるに於て、陛下たるもの如何ぞ身世の甚だ不安なるを感せざるを得むや。特に生父大院君と后妃閔氏との政争の結果は、最も深酷慘烈なる感觸を陛下の頭腦に印したるものありて、爾來陛下は或る點に於いて極端なる主我的人物となり、唯だ自己の生命及び李朝の社稷を保持するを唯一の希望と爲し給ふに至れり。

余が我國の政治家に望む所は、第一に韓國皇帝陛下の位地を會得すること是れなり。何となれば韓國に於ける一切の政變は總べて景福宮の内奥より生ずるものなるがゆゑに、先づ皇帝陛下の地位を會得せざれば、確乎たる對韓策の成立を見る能はざればなり。曾て我國の元勳井上伯は、二十個條の改革案を携へて京城に來り、恭やしく之れを韓皇陛下に提示して、忽ち陛下の嘉納を得たりき。而して之れが實行の任に當らしむべく新内閣を組織し、井上伯は實に其の内閣顧問として采配を揮り、時としては五時間以上の訓示演説を以て韓廷の大臣を恐縮せしめたることありき。而も井上伯一たび京城を去るや、排日本黨は忽ち王宮の内奥より起りて新内閣を襲撃したりしに非ずや。蓋し井上伯の改革案は政治論としては頗る剴切を極めたるものなりと雖も、當時の



韓國は、唯だ閔族の利害と李朝の休戚とを念とせる王室を第一級とし、外戚の權威を利用し、若くは朋黨相比周して偏に一門一族の繁榮を求めむとする豪族を第二級とし、而して外邦の勢力を第三級とし、而して多數の國民は全然政治的階級に算入せられざるの状態なりしに於て、國家國民を本位とせる政治主義を韓國に行はむとするは豈誤らずや。されば井上伯再び京城に入るに及び、翻然其の政策を一變して閔族擁護の方針を執り、閔后をして井上伯は心術公正にして我社稷の爲に憂ふる忠厚の人なりと賞賛せしむるに至る。而も其の最初に發表したる燦爛たる二十個條の改革案は、是れと共に紙上の空文となりぬ。然れども閔族擁護は事實上外戚政治を是認する所以にして、外戚政治を是認するは、政權爭奪の弊を根絶する所以に非ず。政權爭奪の弊を根絶せざれば、李朝の王者をして安眠せしむる能はず。是れ久しからずして大院君と閔后との決戰的政争を開き、終に閔后をして乾清宮の兇變に遭遇せしめたる所以なり。當時日本の公使は實に大院君の機械なりき。

是に於てか對韓策の要點は自ら明白なるべし。即ち閔后殿下の薨去は、一方よりいへば李朝の王統を鞏固にしたるものなりと雖も、當時日本の政治家は、對韓策の善後手段に於いて機敏と大膽と遠見とを缺き、唯だ周章狼狽して手を半島より引きたるがゆゑに、日本の韓國に於ける威信

は一時殆ど全く失墜したりき。余を以て之れを観れば、日本の政治家は、韓國皇帝陛下の地位に付て未だ明晰なる理會を得ざるものゝ如し。陛下の地位は孤立なり。陛下は王室の藩屏を有せずして、反つて豪族跋扈の歴史を有し給へり。陛下は決して韓國を以て日本の保護國たらしむるに異存なしと雖も、是れと共に陛下は李朝の安全を維持するの擔保を日本に要求し給ふべし。陛下は韓國の歴史に通曉し、韓國が古來如何なる國際的地位を有し、又現時如何なる状態の下に存立し居るかを領解し給へるがゆゑに、徒らに有名無實の獨立國として間斷なき國際上の煩累に苦しむよりも、寧ろ強國の保護國と爲りて其の統治の下に平和の世界を求め、以て政治上より來るべき總べての苦痛を解脱するは、恐らくは陛下の最後の祈願なるを疑はず。

故に日本の政治家は、荒蕪地開墾といふが如き利益問題に著手するの前、先づ李朝の休戚問題を解決せよ。是れ必ずしも非常の難件に非ず。唯だ韓國の階級制度を打破して貴族の特權を廢すること是れ一。列國に派遣しつゝある韓國の外交官は悉く召還せしめ、韓國の軍備は之れを撤去せしめ、日本軍隊をして其の國防の任に當らしむ是れ二。韓國の警察行政は亦日本人をして之れを主管せしむること是れ三。要するに日本果して實力ある保護國として韓國に臨み、以て韓皇陛下をして眞に實力に信頼せしむるを得ば、陛下は必らず本然の人格に復し、景福宮中春夢濃かな

韓國皇帝陛下



る生涯の趣味に満足し給ふや必然なり。若し夫れ日本にして實力ある保護國たるを得ざらむか、韓皇陛下は、更に實力ある保護國を得て、之れに韓國の統治を托せらるべし。事大政策は韓皇陛下の信條なればなり。日清戦争の際、米國新聞記者クリールマン氏の韓皇陛下に拜謁するや、陛下は『韓國今方に危急に在り、朕は特に北米合衆國の義侠に信賴す』と語り、次に米韓の關係を説て曰く、北米合衆國は、最初に韓國と條約を締結したる國なり。而も其の條項中には、韓國危急に際せば、合衆國は之れを援くべしとの一約束を含めり。朕は合衆國が此の約束を行ふは正しく今日なるを信ずと。クリールマンが『然れども合衆國は今日如何にして韓國を救ふべきか』と問へるに對して陛下は極めて無難作に、若し合衆國にして若干の軍隊を朕の宮殿に遣はし、以て朕の身體を保護せば、形勢必らず一變すべしと答へたりき。夫れ韓國は當時日本の保護に依り幸ひに清國の羈絆を脱したりき。而も陛下は別に合衆國の保護を求めむとしたりきとせば、陛下の事大思想は圓融無礙なりといふべし。又た陛下が曾て世子及び世子妃を從へて露國公使館に幸し給ひし時、竊かに衛兵の目を掠めて日本の公使館と秘密の通信を爲しつゝありしは事實なりといふものあり。果して然らば、日露兩國の外交家は、孰れも陛下の玩弄物たるを免かれずといふの外なし。其の權略術數に富み給へる實に斯くの如く、土耳其皇帝と雖も恐らくは遠く陛下の老

獯に及ばざるべし。若し韓國が列國の衝争場たること土耳其の如くならしめば、陛下は必らず其の長所に依て大なる成功を博すべしと雖も、韓國は國內の事情に於ても、將た國際上の關係に於ても、土耳其とは大に其の趣を異にし、最早日本の保護を離れて其の存在を全うすること能はざるは列國の均しく認識する所たるに於て、韓皇陛下は亦永く日本に信賴するの安全なるに如かざるべし。日本の政治家亦十分の敬意と眞實を以て陛下の尊嚴を保持し、其の王統を鞏固にするの策を案じて可なり。

聞く我國第一流の政治家伊藤侯は、韓皇陛下より顧問招聘の親翰を受けたるに際し、始めは心稍々動かさるも、昵近の政友之れを切諫したるが爲に、終に韓國行を中止するに至れりと。余は謂へらく其の中止は甚だ可なり、中止せずむば侯は必らず悔ゆるの時あらむと。蓋し韓皇陛下は、三十餘年間の政治的惡戰に由て一種の聰明を養成し得たり。故に韓皇陛下は智を以て服す可からず、術を以て欺く可からず、唯だ兵力を以て信賴せしむるを得可きのみ。若し日本の政治家にして、虚喝と猿智慧とに依りて韓國を經營せむとせば、其の失敗や必らず既往の如くならむ。夫れ保護國を有するは大國の事なり。大國たるものは堂々として恩威併び施すの大經綸あるべし。何ぞ敢て韓國と小利害を争ふことあるべけんや。韓國の君臣は、決して漫りに大國に反抗するもの



にあらず、唯だ大國たるの實力なくして大國らしく高慢顔するものに反抗するのみ。大院君の攝政初年に、露國軍艦來航して國交を求む。大院君直に之れに答へて曰く、我韓國は大清國皇帝陛下の統治し給ふ所なり。國交の事は宜しく之れを大清國に謀る可しと。是れ必らずしも一時の權略に出でたるに非ずして、亦大院君の自認する所を聲明せるものたるや疑ふ可からず。頑強にして尊大自ら持せる大院君すらも、其の半島の國家を視ることの卑きこと斯くの如し。事大思想は韓國の君臣に於て、殆ど一致したる且つ鞏固なる根柢を有する國民性なりといふも亦可なり。若し夫れ國家獨立の觀念は、是れ日本の政治家に依つて始めて吹き込まれたるものなり。韓國の群小は、未だ獨立を保持する所以の力と位地とを考へずして、先づ其の名と意義との甚だ快美なるを悦びたるものゝ如し。然れども韓皇陛下は、善く韓國の歴史を記憶し給ふがゆゑに、最初より獨立國としての位地を永遠に保持するの頗る困難なるを十分自覺し給へり。嗚呼是れ實に陛下の自覺なるべし、又た必らず自覺ならざる可らず。此時に當り、日本政治家の韓國を經營する、何ぞ區々の智術を要せむ。唯だ韓國皇帝陛下をして日本の大國たる所以を承認せしむるにあるのみ。

(三十七年九月)

### 近代文明に呪はれたる韓國太皇帝

若し韓國皇帝をして近代文明の主義と諧調する頭腦を有せしめば、其の才力は少なくとも暹羅國王クラロンコルン第一世の成し得たる所を爲すに於て餘りありしは疑ふべからず。太皇帝は千八百六十四年を以て十三歳にして即位し、韓國を統治すること四十三年の久しきに及べるも、其の治績は毫も舉らずして、徒らに國政の紛糾を極め、延いて絶東の平和を破り、終に日本を宗國として、之れに托するに社稷の保護を以てするの止むを得ざるに至れり。顧みてクラロンコルン第一世を見る。彼は千八百六十八年先王マハモンクトの後を嗣ぎ、十五歳にして暹羅國民に君臨したれば、其の即位より今日に至るまで凡そ三十有九年。而して此の間熱帶亞細亞の諸邦が前後相率ゐて強國の併合する所となりしに拘らず、獨り彼は能く暹羅をして完全なる獨立の體面を維持せしめ、世界を舉げて其の運命の異數なるに驚歎せざるものなからしめたり。蓋しクラロンコルン第一世は、即位以來常に善良にして確實なる意見を抱き、東洋的偏見及び舊思想を棄て、近代文明の主義に基ける政策を行ひ、銳意治を圖りて歐洲列國と對等の位地に達せむとするの熱誠なる希望を有せり。従つて列國は亦彼れが有爲にして國民的進歩を指導するの統治者たるを承

近代文明に呪はれたる韓國太皇帝



認すると同時に、又暹羅の獨立及び繁榮に對して自然に深厚の同情を寄與せざるを得ざるもの、如し。

顧ふに暹羅の位地たる、英領緬甸と佛領安南との中間に介在し、公法上の所謂緩衝國の形勝を占め、且つ歐洲列國の東洋貿易に於ける要衝の方面に當れり。是れ正さしく暹羅の獨立を安固ならしむる特殊の原因たるに相違なしと雖も、此の外部の關係と、暹羅の内部の發達とが互ひに相俟つて離るべからざるの結合あるも亦注意すべき事實なり。何となれば苟も暹羅の政治にして全く近代文明の主義と相容れざらしめ、其の統治者にして國民的進歩を指導するの能力なからしめば其の外部の關係は忽ち攪亂せられて、勢ひ其の獨立を危くするの禍機を發すべきを以てなり。クラロンコルン第一世は、幼にして暹羅駐在英國領事レノウエンス氏の夫人に就きて英語を學び、英書を讀み、略々近代文明の性質を領解する所あり。尋いで千八百九十七年英國を経て歐洲列國を巡遊したりしが當時批評に長する一英人は、彼を稱して圓満なる英國紳士に比すべき人格の典型なりといひたりき。彼は貴族學校を設立して貴族の子弟に英國的教育を施し、又王太子を英國に留學せしめ、オックスフォールド大學に於て最新の學術を修めしめたり。彼は最も熱心なる英國最負の人にして、盤谷府の官立諸學校は、殆ど總て英人をして之れを監督せしめつゝあり。彼れが

政策の有望なる傾向を有するは、恐らくは英國の感化に由るもの多かるべし。彼は千八百八十六年を以て既に奴隸解放の法律を發布したりき。彼れが千八百七十四年に創設したる立法院は、更に九十五年に於て改造せられ、漸次立憲政治に進むの段階となれり。其他司法、財政、交通、及び地方行政に關する施設、一として近代文明の主義に遵由せざるなく、又永續性の自治的能力を顯證せざるなし。即ち暹羅が熱帶亞細亞に於ける唯一の獨立國たるを得るも洵に故ありと謂ふべし。

韓國太皇帝は必ずしも開昧の人君にあらず。其の辭令は以て非を飾り諫を拒むに足り、其の老獯は以て機變に應じ一時を糊塗するに足れり。然れども彼は到底代表的韓人たるに過ぎずして其の思想の偏僻狹隘なる全く近代文明の主義と相容れざるを如何せむ。彼は韓人の性格を知らず、文明國民の性格を知らず、韓國の死文死法に熟通すれども、文明諸國の新制度に熟通せず。其の智識は小事に明かにして大體に暗く其の感情は守舊的にして進歩的ならず。是を以て彼は即位以來會て自ら奮つて國政の改革に任じたることなく、強ひて近代文明の東漸を防遏して、古朝鮮の傳來精神を保守せむとしたりき。彼は統一的中心を有する近代文明の不可抗力に反對して、迷信と偏見と腐敗と及び不秩序との團塊たる宮廷政治を維持せむと試みたりき。此の頑冥固陋なる態



度は屢々韓國をして絶東に於ける國際的噴火口たらしめ、一たび發して日清戦争となり、再び發して日露戦争となり、其の結果は日韓協約に導かれたる新時代を開き、世界は韓國に於ける日本統監政治の設定を以て必然且つ正當なる歸著と認むるに至れり。

夫れ韓國には曾て國家獨立の歴史なく、或は日本に朝貢し、或は支那歷朝の正冊を奉じ、古來久しく事大主義を以て經綸の信條と爲したりき。現に太皇帝治世の初期に於ては、清國は屬邦を以て韓國を遇したるも、韓國の君臣は亦自ら此の状態に妥如たりしに非ずや。事實をいへば、清國は唯だ宗國の名を收めて、一切韓國の内政に干渉せず、僅に世子の冊立、君位の繼承に關して、清國皇帝の裁可を受くるを慣例と爲さしめたるに過ぎざりしを以て、單に半島に於ける李家の尊嚴を保ち、且つ其の繁榮を圖るのみを知らる太皇帝は、其の身の壯麗なる宮殿に住み、直隸の政府を有し、文武百官を進退黜陟するの大權を總攬したるに満足し、未だ國民統治の王道を十分領會せず、又之を正當に實行するの意あらざるに、獨り自ら神聖なる專制君主として半島に制令せむしたりき。既にして日本が隣邦指導の責任を執りて、清國の宗主權を韓國より撤去せしむるや、太皇帝は勅令を發布して國號朝鮮を大韓國に改め、王を太皇帝と稱し、大韓國太皇帝は無限の君權を享有し、政體は公法に所謂る自立政體なりと宣言し、而も其の自立政體たる所以の實力

なきは、依然として舊の如くなりしのみならず、陰に陽に日本の好意的指導に悖りて、却つて更に露國に倚るの事大主義に出でたりき。日本の使命は近代文明に適合せる政治組織を韓國に扶植して、日韓兩國の關係を平和の基礎の上に置かむとするに在りしが故に、苟も此の使命を阻碍するの虞ありと信ずる原因は、如何なる高價を拂ふも必らず之を排除せずむば止まざらむとしたりき。是れ三十七八年の大戦役を行ひたる所以にして、日本は此の大戦役に依りて、其の韓國に施さむとする所を自由に施し得るの位地に到達し、従つて日韓協約の旨意は、又文明諸國の承認する所となれり。太皇帝たるもの唯だ當に必至の運命に服従するの一事あるのみ。復た何をか悲み、何をか憂へむ。

且つ韓國太皇帝は、王者の虛榮心あれども、有爲の統治者たる資質なく、偏へに虚偽と隱謀とを以て政略の要を得たりと爲し、其の理性の光を缺き、常識の響を有せざるの甚しき實に驚くべきものあり。今一々其の事實を列舉せざるも、伊藤統監に對する最近の行動は、實に之れを證して餘りあり。伊藤統監は容易に人に欺かれざる聰明を有する政治家なり。何ぞ敢て輕ろくしく太皇帝に許すことあるべけむや。但だ太皇帝は韓國禍亂の源泉たるに於て、先づ之れに施すに新時代の洗禮を以てせむと努めたるは、勢ひ統監政治の効果を收むるの第一用意たらざるべからず。



故に伊藤統監は、常に太皇帝に向て切々懇々の啓沃を盡くし、以て太皇帝をして日韓の關係を正解する所あらしめ、徒らに自ら大勢と背馳して無益の煩悶に陥らざらしめむと期したるもの、如し。然れども滿身渾べて虚偽を以て成れる太皇帝は、表面に於ては深く伊藤統監に信賴するの巧言令色を爲しつゝ、裏面に於ては宮中の雜輩、半知半解の愛國者を使喚して間斷なく排日運動を起さしめたりき。統監府開設以來常に絶えざる地方の小亂は、疑ひなく太皇帝の隱謀と聯絡したるものなり。若し夫れ平和會議の密使事件が、太皇帝自ら二三の惡策士に託して演じたる喜劇に相違なきは掩はむとして掩ふべからざる事實なり、而も太皇帝は伊藤統監の詰問に對して、朕此の事あるを知らずといひ、若し確證あらば之れを示せと放言して平然たりき。太皇帝の隱謀は一として成功したるものなきに拘らず、彼は猶ほ隱謀の迷室より脱却せずして、讓位の後も百方小刀細工に腐心したりき。元來隱謀は韓國政治史の骨子にして、王位繼承問題は、豪族の權力消長と相關聯し、互ひに因となり果となりて隱謀を醸成せざるなく、太皇帝の治世に至りて、更に之れに加ふるに、對外關係より來るの活劇を以てしたれば、宮中は全く隱謀の府となり、神經質の太皇帝をして終に深刻なる隱謀家たらしめたり。彼は太皇帝を以て寢殿に入り、日没を以て臥床を離れ、護衛あるに非ざれば、一步も宮中を出づることなし。是れ暗殺を恐るゝが爲なり。彼は食

膳を吟味すること頗る嚴重にして、其の器皿は必ず自ら之を檢閲すといへり。是れ毒殺を憂ふるが爲なり。聞く土耳其皇帝の食卓に上ぼる器皿は、總て主膳司の捺印ある赤き蠟蜜を以て封じ、給仕をして士丹の面前に於て之れを解かしむと。何ぞ太皇帝の士丹に似たるの太甚しきや。士丹は又電話を目して隱謀に利用せらるゝの虞ありと爲し、之をコンスタンチノール府内に架設するを禁じたりと聞く。知らず太皇帝は亦同一の感なきを得るや否や。之れを要するに斯くの如き不安の空氣に圍繞せらるゝ太皇帝を以てして、虚偽と隱謀との奴隸と爲らざらむと欲するは亦難しと謂ふべし。

古來虚偽と隱謀とを以て大事業を成したる王者甚だ多し。希臘の哲學者ゼノフォンは虚偽隱謀の王者に必要なるを説き、大事業を成したる王者は、強力のみを頼らずして必らず人を瞞著するの術を盡せりといひたり。マキアヴェリも亦同一の見解を有し、國力發達して權詐を要せざるに至るまでは、之れを用ゆることの誠に止むを得ずと爲し、羅馬の如きも、其の開國の初より、大國を成すに必要なる手段は皆之れを用ゐ、權詐を行ふに於ても敢て他國の下に出でざりしを斷言したり。然れども近代文明の指示する所に依れば、國家の勃興は、單に強力によつて之れを求め得べからざると同時に、虚偽隱謀は決して大國を成す所以の道にあらざるなり。興國の最要因子



は、豐富なる日新の知識、隨意に之れを増加し得る力、及び之れを國民の利益に適用し得るの才にして、換言せば國民生活の諸般機關に於ける科學的組織と其の運用即ち是れなり。特に進歩したる理想に率由せる、立法行政上の改善は、國家の行動及び權義に關する國民の觀念を刷新して、能く國際競争場裡の適者たるを得せしむるに足らむ。今や韓國の自ら立つ能はずして日本の保護國たるを免がれざるに至りしは他なし、其統治者たりし大皇帝が、常に虚偽と隱謀とを以て内外に臨み、近代文明と適合する政策によつて國民生活の發達を圖らず、唯だ事大主義に依頼して一時の利害を制せむとしたるに在り。是に於てか余は安南に國の由來を述べて、之れを韓國と對照するの興味あるを覺ゆ。

安南は曾て韓國と均しく、清國の正冊を奉じて其の外藩たる關係を有したりしが、千七百八十七年國王福映は、佛國に使節を派して、ルイ十六世の政府と保護條約を締結したりき。是れ佛國の要求に出でたるにあらず、當時安南國王は、佛國の援助を藉りて内亂を戡定せむと欲したるが爲なり。爾來條約を締結若くは改訂すること五回、兩國戰を宣すること亦五回、而して一戰一約次第に佛國の勢力を安南に發展せしめ、千八百九十一年佛國が印度支那總督を置き、ラチヌサンを以て之れに任ずるに及びて、安南王國は實際に於て佛國の領地となるに至れり、蓋し事の此に至

りしは、安南國王の事大主義が、韓國大皇帝の其れよりも一層拙劣に濫用せられ、且つ其の虚偽隱謀を用ゆるに於ても、亦韓國大皇帝に毫も譲らざりしが爲なり。

安南國王福映は最初の保護條約により、佛國の援兵を藉りて内亂を戡定したりしに拘らず、其の内亂既に戡定に就くや、別に中興の業を清朝に稟報して封爵を受けたりき。尋で千八百七十八年邊境の叛亂起るに當りては、國王弘住は更に援兵を清國に求めて之れを平らげ、千八百八十年には佛國の拒止を肯むせずして朝貢使を清國に遣はし、以て安南は清國の外藩たることを特記したる表文を捧呈したりき。是れ豈事大主義の濫用にあらずして何ぞや。是に於て清佛兩國は安南問題に關して國際上の爭議を惹起し、終に佛國の發議によりて安南の保護權を分有するの主義を採用し、江河の左岸を清國の保護區域とし、其の右岸を佛國の保護區域とするの條件を協定したり。然れども千八百八十三年に調印したる佛安新保護條約に於て、佛國は安南の外交關係を主宰するは勿論、其の軍事、司法、行政、及び財政等を監督するの權利を得て、清國の宗主權を安南より撤去せしめたり。是れ安南の事大主義が適々佛國の利用する所となりし結果のみ。且つ歴代の安南國王は、皆虚偽と隱謀とを事とする外に何等の爲す所なく、第一回の佛安戰爭は、實に安南國王が佛國の提督を欺き殺さむと計りたるに起りたりき。千八百五十六年佛國の使節安南に到りし



時の如き、國王は管に之れを引見せざるのみならず、却つて其の軍艦を砲撃せむとしたるを以て、佛國の使節は直に順化河口の砲臺を撃碎せしめ、且つ是れと同時に安南政府の無禮を詰責したり。而して安南の官憲は百方口實を設けて陳謝しつゝ、其の軍艦の退くを見て忽ち佛國宣教師を虐殺するの暴行を演じたりしにあらずや。其後千八百八十五年佛國が、ド、ゲルシー將軍を東京總督に任じて安南に赴任せしむるや、將軍は阿弗利加兵の一部隊を引率して順化府に入り安南王に信任状を呈示して府城内に次せしに、其の夜安南國王は卒かに二萬餘の軍隊をして將軍を襲はしめ、火を其の營舎に放ちて之れを焚殺せむとしたりき。若し夫れ其の一面に於て佛國との保護關係を約しつゝ、一面に於て屢々清國に倚りて立たむとするの隱謀に汲々たる如き、將た宮廷隱謀の世々絶えずして暗殺毒殺の間斷なく行はるゝの寧ろ韓國に過ぐるものある如きは復た言ふを待たず。夫れ斯くの如くにして亡國の運命を免かれむとするも豈得べけむや。

凡そ國際競争は、猶ほ個人間の競争に於けるが如く、亦適者生存の天則に司配せらるゝが故に、或る特別の政治的關係に幫助せらるゝものゝ外、弱小國が完全なる獨立を維持することは甚だ困難なる事業なり。然れども近代の國際競争を指導する勢力の最も優越にして確實なるものは、科學を以て基礎としたる各種の經綸なり。所謂る近代文明の主義なるものは是れなり。偏見及び舊思

想に司配せらるゝ社會、有機的組織の發達せざる國家、世界の平和及び進歩に協力せざる國民統治者、人類の共同生活と相容れざる排外的精神等は、皆此の主義の敵とする所なり。苟くも此の主義に遵由するものは、小弱國と雖も能く其の獨立を維持するを得べく、此の主義に背反するものは、強大國と雖も完全なる獨立の體面を保つ能はず。暹羅と安南とは、其の國力に於て會て軒輊する所なしと雖も一は他國の領地となり、一は能く獨立王國の待遇を世界より受く。韓國太皇帝にして此の兩國を比較研究せば、必らず思ひ半ばに過ぐるものあらむ。嗚呼太皇帝は近代文明に呪はれたる犠牲の一人なりけり。

(四十一年九月)

### 清國西太后と露國皇太后

清國西太后と露國皇太后とは、同時代に於ける好一對の女性爲政治家として世界に注目せらる。勿論露國の皇太后は、直接に政治に干渉したることなく、且つ之れを爲し得るの合法的權力を有するにも非ず。之れを清國の西太后が自ら攝政の任に當りて内外の國務を親裁するに比すれば、其の位地固より同じからざるものありと雖も、其の人格、行爲、及び境遇に於て頗る相類似したる所あるは、則ち最も興味ある批評の題目と爲すに足るべし。



露國皇太后は丁抹國王故クリスチアン九世の王女にして、英國皇后とは姉妹の關係あり。千八百六十六年露國先帝アレキサンダー三世の皇后となり、千八百九十四年に寡婦となり、爾來皇太后として露國の宮廷を指導するや、往々國家の樞機を左右し、皇帝をして殆ど虚器を擁せしむるの觀あり。是を以て歐洲に在ては、皇太后を目して事實上の露國主權者となし、ニコラス二世陛下を稱して空名の君主に過ぎずといふものあるに至る。露國皇太后は、アレキサンダー三世の感化を受けて、露國流の専制思想に全く浸染せられ、其の極道徳心までも消磨せられたりといふが歐洲批評家の所見なり。露國流の専制思想とは、皇權神權、一教會、一言語の三大標幟を以て露國を統治するの謂にして、全露西亞主義なるもの即ち是れなり。批評家は曰く、皇太后は全露西亞主義を實現せむが爲に、頑冥不靈のツラチミル太公と心を協せ、又ポベドノスチエフ、プレーヅ、ムラザイエフ、アレキシーフ等の武斷家を親任して、宮中府中の要路に立たしめ、以て皇帝を牽制して毫も其の君權を行ふことを得ざらしむなり、ニコラス二世陛下は決して極端の専制君主に非ず。陛下は即位の當時より、西歐の自由主義を輸入して内政を改革せむとするの希望を有したりしも、總て皇太后の反對に妨げられて、一も之れを徹底する能はざるのみと。此の觀察の當否は遽かに判定し難きも、陛下が先帝アレキサンダー三世の剛毅果斷なるに肖す、寛仁餘りありて意思薄弱なる人格を有するは最早疑ふべからざる事實なるが如し。さればアレキサンダー三世の感化を受けて非常の専制好きとなれる皇太后が、ニコラス二世陛下の優柔不斷を喜ばずして、自ら全露西亞主義の一派を指揮し、以て露國宮廷内、別に女政の天下を建設したるは亦自然の勢なりと謂ふべきか。

顧ふに皇太后は、雄略に於てカザリン女帝に及ばざると共に、又女帝に見たる如き猛烈なる残忍の性を有せざるべし。然れども皇太后は未だ會て人道に賞讃すべき材料を供給したることなきのみならず、反つて文明婦人に非難せらるべき種々の風説を傳播したりき。キシチフの虐殺事件起るや、不幸なる猶太人の爲に、皇太后に哀訴したるものありしも、陛下は冷然として之れを馬耳東風に附したりといへり。アレキサンダー皇后陛下は性質善良の婦人にして、皇帝の内政改革に深厚なる同情を表する故を以て、動もすれば皇太后の忌諱に觸れ、皇太子アレキシスの生まれざる以前は、皇太后と皇后との反感不和特に甚しかりきと傳へられ、延て皇嗣相續問題は、既に皇太后を中心として、露國宮廷の陰謀に仕組まれたりとの風説を生じたることありき。是等の風説は悉く信す可からずと雖も、要するに皇太后が其の周圍に露國の守舊派を集め、間接に皇帝の施政に容喙して、自由主義のロマノフ家に侵入するを防遏するに努めつゝあるは、露國通を以



て自ら許すもの、均しく認識する所なり。

女性は概して平和を愛するものなるに、獨り露國皇太后は、ニコラス二世陛下の平和政策に大不服なりとは、亦歐洲の一批評家が言ふ所なり。蓋し日本との開戦を以てニコラス二世陛下の眞意に出でずと遽かに斷言するを許さざると同時に、開戦の主張者を皇太后なりと推定するは太だ早計なるべし。然れども皇太后の最も親任する人物は、揃ひも揃うて露國の主戰黨なるを見れば、皇太后が平和嫌ひ戦争好きの女性なりと認めらるゝも無理には非ず。皇太后の頭腦には唯だ全露西亞主義の宿れるあり。日本の小黃鬼が全露西亞主義の發展に反對するなんと瀧落臭しとは、當時皇太后の述懐なりしものと見ゆ。開戦の結果は皇太后の意外に出でたるのみならず、今や國內の革命運動は全露西亞主義に對して第二の打撃を加へつゝあり。流石の皇太后も、是に於いて憲政

(不完全なれど)を施行したるニコラス二世陛下の政策を承認せざるを得ざりき。  
若し夫れ清國西太后は、殆ど常識を以て信すべからざる多くの悲劇を伴へり。世間の傳ふる所にして果して事實を誤らすとせば、西太后は最も畏るべき女夜叉の權化なりと謂はざる可からず。咸豐帝崩殞して同治帝踐祚するや、東太后は垂簾して政を聽き、肅端二王之れが輔弼の任に當れり。既にして肅王は臥牀に斬られ、端王は劇場に殺されて、東太后は其の左右翼を失ひ、尋で東

太后も亦毒に中たりて死せり。世間傳へて曰く、是れ皆西太后の兇手に罹りたるものなりと。同治帝年甫めて十八、毅姫を納れて皇后と爲す。後幾くもなくして皇后自盡の事ありき。世間傳へて曰く、是れ西太后の迫害に出でたるものなりと。同治帝嗣なくして崩殞するや、繼嗣の順序よりいへば惇親王の子端郡王を以て同治帝の後繼と爲すべかりしに拘らず、西太后は惇親王の妃が己れの實妹たる故により、其の子を舉げて皇位に即かしたるなり。清國現皇帝は即ち是れなり。然るに光緒二十四年變法更始の新政あらむとするや、西太后は上諭を下して之れを阻止し、且つ現皇帝を幽閉し、端郡王の子溥儀を立て、皇太子と爲したりき。世間傳へて曰く、西太后の現皇帝を遇すること殘忍至らざるなく、帝は朝夕日光を觀る能はざるの境遇に置かれて、衣食の給すら全きを得ず、憂鬱の極、心身共に其の健康を傷け、終に一種の瘋子と爲るに至れりと。是に由て之れを觀れば、西太后は、悲劇の連続したる歴史を有する女性にして、獨り清朝の罪人たるのみならず、又人道の罪人たらざる可からず。知らず傳ふる所の事實に基きて、果して能く西太后の人格を正當に判斷するを得べきか。  
凡そ專制國に於ては、大抵血と毒とに依て書かれたる劇史あり。而して此の劇史には必らず女性を主役としたる部分あるを發見すべし。故に西太后に關する報道の如き、必らずしも全然之れ



を無根の流言なりと斷言するを得ざるべきも、是れと同時に、清朝を敵視する漢人の思想を通過したる批評には、多少の偏見、若くば皇張夸大の説あるを認識せざる可からず。西太后は固より通常の女性に非ず、又決して溫和貞淑の婦人にも非らず。故に其の言動或は人道上の非難を免かれざるものなるを保せずと雖も、其の國歩艱難の時代に際して、自ら攝政の地位に處り、百官を進退し、萬機を總攬して銳意治を圖るを觀るに、古への則天武后と雖も、恐らくは其の上に出づること能はざるべし。

願ふに西太后が光緒二十四年の變法更始を阻止せしめたるは、寧ろ太后の賢明なる政治家たるを證するに足るのみ。蓋し變法更始の目的可ならざるに非ずと雖も、之れに着手するには適當の順序と慎重の手段とあるべし。突然布衣の儒生を重用し、之れに委するに實際的宰相の任を以てし、其の空論を聽きて、制度の釐革を急激に斷行せむとしたる如き、時務に通せず事態を辨せざる處士を援引して漫に官府を廢置せしめ、律令を濫制せしめ、以て一朝にして政府を改造せむとしたる如き、是れ徒らに北京朝廷の平和と秩序を破壊するに過ぎずして、到底具體的事功を成就し得べきものには非らざりき。況むや康等一派は、信用勢力兩つながら缺けたる政客なりしに於てをや。

然れども西太后は團匪事件以來の世變に慮かりて次第に進歩主義に傾きたりき。科擧の法を廢して人材登庸の新紀元を開きたるは、最も注目すべき西太后の施政にして、此の大英斷は清國の政治を根本より改革する第一の著手たり。苟も科擧の法にして全廢せられざるに於ては、他の百般の施設は決して事の實效を擧ぐるを得べからず。西太后が先づ此の點に向て活眼を開きたるは、以て其の經世的識見の精到なるを見るに足るべし。而して今や西太后は、更に日露戰爭に導かれたる清國改革の命運に乗じ、其の臣僚に命じて憲政施行の準備に従事せしめむとせり。是れより先、日露の媾和成るや、西太后は憲政を調査せしめむが爲に、戴澤公及び端方戴鴻慈兩氏を出洋大臣として海外文明列國を巡遊せしめたりき。出洋大臣等は既に歸朝して北京に在り。憲政施行に關する上疏は、續々として朝野の間より現はれたり。列國駐劄の清國公使は聯名同署して亦憲政施行の建議を提出したり。中には人智未だ進まず時機尙ほ早しと論ずるものありと雖も、絶對的に憲政に反對するものは殆ど一人もなしといふも可なるに似たり。但だ問題は、一躍して直に憲法を制定し、國會を開設すべきか、將た日本に倣ふて先づ地方議會を創設し、然る後漸に循ふて國會を開設すべきか、或は一種特別の形式を以て憲政施行の端緒を啓らくべきかの三者に就て其の一を選びに在り。



西太后が憲政施行に著意したるは、日露の勝敗を以て憲政と專制との勝敗と信じたるもの之れが動機たるを疑はずと雖も、猶ほ此の外にも西太后をして憲政施行の必要を感せしめたる原因は、清朝に對する革命運動の發生を豫防せむとする目的に在り。蓋し憲政一たび施行すれば、則ち國民的統一は成るべく、清朝の基礎は是れが爲に反つて鞏固なるを得可きを以てなり。勿論憲政の清國に適するや否やは世間の一疑問なるべし。然れども清國の國民は其の知識能力に於て大に露國の國民に劣るものに非ず。露國にして既に國會を有する以上は、清國亦敢て之れを有し得べからざる理由はあらず。且つ清國は國民未だ憲政を要求せざるに先ちて、北京朝廷自ら進で之れを與へむとせり。之れを露國の在上者が、國民に強迫せられ、止むを得ずして國會を開設したるに比すれば、清國の憲政は寧ろ平和の發達を遂ぐるの望みあるも知るべからず。兎に角西太后が精勵を勵まして國運の進歩を圖るの意氣は、男性政治家をして後へに瞠若せしむるものあり。

西太后は北清の一道臺たる滿洲人の家に生れ、幼にして父の産を破るに逢ひ、父と共に四方に飄零して世途の辛酸を嘗め、年十七にして咸豐帝に選まれ、入つて其の後宮に仕へ、美容と敏慧とを以て君寵宮廷を傾け、終に立つて西太后と爲り、咸豐帝崩殂以後は、事實上清國の主權を掌握し、當年七十二にして健康毫も衰へざるのみならず、其の施政の内外をして刮目せしむること

彼れが如きを思へば、眞に古今を通じて女性中の最も卓越したる人格なりと謂ふべし。北京外交團員以外には、外人にして宮廷に出入するを許さるゝものは僅に二人あり。清國總稅務司ロバートハート及び北京北堂の佛國宣教師是れなり。故に西太后は多く外人に知られずと雖とも、願和園に於ける春秋二季の園遊會には、親しく北京の外交團員を引見して辭令を交換するを例とせり。而して一たび其の聲咳に接したるものは、皆西太后の交際に巧みにして、其の應酬の如才なきに敬服せざるものなしといへり。

世間或は西太后の偏私を議するものあり、曰く、西太后は佞豎李蓮英を寵遇し、往々其の讒口を信じて大官を進退することありと。然かれども李蓮英は其の實小心謹直の宮人にして、且つ何等の勢力を有するものに非すと聞く。余を以て觀れば、西太后の最も偉大なる所は人材を包容し、且つ之れを信任して疑はざるに在り。見よ滿人と漢人とを問はず、清國の有力なる大官は、孰づれも西太后の手足たるを樂むに非ずや。善く李鴻章劉坤一の二老を用ひたるも西太后なり。善く榮祿剛毅を驅使したるも西太后なり。近時袁世凱の奇才を知りて之れに直隸總督の重任を與へたるも亦西太后なり。而して曾て一人の西太后に對して怨望を抱きたるものあるを聞かざるは、蓋し西太后の群臣を御する其の宜しきを得るが爲のみ。余は西太后に於て毫も愛憎の私情あるを認



めざるなり。

西太后は大才と雖も亦一個の女性なり。故に女性共通の缺點より全く脱却するは、太后と雖も甚だ難しとする所なるべし。然れども世間の稱して西太后の缺點と爲すものは、大抵專制國の暗黒面を代表するものたらざるなし。之れを露國皇太后に視るも亦同様なり。若し兩太后其地位を代へば、其の言動は恐らくは同調ならむ。唯だ露國皇太后の器局才略は、清國西太后に及ばざる遺き<sup>△△△△△</sup>を見るのみ。<sup>△△△△△</sup>

(三十九年七月)

## 女性政治家としての西太后

### 支那稀有の女性政治家

女性が政治的活動の中心となるときは、動もすれば女性の弱點と權力と相結合して、國家を亂さすむば止まず。殊に支那の歴史に於ける暗黒なる部分には、殆ど女性の關係せざるものなく、女性政治家として著名なる呂太后及び則天武后と雖も、若し其の頭腦の中より、陰險と猜忌と狹隘なる自我心とを取り去らば、殘る所のものは、唯だ權力を熱愛し、且つ之れを總攬するの術を解したること是れあるのみ。獨り最近四十餘年間清朝の統治者たりし西太后の如きは、其の手腕の

優絶なると、其の女性の弱點を甚しく暴露せざりしに於て、殆ど支那上下數千年間に匹儔なき女性政治家なりといふも不可なし。

### 三太后の對照

試みに西太后を以て呂太后若くは則天武后に對照すれば、西太后の偉大なる性格は益々明白に認識せらるべし。呂太后に在ては始終高祖に創業の際に獎勵して内助を與へたる功最も傳ふべきものあるべし。然れども歴史に現はれたる紀實に據れば、呂太后は高祖に勸めて韓信を斬らしめ、彭越を殺さしめ、諸功臣をして各々相危み相疑ひて意を安んずるを得ざらしめたりき。且つ呂太后は戚夫人の曾て高祖に寵幸せられたりしを怨み、高祖崩殂の後、直に夫人を捕へ、其の手足を斷ち、眼を去り、耳を熏じ、瘡藥を飲まして、之れを人彘と名け、有らゆる戮辱と苦悶とを加へて慘死を遂げしめたるのみならず、夫人の生みたる趙隱王を殺し、又自己の愛孫すら之れを幽殺するを忍びたりき。其の自ら攝政となりて朝に臨むや、先づ呂氏の諸族を立て、王と爲し、以て竊かに劉氏の天下を奪はむとし、却つて後年諸呂の亂源を作りたりき。而して呂太后の治績として觀るに足るもの一もあることなし。

女性政治家としての西太后



則天武后に至ては、人を識るの明、群賢を羅致するの權略に於て、遠く呂太后の右に出づるものあり。是を以て狄仁傑の如き、姚崇の如き、張柬之の如き、徐有功の如き、一時の名臣競ふて武后の用を爲せり。然れども其の唐氏の戚族數百人を虐殺し、酷吏を縱ち、大獄を起して多くの大官を誅滅し、以て人心を威服せしめむとしたるは、之れを呂太后に比して、不仁好殺の度更に大に過ぎたりといふべし。

支那人大率呂太后若くは則天武后を見るの眼を以て西太后を見る。故に或は曰く、西太后は同治帝の正嫡母たる東太后を忌み、之れを毒殺して政權を獨占したり。或は曰く、光緒皇帝は聰明なる君主なるに拘らず、西太后は始終皇帝を壓迫し、太甚しきは虐待を加へて全く其の自由を奪ひ、戊戌政變後の如きは、一層峻酷なる虐待を以て、皇帝を幽囚の中に苦悶せしめたりと。或は曰く、皇帝は西太后の愛姪に當れる皇后と親ますして、一妾妃たる珍夫人を愛したるが故に、西太后は北清事變の際、侍臣に命じて珍夫人を井中に投せしめたりと。凡そ此等の説は孰れも局外人の揣摩臆測より出でたれば、未だ悉く採りて事實と爲すを得ず。たとひ之れありとするも、政治上に於ける西太后の行動は、老熟と、機巧と、圓満とに於て、到底前代の女性政治家と日を同うして語るべからず。

勿論支那の宮廷は伏魔殿なり。西太后も亦此の伏魔殿に生活して支那傳來の空氣を呼吸したる女性なり。故に若し西太后をして内憂外患なき時代に生れしめば、其の攝政時代は暗黒の陰謀史なりしやも知るべからず。従つて西太后の爲す所は毫も呂太后若くは武后と異らざるべしと想像し得るの理由なきにあらず。蓋し西太后の攝政時代を見るに、内に在ては捻匪及び髮匪の亂あり、戊戌改革の變あり。外に在りては英佛同盟軍の難を始めとして、清佛の交戦、日清、北清及び日露の戰亂相繼いで起り、以て西太后をして自ら責任の重きを感じしむると同時に、又頗る其の驕怠を戒め、其の謹慎を長せしめたりしに相違なし。要するに西太后を偉大ならしめたるは境遇の力與つて多しといはざるべからず。然れども西太后をして尋常普通の女性たらしめば、斯くの如き國歩の艱難を擔當するに堪えずして、却つて常道を失し、社稷を危うするの舉措あらむも料り難し。故に西太后の西太后たる所以のものは、其の人格に於て本來敬重すべき素質あるを認めざるべからず。

### 西太后の手腕

西太后は群雄を統御するの手腕に於て、實に理想的人君の域に達せり。髮匪の亂を戡定したる

女性政治家としての西太后



功臣は、曾國藩以下、李鴻章、左宗棠、胡林翼、彭玉麟、劉銘傳、劉坤一、李德賓等、皆一代の豪傑にして、各々武勳を負ひ、人望を恃みて相譲らざるのみならず、彼等は又總べて漢本土の出身者なるを以て、若し之れを統御するに宜しきを得ざれば、其の勢ひ必らず滿漢の權衡を破りて中央政府の基礎を動搖せしむるに至らむ。況むや當時咸豐帝は既に熱河に崩殂し、繼立の同治帝は尙ほ幼冲なりしに於て、此の戰勝の諸功臣を巧みに統御して其の信服を求むるは、事決して容易にあらず。而も西太后の論功行賞は公平にして偏頗なく、善く功臣優遇の道を全うしたれば、彼等は均しく西太后の恩寵に感謝して、復た一人の不平を懷くものあるを見ざりき。

且つ清朝の政治的系統は極めて複雑にして、滿漢兩系の對抗を外にして、漢本土の出身者中にも、別に地方的勢力の暗闘あり。所謂る安徽黨といひ、湖南黨といひ、江浙黨若くは粵黨といふものは是れなり。更に主義より之れを分つときは、保守派あり、進歩派あり、中立派あり、革命派ありて、陰に陽に反目疾視の状を爲せり。然れども西太后は久しく之れを操縦し、之れを調和して、兎も角も中央政府の統一を維持するを得たりき。戊戌政變の必然的反動として、頑迷固陋の極保守派に政府を支配せらるゝに當てや、流石の西太后を以てして、亦其の飛揚跋扈を制する能はず、遂に皇帝廢立の擧となり、北清匪の騷亂となり、列國聯合の對清動作となり、殆ど中央

政府を瓦解に瀕せしめたりしもの、是れ或は西太后の一大失計といはゞいひ得ざるにあらず。然れども局面一轉の機來るを見るや、慶親王李鴻章等の進歩派に托するに善後の措置を以てし、是れと同時に極力保守派の領袖を黜けて、再び北京朝廷の秩序を恢復したる西太后の權略甚だ多とすに足る。

西太后は個人的考慮よりも、經世的眼識を以て内外問題を處理するに傾むきたる女性なり。是れ西太后の政治趣味が殆ど女性の範疇を脱し、最も進歩したる男性政治家の香氣を帯びたるが爲に外ならず。若し西太后をして普通女性の才幹野心あるものに過ぎざらしめば、恐らくは滿洲同族の權力を擴張するに偏し、従つて其の政略は公平を缺き、守舊に陥り、到底複雑なる清國政府を統一する能はずして、却つて大に之れを亂だすに至りしや必然なり。支那人中には實に此の見地より西太后を觀たるもの少なからざりしも、西太后は支那の歴史には空前の偉大なる女性たりしが故に、其の群雄を統御し、黨争を調和し、各種の利害を綜合するに於て、總べて遠見と老手とを示したりき。

## 西太后とカザリン二世

女性政治家としての西太后



西太后をカザリン二世に比すれば、甚だ相似たる所あり。又相反する所あり。カザリン二世は、同時代の外國人には悪婆の如くに言ひ做されたるに拘らず、露國人には女神の如くに崇拜せられたりき。何となれば二世の外交政略は、往々冷刻と果斷とを以て歐洲諸君主の心膽を寒からしめたりしも、其の内治上の施設に在ては、寧ろ自由と思惠とを國民に與ふるに於て先代の統治者に優れるものあればなり。西太后は、支那人にも外國人にも、最初は殘忍にして且つ守舊を好むの女性なりと思はれたりしも、北清事件以後は、西太后に對する内外の批評全く一變するに至れり。西太后の肖像畫を千九百四年の聖路易大博覽會に出品したるカール嬢は、其の西太后謁見録に於て、西太后の新智識に富み、進歩的思想を有する賢明の女性なるを紀し、其の人格は英國のエリザベス女帝、若くはヴィクトリヤ女皇にも敢て劣る所なかるべしと歎美し、光緒二十七年西太后が願和園に於て列國の公使及び夫人に宴を賜ひたる時、西太后の圓滿にして懇懃なる應接振りは、彼等をして亦カール嬢と同じく西太后の徳を頌せざるを得ざらしめたりき。而して立憲政治施行の詔勅を發したる晩年の大英斷の如きは、西太后の政治主義に關する從來の誤解を一掃したるものなるべし。

更に性格よりいへば、西太后もカザリン二世も、尊大にして威權を好むこと、精力強くして一

日も閑散無事に堪えざること、快活にして善く働らき善く遊ぶことに於て殆ど同模型なり。但だカザリン二世は、宮廷の侍臣を叱責すること絶えて無く、曾て、余は人を賞むる時には聲を高くし、人を責むるときは聲を低くするを好むと言ひしことありと傳ふれども、西太后の侍臣を待つこと果してカザリン二世の如くなりしや否やは明かならざるのみ。カザリン二世は又非常の樂觀家にして、悲哀を語らず、悲哀に沈まず、暗黒の問題を考へず、其の襟懷恒に欣々たりき。西太后も此の點に於て大同小異なり。

然れども西太后の宮廷は、カザリン二世の其れの如くに甚しき紊亂なかりしもの、如し。カザリン二世に内寵の嬖臣頗る多く、而も感情の冷熱旦夕を測られずして、嬖臣を代ゆること衣裳を代ゆるが如く、彼等に與へたる金額は二千萬磅に達したりといへり。以て其の宮廷の腐敗を察すべし。西太后も決して道徳的制約を嚴守したる女性にはあらざるべし。然れども西太后の嬖臣と稱せらるゝものは、前にも後にも唯だ一人の李蓮英ありしに過ぎざる如し。是れ二十七歳にして寡婦となりし西太后に在ては寧ろ不思議といふべきのみ。

### 西太后とエリザベス女帝

女性政治家としての西太后



個人としての西太后は、カザリン二世よりも、却つてエリザベス女帝に似たる所多かるべし。第一宮廷生活の崇嚴豪華を喜びたることに於て、次に化粧を好みたることに於て最も相似たり。エリザベス女帝は、毎日諸國の流行服を著換えするの習慣あり。而して其の衣裳には、名珠寶石を滿飾して燦爛人目を奪ふの美觀を誇りたりき。ラレーといへる一宮人のセシル卿に送りたる書中に女帝を形容したる語あり、曰く女帝の騎馬の狀は恰もアレキサンダーの其れの如く、女帝の玉歩を移すや、恰もヴェーナスの緩歩するが如く、時として嫋々たる軟風來つて、水神の如く清艶なる彼女の頬を傳へて美麗なる金髪を吹くことあり。時としては天女の如く舞ひ、時としてはオルヒュース(希臘の音楽家)の如く歌ふと。當時エリザベス女帝は、實に五十九歳の老婦人なりき。西太后が晩年に至つて益々盛裝を好み、之れが爲めに毎日多くの手數と時間を費やしたることは、隠れなき事實にして、西太后に謁見する外人は、皆其の容姿の若作りなるには驚きたりといへり。

エリザベス女帝は、極めて多趣味の女性なり。文學、美術、音楽等孰れも通せざるなく、特に能書を以て有名なりき。西太后は演劇と音楽とに深き趣味を有し、毎月朔日と十五日には、宮中に於て觀劇會を開くを恒例としたりき。又西太后は書畫に巧にして、其の精妙屢々専門家を驚かすものありといふものあり。エリザベス女帝は強記絶倫を以て稱せられたりしが、西太后の記憶力も亦非凡にして、一たび謁見したる人の姓名を決して忘るゝことなかりしと聞く。

其の他政治的野心の老年に至つて衰へざりしと、人材を容るゝの局量大にして、區々の假裝若くは小なる術數なく、概して男兒的性格を多く有したりしは二人略々其の品類を同うせり。

(四十一年十二月)

## 米國名大統領 ルーズベルト氏

ワシントン以後の名大統領といはれて、現代米國民の崇拜を鍾めたルーズベルトは、殆ど近代の名大統領には比類のない公生涯の人である。近代の名大統領は、其の最高の功名を成し遂げた時の前後短日月の間だけ、國民の注目を惹いた。例へばリンコルンは大統領に指名せらるゝ前までは元老院に於ける無名の一議員であつた。グラントは南北戦争の最初の司令官に任せられた時は、片田舎で飄泊的生活を營んで居つた。クリーヴランドは内地の一小市長から大統領に選舉せらるるまで、僅か二箇年の間の飛躍を示したに過ぎぬ。之れに反してルーズベルトは二十三歳から今日まで終始國民の眼前に活動を繼續したのである。



(上) 光榮ある閱歷の人

テオドル、ルーズベルトは、千八百五十八年にニューヨーク市に生れたから、當年は丁度五十歳である。父の祖先は十七世紀の半ばよりニューヨーク市に住居し、母は最初の革命政府を完成した舊家の中の出身である。ルーズベルトは、當時の上流社會と同様の完全なる教育を受け、千八百八十年にハーヴァート大學を卒業した。間もなく彼は一箇年許り歐洲を漫遊して、ニューヨークに歸り、其れから一箇年許りはコロンビヤ大學と、彼れの伯父の事務所で法律を専攻した。然し彼に取つて法律は餘り趣味を感せしめなかつたので、彼は唯だ名義ばかりの法學生で、實際は文學と政治とを研究して居つた。此の二科目は最も彼れの精神を引き著けたものであつた。其頃彼は又米國西部の生活に親むやうになつて、此の地方に於ける不同雜駁の人種に同情を表するの機會に遭遇した。

ルーズベルトはレバプリカン黨として政治生涯に入つたけれども、其の機關の運動振りには反對であつた。千八百八十一年僅かに二十三歳の一青年を以てレバプリカン黨に於ける獨立團體から指名されてニューヨーク州會議員に選舉せられ、千八百八十二年より八十四年まで三箇年間其

の職に在つたが、彼は此の期間に於て、勇氣に富み、且つ誠實にして大膽なる人物であることを表現し、忽ちレバプリカン黨で重要な位地を占め、一般公衆よりも大なる尊敬を受けたのである。彼は特にニューヨークの市政改革に熱心盡力し、市廳に於ける惡分子を掃蕩せむとして目覺ましく奮闘した。千八百八十四年彼はシカゴ市に開きたるレバプリカンの國民大會に委員として出席し、レバプリカンの獨立派を代表せるエドモンドを大統領候補者に指名した一人であつたが、不幸にして成功せず、ゼームス・ブレインが多數を以て指名されたのである。此の際彼はエドモンドを助くるに熱心でなかつたといふので、一時人望を失ひ、爲めに二年後に行はれたニューヨーク市長の選舉にも失敗した。是に於て彼は約三箇年間は殆ど全く政治界を離れて、専ら文學に身を委ね、傍らダコマの山麓で農牧の生活を送つて居つた。千八百八十九年の四月ハリソンの執政時代始まるや、ルーズベルトは内政整理委員に擧げられたが、六箇年間の在職中に、彼の成したる一の重要な行政事項がある。從來米國の行政官を任命する權は總て議會の手に存して居つたが、彼は下級の行政官は總て競争試験で採用すべしとの建議を提出した。此の建議は政府に容れられて實施さるゝことゝなつたので、彼は一旦辭職したけれども、千八百九十五年更にニューヨークの警察委員に任せられて市政事務に關係することゝなつた。そこで愈々ニューヨーク市の警察機



關を調査して見るに、其の弊害はなかく廣く且つ深く行渡つて居ることを發見したから、全力を傾けて機關の道徳を恢復せむと試みた。此の事業に於ける彼れの成功は、彼れに偉大なる行政的能力ありとの評判を市の内外に高からしめ、時の大統領マッキンレーは、彼に海軍次官の地位を與へたのである。而して此の任命は一般公衆の均しく喜ぶ所であつた。彼は海軍次官として西班牙との開戦に對する準備を爲し、且つ彼れ自ら開戦の正當なることを主張した。彼は米國沿岸及び東洋方面に、船艦及び軍需品を十分に且つ迅速に分配してあつたから、兩國の戦端啓らけて僅か數月ならざるに、勝敗の勢は定まる位であつた。然し彼は實戦に参加する能はざるを不満足と思つて、千八百九十八年三月自ら請ふて海軍次官を辭し、騎兵聯隊の中佐となつて戰場に出掛けた。米國人は此の騎兵聯隊を驃騎隊といつた。彼れの名聲は、當時全國に鳴り響いてあつたから、彼れの率ゐた聯隊は種々の代表的性格を排列した形があつた。ニューヨークの競技俱樂部員及び警察官を始め、著名な大學校の打球者、力技家、西部地方の牧羊者、冒險勇士等は、相争ふて彼れの旗下に集つたのである。彼は此等の猛烈な軍隊を敏速に訓練し、之れが司令官となつてキューバに前進し、終にサンチアゴを陥落せしめた。彼れの軍功は赫々と入目に輝いたので、忽ち大佐に昇進した。西班牙の降服後、彼は熱帶地に久しく滯留して居つたが、司令長官に向つて

速かに軍隊を米國に撤退するの得策なことを強硬に主張して之れを決行せしめた。

顯著な軍事上の成功と、有力有效な内政上の成績とに依て、ルーズベルトの政治的行徑は今や益々鞏固となつた。キューバから歸つて間もなく、彼はニューヨーク知事候補者としてレバブリカン黨より推薦せられ、千八百九十八年確實なる多数を以て當選した。曾て彼れが行政上に現はした純潔有效の方法、及び政黨政治に現はした誠實剛直な行動は、やがてニューヨーク知事としての行政にも同じく彼れの特色として現はれた。大統領改選の期も近ける千九百年に至つて、ルーズベルトは將來の大統領たるに適せりとの強き感情が明白にレバブリカンの有識者間に起つて來た。然し多くの事情がマッキンレーを再選すべく餘儀なくしたので、知事ルーズベルトを副統領とするの要求が生じたのである。副統領の職は、名に於ては莊嚴であつても、實際は比較的無意味であるから、ルーズベルトの如き活動的精神を有する人物を誘惑するには足らなかつたのである。彼は副統領たるよりも寧ろ知事に再選せらるゝことを希望して居つたのである。故に彼は副統領に指名せらるゝことを公然辭退し、且つ全力を以て之れを避けむと運動したけれども、ニューヨーク下級政治家は彼を知事の職より去らしむるを望み、一般公衆も亦熱心に彼れを中央政府に移さんと欲し、加ふるにレバブリカンの國民大會に於ては、彼れの意向如何に頓著せずして、



彼を副統領に指名したのである。斯くて千九百年の選挙には、容易にマッキンレーは大統領に、ルーズベルトは副統領に當選した。

千九百〇一年彼れが受任したる副統領は單に特別な會期に於ける元老院の議長たるに過ぎなかつたのである。然しながら運命は不思議なもので、マッキンレーは凶手に罹りて死したるが爲に、米國憲法はルーズベルトを一躍大統領に押し上げたのである。大統領となつてより、彼れの人望は次第に高まるばかりで、千九百四年の選挙に再選せられて今日に至つたのである。若し彼れにして三たび大統領たることを避けぬならば、無論今回の選挙にも當選したであらうと考へる。然し彼は米國の先例を重んじて斷然重任を欲するの意なきを表明し、自らタフトを次の大統領候補者に指名し、且つ其の當選を助くるが爲に、あらゆる盡力をしたのである。

### (中) 彼れの人格及政策

ルーズベルトは偉大な天才とは思はれない。彼は必らずしも非常絶倫の能力を有する人ではないらしい。著述家としても、立法家としても、行政家としても、將た軍人としても、若くは競技家としても、彼れの傳記には、普通に健全な心身を有する人ならば、誰れにも出來得る者の外何

物をも含んで居ない。彼れが彼れの同僚以上の名聲を博するに至つたのは、要するに刻苦艱難を打ち破つて猛進する奮闘力に外ならぬ。彼は他人が失望に陥つたものを拾ひ上げて之れを完成し、又他人が爲した所のものを更に一層善く爲すの方法を工夫し、而も常に天下公衆の前に於て堂々と事を行ふて少しも畏れ憚ることがない。是れは彼れの人格を大きくしたのである。

彼は常に奮闘を口にし、且つ常に奮闘的態度を失はない。満身殆ど活氣の塊まりであるかのやうに見える。彼は健全な身體は、世界に於ける總ての有効なる努力の基礎であると信じて居る。怠惰放逸を以て體力を弱らすものは、恰も悪習を以て神経系統を傷けるものと均しく容赦されない罪惡なりとは、彼れの信条である。健全な體力は、市民が自己の義務を竭くす爲に貯蓄する財産であるとは、又彼れが屢々人に語る所の格言である。彼は男兒的運動遊技を奨励した。特に競争奮闘を含む所の遊技は、人生最も重要な修養の一つであると、彼は言つて居る。彼は個人に於て眞理であるものは、國民に於ても同じく眞理だといふ理想を以て、政治的行動の標準とする人であつて、彼れの政策は彼れの人格其まゝである。

彼は絶えず米國人を警戒して、何時にても困難を排除するの準備を爲して置かねばならぬといつて居る。困難に打ち勝つ國民でなければ世界の平和を維持することが出來ぬといつて居る。



彼は曾て左の如く演説したことがある。

吾人若し一外國と或る事件に就いて交渉することある場合には、常に懇篤の辭令を以て應接するやうに心掛け、對手に向つて十分敬意を表さなければならぬ。吾人は正義を行ふものであるといふことを決して忘れてはならぬ。而して是れと同時に、吾人は不正を以て報いらるゝことを一日も忍ぶことが出来ぬといふことを對手に示さなくてはならぬ。更に一步を進めていへば、吾人は實行を後楯とせずしては片言雙語をも使用するものでないといふこと、吾人が言語の穩當なるのは、言行一致を旨とするが爲だといふことを對手に知らしめねばならぬ。斯る態度は、即ち尊敬すべき平和の保證で、此の平和を成就するのは、即ち自治國民の第一目的でなければならぬ。

ルーズベルトの理想とする平和製造者なるものは、最初は成るべく溫言を以て兩對手の感情を融和することを勉め、其れでも兩對手が承知しない場合には、双方の髮を執つて道理に聽従するまで頭と頭とを打ち合すだけの能力あるものを指すやうである。ボルツマウスに於て、日露兩國の全權委員が媾和談判で一度破裂に傾いた時、ルーズベルトは大肌を脱いで調停の勞を取つたが、其の際果して以上の如き手段を用ゐたかどうか、其の詳細は今尙ほ秘密に屬する事柄である

が、兎に角ルーズベルトの外交は、彼れの人格の活動と見て宜ろしい。

然しながら單に奮闘し活動するの精力に富めるばかりでは、餘り尊敬に價すべき人格ではない。世には唯だ私利私益を得むがために奮闘するものがある。又唯だ自家の野心を遂ぐるがために大膽不敵の活動を爲すものがある。悪魔の奮闘は人類の模範とはされない。不義の目的のために活動する人は、寧ろ文明の敵として之れを排斥せずには居られない。ルーズベルトをエライといふのは、彼れが常に正義といふ武器を以て奮闘するからである。彼は奮闘のため奮闘するのではなく、正義のために奮闘する人である。所謂正を踏んで畏るゝことなき大勇者である。彼れが西班牙との開戦を熱心に主張したのは、決して好戰的氣象から來たのではない。西班牙がキューバ島を支配して居る間は、米國は常に腐敗せる政府、殘忍なる官吏、革命的騷亂、流血の出來事、悪疫の發生所、及び罪人の隠くれ家の爲に、南部海岸を武装しなければならぬ。是れは平和のためには甚だ障害になると、こゝにいふのが彼れの意見であつた。彼は南亞米利加の各共和國が歐洲諸國に併吞せらるゝことを防禦せんが爲めに、合衆米國の援助を與ふるを承諾した。然しながら此政策の中には、此等の小共和國は漫りに合衆米國と他の強國との葛藤を惹き起さぬやうに注意するの義務を有すといふ強き觀念を含んで居るのである。若し此等の小共和國が大なる共和國の保



護を求むるならば、先づ之れを求むるに足るだけの正しき行動がなくてはならぬ。此等の小共和國は外國人に對して決して不正の待遇を與ふるの權利を有して居ないといふのが、ルーズベルトの總亞米利加政策である。彼は全亞米利加に合衆米國の覇權を樹立するがために、中央及び南部亞米利加の小共和國を保護するのではない。彼は正義を宣傳する政治界の使徒である。

千九百三年露國キシネフに於て、猶太人が暴徒の爲に非常の迫害に遭つたことがある。其際露國の官憲は却つて暴徒に手傳をした事實が世界の新聞に掲載せられた。米國に逃げ來つた被害者は、ニューヨーク市其他に於て迫害の慘狀を語つた。そこで米國及び歐洲各國に居住せる猶太人は銘々の政府に事實を訴へて、露國駐在の各使臣をして同胞を保護せしむるの手段を執らしめた。此の報道に接したる露國政府は、歐洲各國特に合衆米國に向て、斯る出來事は露國の内事で他國の干渉を受くべき限りでないと言明したので、歐洲各國政府は其れぎりて手を引いたが、合衆米國の大統領はなかく承知しない。若し露國政府が米國代表者の忠告に耳を傾けなければ、更に進んで皇帝に直奏すべしと駐米大使に訓令したのである。流石の露國政府も大きに驚いて合衆米國の注意を聽くことになつた。當時ルーズベルトは之れが爲に開戦を辭しないと意氣込であつた。彼は如何なる場合にも正義のチャムピオンである。

對黑人策は久しく米國政府の宿題であつた。米國に於て黒人の白人に迫害せらるゝことは、恰も露國に於ける猶太人の如くである。黒人は一切の公事務に關係するを許されぬ。甚しきは大した罪もないのに州法に依て死刑の宣告を受けることがある。是れは異人種に對する偏見から起つたのである。ルーズベルトは此の偏見を打破して人道の光りを黒人に及ぼすの政策を執つて遂に黒人保護をレバブリカン黨の政綱に加へたのである。ブッカー、ワシントンといふは黒人中の豪傑で其の徳望の高いことはワシントンに似て居るので、此の名を與へられた位々の人物であるが、ルーズベルトは特に此の豪傑を大統領官邸に呼びて一夕の會談をした。此の會談は祕密に行はれたのであつたが、或る機會を以て世間に洩れ、新聞紙に書かれた。苟も大統領ともあらうものが、黒人風情を大統領官邸に入れ、而も鄭重な晚餐を供するなどは、大統領の威嚴を傷けたものだといつて、大聲疾呼してルーズベルトを攻撃するものがあつた。然しながらルーズベルトは毫も之れに避易しなかつた。黒人であらうが白人であらうが、同じ人間である。ブッカー、ワシントンは黒人であるが、立派な人格を有した人間だ。之れと會見したればとて何の不都合があるといつて、世間の攻撃に答へた。其の後彼は黒人を或る官吏に採用して物議を招いたこともあつたが、さつぱり頓著しない。彼は正義と思ふことを斷行して少しも憚らない。斯くの如き行動は、ル



ズベルトでなくては出来ぬことだ。

桑港の日本學童問題が火元となつて煽ぎ立てられた排日運動に就いては、ルーズベルトも餘程困まつたやうで、カリフォルニア州の頑硬なる抵抗を思ふやうに押へ附けずに終つた。然しながら此の問題は日米兩國の外交を紛糾多端ならしむる恐れがあるので、兩國政府は日米の間に永久の和好を維持するの遠見を以て妥協したのである。ルーズベルトが十分日本國民に同情を表してゐることは、彼れの發表した教書を見ても分かるのである。彼は決して日本を敵とする如き愚策を執るの人でない。

勿論彼はモンロー主義を消極的に遵守して自ら甘んずる政治家ではない。彼は前大統領マッキンレー時代より既に端緒を開いた太平洋問題に對して、飛目長耳の偵察を放つに至つたのは事實である。フィリッピン、布哇等の殖民地を有する米國としては、到底太平洋問題を等閑に附することの出来ない理由は明白である。況して支那との利害關係は次第に發展して來たのだから、太平洋に於ける米國の地位は、自然重大な價值を生じたと謂はざるを得ない。そこで彼は支那方面に米國の勢力を扶植するがために、種々の計畫を立てた。北清事件の賠償金を還附したなどは、列國の意表に出た巧妙の政略である。故に米清同盟といふ説も起つて來た譯だ。又彼は米國に先

例のない海軍擴張を唱道し、現に太平洋艦隊なるものを編成せしめた。將來太平洋問題に關しては、米國が最も有力なる投票權を有するものゝ一となることは、最早動かすべからざる趨勢となつたのである。そこで米國の一部に於ては、彼れを帝國主義者と爲して、其の政略を非難するものもあるけれども、大多數の米國民は、皆彼れの高手腕に隨喜渴仰してゐるのである。

内政に於ける彼れの方針は、亦中外の注目を惹くものがある。トラスト征伐も其の一つである。元來トラスト征伐といふは、シャーマンのアンチトラスト法に準據したもので、千九百二年或る保險會社が該法律に違反した行爲ありしを發見して、之れを檢事總長に告發せしめたのが始まりだ。其の以後屢々トラストの専横を抑ゆる措置を執つた。又彼は關稅改革に著手して、多少自由貿易主義を採用せんとする傾向を示して來た。保護貿易は米國傳來の政略である。然しながら彼はどこまでも之を維持せむとする狂熱者でない。彼は千八百八十一年ハーヴァート大學の有志者が組織した自由貿易協會の會員であつた。彼は議會生活をしてゐる間は、依然其の會員として残つて居つた。彼れが關稅改革をレバブリカン黨の政綱に加へしめたのも、此由來があるからだ。



(下) 私生涯に於けるルーズベルト氏

ルーズベルトは口の人、手の人であるが、同時に又筆の人である。彼は千八百十二年の海戦史と題するものを始めとして、種々の著書を出版した。特に奮闘的生活と題する近著は、最も廣く讀まれた本で、我國で之れを翻譯したものもある。其他彼は雑誌にも屢々論文を投寄して居る。然しながら彼の書いたものは、千篇一律で、即ち活動及び努力の福音を宣へることである。

或る人ルーズベルトを訪問して、閣下が文學に親むは、其れを職業となし給ふ御考へかと尋ねたことがあつた。丁度其の時ルーズベルトは、書齋に於て書籍、繪畫などの閲覽に耽つて居た。

ル氏「否、余は單に文學に對して趣味を有するばかりだ。之れを職業とする考は少しもない。

客「閣下は詩とか、小説とか、論文若くは批評とかいふやうなものに付て、一般の研究を爲し給はぬか。

ル氏「否、余は米國の歴史を研究し、其の外には遊獵などが好きだ。

客「然らば閣下は心理的解剖を主眼とする米國時代の文學に對して餘り多くの注意を拂ひ給はぬか。

ル氏「余は寧ろ戶外遊戯に關する米國文學に對して多くの注意を拂つて居る。但し余の謂ふ戶外遊戯の中には、唯だ競馬を見物する爲めに出掛けることなどを含むてゐない。余の趣味を有する遊戯は人間自身が一方の活動者となる遊戯である。

ルーズベルトの競馬嫌ひは、馬其物を好まぬといふ意味ではない。彼は幼年時代から常に馬に乗ることが非常に好きであつた。而も生氣活潑な駿馬でなくては飼養しなかつた。大統領となつて間もなく、彼は馬喰に命じて良馬を搜がさした。二頭の馬は大統領官邸の厩舎に牽き入れられた。彼は頻りに乗り廻はしを試みて居つたが、一頭は體格の立派な、歩みの堂々たる馬で、他の一頭は溫和な馬であつた。然し孰れも兎のやうで生氣がないといつて馬主に返へして了まつた。

乗馬に次での趣味は郊外散策であつた。然し彼れと一緒に散策するものは、森林、若くは山路をふらりと緩つくり逍遙することが出来なかつた。神經も血管も縮み上がるやうな危険に遭遇することがある。彼は一團の元氣者を集めワシントン附近の山野を駈足で跋涉するを娛樂として居つた。彼れ一人は少しも疲かれた風がなく、神氣旺盛の勢を以て歸るけれども、同行者は疲かれ切つて直に湯に入り食事を濟まして寢床に潜ぐり込むのが例であつた。

一日彼はポトマック海岸に二三の友人を招待したことがあつた。招待せられた客の中に、新任



の某局長が居つた。此の局長は年若かの優男であつたが、力技には長じて居るらしく見えた。次に堅忍剛毅の評判ある或る官吏も居つた。又元老院議員某々も在つた。大統領は是等の友人と共に海岸探検に出掛けたが、彼れの歩き方が普通の人よりは速いから、外の連中は追つかけて随行した。路はさまで險悪でなかつたけれども、漸く進みて巖巖絶壁に包まれたる嶮岨の處に達した。そこには、岩に張金<sup>はりかね</sup>が結はへ附けられて在つて、降りるに便利ならしめ、又張金<sup>はりかね</sup>傳ひに降りるのを不安とするものゝ爲に、別に一隻のボートも備へてあつた。一行は寸時<sup>ちじゆん</sup>止まつて地勢を見て居つたが、ボートを僕にといふものがあつた。此の聲は元老院議員の口から出た。此の人は平生可なり敏捷ではあるけれども、妙に自分の威嚴を崩さぬやうに氣取る癖があつた。此の人の後に居つた長身の某官吏も亦僕もボートの方が勝手が宜いと言ひ出した。すると大統領は笑ひながら、それでは向ふ側で會合しやうといつて、岩間を横ぎつて出發した。彼は張金の助けをも借らないで、唯だ岩石の凸凹を利用し、指先と足の掌とを巧みに使つた。若し少しでも躓<sup>つ</sup>づきでもしやうものなら、水中に陥落するに極まつて居るのに、彼は平氣で、而も安全に越えた。彼れの子と局長某も彼に指導せられつゝ同じく越えた。一行が無事で歸つたのは丁度日の暮であつたが、翌日になつて市中の評判は、大統領の冒險旅行で持ち切つたのである。一體ルーズベルトは冒險

を好む人で、現に大統領退職後亞弗利加の獅子狩りをやつて見ると吹聴したので、同行を申込むものは數千人もあつたといふことだ。

家庭に對するルーズベルトの愛情は非常なもので、一夕友人數輩と卓を圍みて四方山の話に興を催うしつゝ彼は例の熱心な調子で、西部地方に於ける彼の生活の趣味あつたことを語つた時、一人の客は彼に向つて、貴下は其のやうな自由快濶の生活をお好みであるから、雜鬧極まる東部地方に住み給ふことは定めてお氣に召さぬことだらう、實際貴下は今日も尙ほ農場生活を希望せらるゝのではないかといつた。ルーズベルトは質問者の顔に一瞥を與へ、言はむとして一寸ためらひつゝ、印象強き明確な語を以て、否、如何となればといふのを直ぐ受けて、坐中の一婦人は言葉を挟み、妾は其の何故なるかを知れりといつた。ルーズベルトはさも氣乗りのしたやうな態度で、なせ我輩は今日では最早西部地方の生活を好まぬのであるか、貴女は其の譯を御承知であるかと問ひ返した。すると其の婦人は答へて、然り、當時貴下は未だルーズベルト夫人とお知り合の仲ではなかつたからだらうと思ひますといつた。ルーズベルトは極めて眞面目に、貴女は善く我輩の意中を言ひ當てましたと白狀したが、これは實に彼れの心から出た白狀である。

彼は自分の子女と遊戯するのを無上の樂みとして居る。子女は六人あるが、其の中二人は最早



跳ねたり躍つたりする年頃を過ぎ去つた。然し彼は年下の方の子女を相手にして、毎日少時間は子供に復つてふざけて居る。彼れが久しい間最も好きであつたのは、熊遊びといふものであつた。

此の熊遊びは室内の床の上で始めることもあり、戸外の草叢の上で行ふこともある。其時は宛然芝居がよりである。最初の幕は、彼れ自ら大きな熊となつて恐ろしき咆哮を揚げつゝ舞臺に現はれ來り、子供等は若かき獵夫に打扮して同じく舞臺の花道から現はれて來る。そこで獵夫と熊との立ち廻りがあつて、とゞ熊は殺されるか、若くは捕虜となる。次の幕には彼れ自身獵夫となり、子供等を熊にして同様の立ち廻りをするのだ。こんな罪のない遊戯をして子女を喜ばしむるから、彼れの家庭は常に和氣藹々として居る。

彼が大統領となつてより、家庭の領分から餘り遙か遠ざかつた官省事務に忙殺せらるゝので、子女等が次の部屋から首を出して今晚はと優しい聲をするのを聞くことも出来なくなつた。是れは彼れの最も不満足とする所であるが、然し内閣會議の妨げにならざる限りは、腕白盛りの二人の子息と廊下で戯むるゝのを往々見たことがある。彼は自分が乗馬を好むので、子女には孰れも年頃になると乗馬を仕込むことにしてある。これは子女の勇氣と自助心を養成する綱領の一つである。彼は又子女の樹登りをしたり、大工の眞似をしたりするのを咎めない。子女の騒ぐことや

飛び廻はることは、寧ろ大好きである。

ヴンゾオルスト夫人の一著書に、ルーズベルトの書いた序文が掲げられてあるが、其の一節に左の如き文句がある。

若し男にせよ、女にせよ、自分の過失からでなく、他の止むを得ない原因から、一生涯獨身生活をして、家庭生活及び子女の養育から生ずる總ての快樂を失ふことを何とも思はぬものがある。然し故らに結婚を避けて、殆ど無情に均しき冷淡なる心と、子女を愛するを知らざる如き偏屈で自我的な頭腦を有する男女は、實際人類に對する罪人で、且つ總ての健全な人民の爲に、輕蔑すべき害物として取扱はるべきであらう。

此の文に現はれたる彼れの男女觀は多くの批評家に一種異様の感を與へたけれども、其の眞意は決して人類に於ける肉慾を獎勵したのではない。却つて道德上の見地から男女の結婚を論じたのである。即ち單に婦人當然の職分を拘束する自我的思想に對する非難たるに過ぎぬのである。彼れの品性を最も明白に表現したものは、千九百二年彼れの統率せる軍隊に與へた訓令である。其の文中に左の如き一節があつた。

米國名大統領ルーズベルト氏



凡そ聯隊、特に之れに屬する各士官の義務は、其の配下の士卒、取り分け青年兵士に向て、不節制と不道德と及び不潔な生活との結果は、逃がれぬ不幸と憂目であることを實例にて指示することである。而して士官等の常に言ふ所は、必らず之れを生活の上に實現するやうに心掛けなくてはならぬ。國民としての吾人は、我軍隊の勇氣、訓練及び堅忍不拔なる力行に信頼し、且つ之れを誇りとするものである。吾人は此等の性質と相提携して、自制、自重、及び克己の美德を大成せねばならぬ。

彼はオエスター澗頭に於ける青年團體の會合に出席して一場の演説を爲した時にも、以上の趣意を繰り返へし、更に之れを敷衍して左の如く述べた。

今茲に余の演説を聴いて居る諸君は、皆人生の活動的方面及び人生の困難な事業に關係せる、強くして勇氣ある男兒である。従つて又善と惡とを識別せらるゝ人であつて、他人に正しき模範を示すべき力を有する諸君である。余は諸君の記憶せられたる一事を有して居る。そは諸君にして若しも軟弱で且つ汚穢な言を放つやうなことがあつたら、諸君は決して諸君の自尊を維持することが出来ないといふことである。清潔正直なる生活を營まむとする男兒は、同時に清潔な言語を使はなくてはならぬ。之れに反するときには必らず損害を受くるものである。

ルーズベルトが常に信じて居るのは、生活を清潔にすること、精神を醇美にすることは、單純な詩人的理想に優つて居る、天使よりは少し低い性格の人間でも、獸類よりは少し高い生活を營み得るといふことだ。

ホワイト、ハウスに於けるルーズベルトの家庭的な生活は、我等の現時代にも、我等より以前の時代にも類がないとは、米國人の歎美である。ルーズベルト夫妻は、共に同胞に對する同情の深い人である。人類の總ての種族及び事情は、皆ルーズベルトの圓卓の上に乗まつて居る。ルーズベルト夫妻の社交的本能の満足は、其の家庭を以て來客の借樂場となすことである。各種の趣味を有する男女は、常にルーズベルトの家庭に出入して居るから、彼は自己の家庭の外に、世間といふ社交界なるものゝ存在を知らないほどである。社會に於て善を行ひ若くは行ひつゝあるものは、總て彼れの信愛する客である。今日は僧侶が來る、明日は労働黨の首領が來る。其の次日は大學教授が來る、音樂者も來れば、文士も來る、製造家も來る、農夫も來るといふ風で、殆ど應接間の禮法さへ辨へぬ多數人を平等の基礎の上に置くの概があるから、米國第一の高貴な家(大統領官邸)も何となく品位を下だすやうな趣があると評するものがある。彼れの家庭を訪問するものは、皆成功は人をして貴族的ならしむるものだといふことを忘れて、唯だ彼れの眞摯と無頓



著と知らずく敬服するのである。從來大統領の大接見日とか大夜會といふ場合には、頗る豪華を極めたもので、其の儀式などもなかく面倒臭さかつたが、ルーズベルトは此の先例を改良して、成るべく雑沓を少なくし、政治的宴會をもあつさり手輕るにすることゝした。彼は又二つの新奇なることを創めた。一つは冬季に於ける音樂會で、他の一つは新緑の夏季及び花盛りの春季に開く園遊會である。概して政府の社交的風氣はルーズベルトの私的生活に表現せらるゝやうである。彼れが政治的宴會に於て與ふる款待は、彼れが私的生活に於て招待する客に與ふる其れと同様である。彼れは如何なる場合如何なる時に於ても門戸開放主義である。然し彼れの心から愉快を感じるのは、半ダース位の友人と茶話會を開くことで、かういふ小會には儀式張つたことをしないのが慣例である。若し何かの差支があつて早朝訪問の客を引見することが出来なければ、後刻再訪すべき旨を傳へ、同時に家令に命じてかやうく取計らはしめる。天氣の好い日には電報で他の客をも招くことがある。内閣會議日でも、大統領の茶話會後には一人も出席せすに済むことがある。斯る自由勝手なことは南北戦争以來未曾有の現象である。彼れの客を好むことは從來の大統領とは比較にならない。若し彼れの私的宴會が適當に制限されなければ、恐らくは彼れの財布が空となるであらう。何となれば彼は決して富豪翁といはるべき人でないからだ。一

體彼れの交友を好むことは、彼れの父からの遺傳である。父は當時に在ては可なり裕福に暮らして居つた。然し當時は何事も今日よりは小仕掛けで、而も其の財産は五人の子女に分配したのである。

ルーズベルトは父の遺産を受けた外には、何等の金儲仕事をしなことがない。彼れの總ての業務は、却つて金銭を消費することはかりである。而も彼は投機や何かで其の失費を償ふなどといふ手段を常に嫌らつて居る。彼は賭博流の行爲を惡むで居るから、投機に關係することは彼れの良心の許さぬ所であるに相違ない。彼れは官權を經濟上に利用することの恐るべき弊害あるをも十分承知して居るのである。彼は米國の政治的生活に於ける稀有の人物で、二十年間も公衆の眼前に自己の清廉を示したのである。彼れの家族は、衣服に於ても、住宅に於ても、其他必要な生活費に於ても、決して贅澤なことをしない質實と剛健とは實に彼れの尊敬すべき性格といふべしだ。(四十一年十一月)

### クルーゲル氏逝く

英杜戦争の大立者たりし杜國大統領クルーゲル氏は、終に轆轤落魄の晩年を以て其の生涯の收

クルーゲル氏逝く



結を告げたり。彼れは蘭人の血を禀け、十歳の頃、其の父母に伴はれて、ケーブ殖民地よりオレンジ自由國の北方に移住したりき。此の地は文明と野蠻との分界線なりしが、彼れの頭腦も亦た文明と野蠻との兩面を有したりしものに似たり。彼れの教育は頗る不完全にして、バイブル以外に讀みたる書なく、而して新約よりも舊約を愛讀したりといふ。彼れは一種の迷信を懷き、常に人に向て、我れは神より特別の眷寵を蒙るものなりといひ、歴々山谷の間に隠れて默想に耽ることありき。

彼れが年漸く長するや、其の狂熱的野心は、彼れを驅つて南阿の政治舞臺に猛進せしめぬ。彼れは絶えず陰謀を企てたりき。あらゆる紛擾、騷亂、争鬪の主動者として南阿を暴れ廻はり、而して其の煽動に巧みなる手腕は、大に南阿殖民の歡心を得たれば、彼れは四たび杜國の大統領に選ばれたりき。

杜國は曾て英國をして其の獨立を承認せしめたりし國たるに拘らず、彼れ及び彼れの黨與は杜國の土民を煽動して屢々英國の移住民と衝突せしめ、遂に英國政府をして斷然たる處分を下すの止むを得ざるに至らしめたりき。彼れは無識にして世界の形勢に暗らく、英國若し杜國を征伐せば、列國は必らず之れに干渉して杜國を助くべしと思惟せり。然れども孰れの國も、杜國の獨立

に同情を與ふるが爲めに、英國と國際上の紛議を開くを意とせざる如き義俠國はなかりき。さればプレトリア陥落して、戦局殆ど定まるや、彼れは逃れて歐洲に赴き、列國に向て援助を哀請したりと雖も、列國の政府は冷眼を以て此の敗軍の英雄を視たりき。特に獨逸の如きは、始め實に杜國に同情を與ふるの態度を執りしに拘らず、クルーゲルの伯林を通過したる時は、頗る獨逸の君臣に冷遇せられたりしにあらずや。

斯くの如くにして彼れの目的は全く齟齬すると共に、英國の主權は南阿の地に確立せられたりき。世或は彼れが杜國獨立の爲に戦ひたる故を以て、彼れを十九世紀末の義人と稱するものあれども、彼れが果して義人なるや否やは一疑問なり。彼れは聖書を讀みたりといふも、彼れ善く自己の行爲を辯護するの理義を聖書中より引出し得るや否やは又一疑問なり、彼れはクローンウエルに熱氣を加へたる如き人物にして、其の思想の如きも、極めて粗雑にして且つ中古的なりき。

彼れに於て最も著るしき特色は、其の頑硬にして我慢強きこと、英雄に屢は見ると如き質朴にして矯飾の風なかりしこと是れのみ。其の政治的才能乏しかりしは、彼れが前後四回も大統領の位地を占めたるに拘らず、其の治績毫も擧らずして最後には遂に無益の師を興し杜國民をして悲むべき運命に遭逢せしめたるを見るも明かなりとす。要するに彼れは一個の煽動家たるに過ぎず







ふは甚だ疑ふべしと雖も、若し此の二人者相似たる所ありとせば、唯だ其の社會改革の思想に於て略々一致したる傾向ある是れのみ。然れどもクレマンソーのクレマンソーたる所以は寧ろ佛國共和政治の奮闘者たるに在り。彼れが最近十數年間の生涯は少しく振はざりしと雖も、千八百八十三年より九十三年までの佛國の内閣は、彼れの一顰一笑に依て起伏したるの觀ありき。而して彼れの黨與は、佛國代議院の少數黨なりしに非ずや。亦以て彼れが手腕の凡ならざるを知るに足るべし。

且つ彼は自己の所信を主張するに於て、毫も多數の反抗に逢ふを回避せざりき。否、彼は全佛國民を敵とするを恐れざるの勇氣を有せり。ドレーフス事件に對する行動の如きは其の一例なり。彼はドレーフス事件の再審を請求せる文書を發表して佛國民を激昂せしめたるゾラと提携し、憐れなるドレーフスを非猶太感情の猛骸中より救ひ出さむと努力したりき。軍人は勿論、政府も、代議院も、裁判所も、新聞記者も、將た一般の公衆も、滔々相率ゐて人種上の偏見に迷溺するに當りて、彼は人道護持の英雄として、名譽ある義戦を蒙味なる輿論と開きたりき。其の自ら法廷に出で、ドレーフスを辯護するや、判事席の壁上に掛れる基督磔刑の畫圖を指し畏るべき不當判決の此處にも現證せらるゝを見よと絶叫して滿場の冷笑を買ひしも、其後佛國の輿論は終に彼れ

の正論に降服したりき。

政教分離は、佛國に於て最も重大なる内政問題なり。蓋し國家と寺院との關係を絶ち、僧侶の特權を奪ふて國教制度を廢するは、是れ佛國に於ける羅馬舊教を死地に陥るゝものなり。故に政教分離案の一たび出づるや、羅馬法王は直に該案否認の宣言を發し、全佛國の宣教師は屢々示威的大集會を催うして、往々不穩の舉あらむとせり。然れどもクレマンソーの眼中には、初めより羅馬舊教なきのみならず、却つて其の佛國文明の進歩を阻碍するものあるを非難して假藉する所なく、羅馬法王の宣言も、僧侶及び信徒の反對も、殆ど之れを齒牙に介せざるの意氣を以て政教分離の目的を完成せむとせり。彼は自由思索家なり。故に又信仰の自由を主張して國教制度を打破せむとするのみ。

彼は共和政治の忠臣たると同時に最も深く專制政治を憎めり。故に露佛同盟は佛國外交の根軸たるに拘らず、彼れは露國の專制國たる故を以て、獨り此の同盟に反對し、日露戰爭の開始せられたる時の如きは、其の明截率直なる態度を以て、公然日本に同情を表し、露國を罵りて自由の敵文明の賊と爲し、寧ろ日本の爲に破られたるを喜べるものゝ如し。今や彼は新内閣の首相たるに於て是れと共に露佛同盟の基礎が漸次に搖撼せらるべきや否やを斷言し難しと雖も、少なくとも

佛國新首相クレマンソー氏



も佛國の外交政略に若干の變色を見るに至るべきは疑ひを容る可からず。何となればクレマンソ  
ーにして意外なる心理的變化あらざる限りは、彼は第一日本に對する好意を維持すべく、從つて  
其の結果は對日外交の上に現はるゝに相違なく、又彼は從來英國最負なるが故に、英佛の交友は  
更に一層深厚を加ふべきを以てなり。想ふに日英佛の國際關係を如何に協調すべきやは、必らず  
クレマンソーの胸中に横れる一考慮なるべし。

然れども外交に關するクレマンソーの意見は極めて消極的なり。彼は領土擴張を旨とする積極  
的外交を好まざるが爲に、フェリーの殖民政策には頑強なる攻撃を試みたりき。帝國主義は彼れの  
禁條にして、彼れの頭腦は正義、平和、人道の思想を以て鑄成せられたり。是れ英國自由黨の醇  
分を攝取したるに外ならずして、即ち彼れの外交方針は、其の本質に於て、英國現首相バンナ  
ーマンと大同小異なりと見て可なり。故に佛國の外交は、或は彼れに依て改良せらるゝことあるも、  
恐らくは前外相デルカッセ以上の活動を示すことなかるべく、獨逸の現首相ビュロー公と縱横の  
策を闘はす如きは、固より彼れの長所に非るべし。勿論彼は千八百七十年の屈辱を忘るゝものに非  
ず。彼はアルサス、ローレンの割讓を憤るものゝ一人なれども、唯だ浮誇なるヂンゴイズムは彼  
れの與みせざる所たるのみ。若し夫れ佛國內政問題に至ては、社會主義者たる彼れの解決を待つ

べきもの極めて多からむ。彼れの手腕を試験すべきものは、外交に非ずして寧ろ内政問題なるべ  
し。(三十九年十二月)

### 英國現首相アスクイス氏

千九百八年四月二十二日水曜日の朝、時の英國首相カメルバンナーマンは七十二歳で眠るが如  
く遠逝した。是れと共にアスクイスは自ら首相となつて内閣を組織したのである。アスクイスが  
衆議院でバンナーマンの死を弔したる演説の一節中に、下の如き語があつた。——我が英國の年  
代記に於て、バンナーマン氏のやうに、長い歲月の間、政治的奮闘を積み重ねた後始めて最高の位  
地を占め、而も彼れのやうに、一般に且つ深厚に信任せられたる人は殆ど見たことはない。

#### (1) バンナーマンとアスクイス

カメルバンナーマンの生涯は、個人的感化の被及、群衆を支配し、政略を製造し、及び事件を  
決斷する力の不斷の發展であつた。彼れの表面に現はれたる性狀は、如才なきこと、老練なるこ  
と、思慮深きこと、辛棒強きこと、滑稽頓智に富めること、態度の靜穩なること、又彼は何を

英國現首相アスクイス氏



爲しても何を言つても、明白で、率直で、且つ有効であつた。されど此等の性狀は、彼れが首領と爲つた第一の原因ではない。此等の性狀は、彼れに在ては内に包める醇美の核實、驚くべき執著力、及び頑硬なる勇氣の外被たるに過ぎないのである。彼は強者であつた。彼れの精力は困難愈々大にして愈々不撓不屈であつた。彼は氣を使ふて自ら豪とする匹夫でなかつた。彼は最も適當に其の精力を用ゆるの方法を知つて居つた。彼は必要な言ひ必要な事に働らくやうなことをしなかつた。彼は反對黨を批評するに於て、常に寛裕の精神を失はなかつた。決して不親切な放言を政敵に加へることはなかつた。彼れの諧謔は乾燥であつたが、時としては刺激的なこともあつた。然し大抵は適度に之れを使用したのである。

グラッドストンの死後に生じたる自由黨内の嫉妬、煩悶、及び陰險深刻なる紛争に處し、而して千八百九十六年ローズベリー伯の引退と共に殆ど黨勢を四分五裂に導きたる間に於て、カメルパンナーマンは常に堅忍で、忠實で、抜目なく、且つ頗る用心深く、多辯を戒めて居つた。彼は進歩主義の、而も誇大ならざる自由黨政治家の模範であつた。

演説家としてのパンナーマンは敢て雄辯を以て卓越したとは言ひ得ない。彼れの演壇に立つ時は、絶えず覺書に目を著けて居る。時としては言葉切れがしたり、考へ込んだりする。流暢といふ方ではなかつた。然し、其の用語は精確で、言論の漸く佳境の進むに従つて必らず人を謹聴せしむるだけの力があつた。

ウエストミンスターに於ける鋭敏なる觀察者は、曾てパンナーマンを評したことがあつた。彼は能く自由黨を統率して反對黨としての地位を確保することに於て賞賛すべき成功を示した。然し彼は終に議會を指導するの人物ではなかつたと。是れは甚だ酷評ではあるまいか。若し彼れにして反對黨の首領として成功したものとしたならば、自由黨が議會に多數を制するに至つたのも、亦彼れの議會指導の宜しきを得た手際に歸せねばならぬ譯である。彼れの演説は晩年に至て妙境に達した。言ひ廻はしも機敏になつたし、辯舌振りも華やかになつたし、説得の仕方も甘くなつた。彼れの音聲は大多數の聴衆を支配することは出来なかつたが、然し彼れは簡明切實な言語で、直に其の論題の要點に聴衆を觸れしむることに於て、他の何人にも優さつて居つた。従つて聴衆の深かき感動及び集中したる熱心を惹き起すことも得意であつた。彼は屢々狡猾で、而も落ち著き拂つた滑稽を以て、頓馬な質問者を玩弄し、大に議會を笑はすことがあつた。又非常に冷靜な態度を以て、熱中したる反對論者を沈黙せしむることがあつた。彼は兎に角完全なる國會議員の一人といふべきである。



彼れが演説に注意深き準備を爲すのは、自重の念と聴衆に對する敬意から出たのである。希臘羅馬の雄辯家は皆同様であつた。彼れの演説には、デヨンブライトの其れの如く莊重なる美辭を見出すことが少ない。若くはクラッドストンの其れの如く、多趣多彩の能辯を見出すことも稀れである。然し確固なる把握力、討究的眼光、廣濶にして健全なる觀察、精密なる論理、妥當なる措辭、刺激的なる而も好意を失はざる諧謔の巧妙なる使用、及び攻守兩様の討論に長すること、此等の點に於て、疑ひもなくバンナーマンは議會的雄辯家の高き位地に置かるゝ人である。彼れが重大なる儀式の席に於ける演説は、威嚴もあり光彩もあり、感情の自然美もあり、又修辭に於ても精練を極めた所があつて、頗る聴衆を感動せしむる力があつた。グイクトリヤ女皇の崩去を哀悼した演説は、就中有名なものである。

世人は往々彼を單純明白な一平凡漢と認めて居る。然し十分彼れの内面を見たらば、彼れが近代歐洲に於て希有の學者でもあり、最好の語學者でもあることが分かる。彼れの文藝上の趣味は其の智識と均一して居る。それに智識にも趣味にも優さりて機才がある、頓智がある。彼れの名著ラコンターは、痛切と、清新と、間々快活と辛辣とを加へたる會話で、讀者の心を引き著ける。彼れは多方面の人である。彼れは相手を魅するの力ある人である。彼れに接するときは、直ちに

津々たる滑稽味に感ぜざるを得ない。彼れは嚴肅より輕快に、輕快より嚴肅に轉することが容易に出來た。而も彼れは決して自己といふものを失はない。彼れは常に不變の威重、勢力及び操守を保持する強者である。然り彼は實に強者である。其の外面に現はるゝよりは一層強者である。深厚、溫柔、多感等の情緒と、彼れの同時代人に殆ど比類なき自制力、及び物に動せざる安靜の意志とを結合したる人物である。彼れは一面に於ては最も單純な直情徑行な性格を示すと同時に、他の一面に於ては、最も鋭敏な、押の強い、自我心の發達した性格を示して居る。勿論彼れは一般に強者と稱せらるゝ人のやうに、唯だ權力を得て喜ぶといふでもない。又他の高位地に在る人のやうに、唯だ權力を善用するのみで満足するのでもないやうだ。彼れは比較的野心の刺がない。彼れの偉人たる所以は、其の性格が醇乎として醇なるが爲である。

彼れはアスキイスと同時に、グラッドストン翁に見出された衆議院の逸才であつた。然し彼の最初の言動は、餘り院内の注目を惹かなかつた。バルフォアの内閣を破り、自ら首相となりて自由黨内閣を組織するまでは、彼れの名望はさほど重きを政界に爲さなかつたのである。然しグラッドストン近き、ハーコートも近き、尋いでローズベリーも引退したる後の自由黨は、彼れを首領とするより外に黨勢の恢復を謀るの方法はなかつたのである。而して彼れの技倆は、其内閣を組織した







ンに就いて次の如く言つた。

余はクスバートソンの學校に往つた。クスバートソンは最も中和的で、且つ少しも街氣のない先生だつた。多くの人は自己の天才や特性を成るべく現はさうと勉むるの習ひであるが、先生は之れと反對に、成るべく自己を掩蔽しやうと勉めた。

英國民は此の謙遜にして街氣なき教師に對し、寧ろ一つの不平を抱かざるを得ない。何故ならば此自己を掩蔽するといふ行爲は、彼れの死後まで遺風を存し、現に彼れの門弟子の精神上に不滅の印象を與へて居るからである。アスクイスは自己の天才及び人に愛せらるべき美德を故らに包み藏くして居つた。これはクスバートソンに感化せられた結果である。チャムバーレーンは、味方に對しては親切であるが、敵に對しては極めて冷酷である。アスクイスも稍々同じ摸型の人格であるといつても宜らしいと。是れはステッドの觀察である。

## (2) アスクイスの血統及び學生時代

ハーバート、ヘンリー、アスクイスはビュリタンの系統で、ヨークシアア州に生れた。ヨークシア人は、概して摯實な、親切な性情を有する人民であるが、修辭には拙劣で、御世辭を言ふのが嫌らひだ。極めて無作法無愛相である。然し是れは表面だけのことだ。勿論ヨークシア人は、ビュリタンのやうに、或る缺點を性格の上に持つて居る。即ち剛膽不敵の戰闘的性質と、中古騎馬武士の有したやうな俠勇及び溫雅の氣象とを調和し渾成することは、ヨークシア人人には不可能である。アスクイス家は、純粹なるヨークシア人で、其の祖先の一人は、千六百六十四年チャールズ二世に對して反逆を謀りたる徒黨の首領であつた。それでアスクイス家には、自由の爲に奮闘する血液を遺傳したのである。

現英國首相アスクイスが四歳の時であつた。倫敦に於てクリミア戰爭の終結を祝する日曜學校の旗行列があつた。僅か四歳のアスクイスは此一隊に加はり、愛國の軍歌を謳ひながら、勇ましげにモーレー街を歩行して居つた。彼は八歳で父を喪ひ、モラヴィアンの寄宿舎附小學校に二個年居つて、それから倫敦市立學校に入つた。彼は當時フートボールやクリケットなどの運動遊技に時間を費やすことを避けて、毎日一時間つゞを割愛し、圖書室に籠もつて倫敦タイムズを讀むのを樂みにして居つた。此外に彼れは Dickens の小説を愛讀する一人であつた。又た幼年から雄辯術に長じ、修辭の才を現はして居つた。十歳の頃よりは熱心な自由主義者であつたが、而も不思議にも彼は非常の女嫌ひであつた。但し彼れの女嫌ひは女子參政權を否認するより來つたの







ーレンはいつた、アスクイスは調和の精神を缺いて居た。恐らくは彼は反對者と調和するを欲せなかつたであらうと。批評家は言へり、アスクイスの態度は乾燥で、冷静で、多少傲慢な所もある。此の態度の内に、吾人は彼れに與へたるクスバートソンの有害な感化を見出すことが出来る。

彼れがオックスフォードに於ける處女演説は、僧侶の議席を貴族院から取り除くべしとの意見であつた。次に彼は國教廢止に賛成せる演説をした。千八百七十二年の秋季討論會に於て彼は最も猛烈なる小英國派の一人として現はれた。英愛の分裂は、寧ろ殖民地の難問題を根本的に解決するものだと、彼れの演説の趣意であつた。當時彼は帝國主義の反對者であつたのである。彼は又英國衆議院をして保守的反動を歓迎せしむべからずと主張したこともあつた。彼れの政治的思想の傾向は、略々此の時代に表示せられたやうに見える。

オックスフォードの一學長の記述に依れば、アスクイスの能力は夙に人に認められたのみならず、彼れ自ら自己の能力を信じて居つたといふことである。但し彼は強固なる結合を作るの手腕が有つたけれども、十分此の結合を融和することが出来なかつたとも書いてある。彼は學生と共に輪遊びをすることがあつたけれども、ボート競争の際には、單に一個の乗客に過ぎなかつた。彼

は決してクリケットやフットボール等の遊技に加はらなかつた。彼は體力上の競争は概して好きでなかつた。彼は酒の代りに炭酸水を多量に飲むこと、湯浴を過度に愛することが有名であつた。此の運動嫌いの男が、或る日馬に乗つて居つた所を一友人が見て大に驚いたことがあつた。然し彼は會話の材料に富むで居つたから、交遊間に大に持てたといふことである。

### (3) 辯護士時代

アスクイスはオックスフォード大學を卒業してから、専ら法律事務に身を委ぬた。彼は千八百七十六年に始めて法廷に出席したのである。其の頃彼は辯護士の登録を得たばかりで、未だ訴訟依頼者も寄り附かなかつたが、或る一婦人と思ひ思はれて結婚した。時に彼は二十五歳で、英國では早婚の方であつた。辯護士としての成功は頗る遅緩で、餘り世間に顔の賣れる辯護士ではなかつたが、獨りジョージ・レウイスといふ法律家は早くも彼れに注目し、彼れの未來は極めて多望だと言つて居つた。彼れの辯護士時代に於て、公衆の記憶に残りし出來事は、前にも後にも唯だ一つしかない。此の唯一の出來事は實に彼れの名を成さしめた機會である。バーネル對タイムス事件は即ち其れである。彼は先輩のチャーレス・ラッセルと共に、バーネルの辯護を引受けて法廷に



立つた。チャーレス、ラッセルは、タイムスの辯護士ソームスとの對決に疲かれたので、タイムス支配人マクドナルドとの對決はアスクイスに譲つた。アスクイスは未だ無名の辯護士であつたから、判事も傍聴人も、皆輕蔑の目を以て彼を見て居つた。ところが彼れが一たび起立して相手と審問を始めると、其時まで彼れを馬鹿にして居つた法廷内の人氣は俄かに變じて、彼れの能力辯才を認識せざるを得ないやうになつた。高慢で、而も憤りつばい老人のマクドナルドは、不幸にも詐偽漢ピコットの提供せる材料を輕信して、頗る得意の鼻を搖めかして居つたが、アスクイスの最初に放てる質問の矢で、忽ち語塞がり、狼狽へ始めた。屠牛者は甚だ殘酷であつた。彼は牡牛(マクドナルド)の神經を刺激して興奮させた。其れから徐ろにきらりと大刀を鞘より抜きかざして、眞向から斬り附けたから耐らない。見事に牡牛は斃されたのである。其の手際の巧妙なことは目も覺むるやうであつた。此の一成功で、彼は法曹界の英雄となつた。然し彼れが愚直なるマクドナルド及び不注意なるタイムスを弄ぶり殺ろしにしたる機鋒は、如何にも犀利至極であつたが、又同時に峻刻と狡猾とを示して居つた。此の一事は彼れの心が燧石の如く堅く、彼れの意思が鋼鐵の如く冷やかであるといふ印象を世間一般に與へたのである。

今一つアスクイスの技倆を試験した訴訟事件があつた。カンニングハム、クラハム及びジョン

バルンの三名が、トラファルガー街の労働者大會に關係したる故を以て拘引された時、アスクイスは其の辯護人の一人となつて法廷に出席した。彼れは主としてジョンバルンを辯護するの任に當つたのである。彼れの辯論は頗る振つたもので、永く法曹界の紀念となつた位であつたけれども、ジョンバルンは敗訴となつて牢獄に投せられた。

#### (4) 議會生活に入る

アスクイスは千八百八十六年に衆議院議員となつた。彼れが議員候補者としての旗幟は、自治法案を賛成することであつた。彼れは自由黨中の急進派に加はつて、グラッドストンを援助したのであつた。但し彼れが最初から急進派であつたか、又果して自治論者であつたかといふことは、急進派及び自治黨の多數に疑はれて居つた。現に此の點に付ては世間に種々の議論があつたのである。然しグラッドストンは彼れの信用に奥書をしてくれたから、彼れは首尾よく當選し得たのである。

彼れが議會生活の第一著は、合の子制度で愛蘭を支配せむとする統一派の政治的欺瞞を攻撃することであつた。彼れが政綱説明者としての大成功は、千八百八十七年ノッチンハムの自由黨選



舉區に於て、グラッドストンの決定したる主義及びグラッドストンの指導の下に、愛蘭問題を一日も早く解決せむとする或る決議案に關する演説であつた。彼は傍聴者をしてグラッドストンの命のまに／＼服従するに至らしめたほどの雄辯を揮つた。其れから彼は衆議院で自治法案に於けるデヨンモーレーの修正動議を賛成した。二年の後、彼は又自治法案及び貴族院改造に付て演説したる際、愛蘭自治の完全なる政略を宣告した。グラッドストンは此の宣告に是認を與へたのである。次に彼は議員歳費増加の熱心なる主張者であつた。彼れ曰く、議員に拂ふべき金額は、適當にして合理なる程度に於て定めたる職務上の俸給でなければいかぬ。即ち此の方法に依て戸位素餐の人を減じ、不合理なる年金若しくは老朽救助制を撤去することが出来る。

千八百九十二年の總選舉に於て、彼はイーストファイフから再選された。彼れの選舉區に發表したる宣言は、急進派の眞面目を現はしたものだ。其時まで彼は明白なる自治法案賛成者であつたが、該宣言の中に左の一節がある。

地方的自治と帝國の優越權力とを調和する方法を困難だと思ふのは、實行的政治家にあらざる學究の心配に過ぎないのである。此の心配は健全なる觀念及び信條に依て消散するに相違ない。社會改良問題に付ては、彼れの言ふ所左の如し。

人民が從來久しく半知半解の間に迷ひ、今や是非とも精確な表現を得むとして居る新要求がある。之を解決するは目下の必要である。余は思ふ、社會の群衆的行動は、消極的並びに積極的に行はるべきものである。即ち一方に於ては引き上げべきものあり、一方に於ては平均せしむべきものがある。又特權を除くよりも機會均等にした方が宜しい。個人の自由の如きも、言論上の主張とせず、之を實際的享有としなければならぬ。

といふのが、アスクイスの意見であつた。

再選後開會の衆議院に於て、彼は勅語修正動議の提出者であつた。尋いでグラッドストン内閣は組織せられ、彼れは始めて入閣して其の内務大臣となつた。雜誌スペクターは評して、彼れが内務大臣に任せられたのは、自治法案を中心として政局全體の大波瀾を捲き起した重なる主動者であつて、且急進自由黨の首領であるからだといつたのは至當である。今日のアスクイスも依然として急進主義者である。自治法案主張者としては、モーレーに次ぐほどの熱心を持つて居る。

(5) 内務大臣としてのアスクイス

英國現首相アスクイス氏



アスクイスの眞面目は、内務大臣となつてから稍々掩蔽されたやうだと評するものがあつた。然しオックスフォード以來人に知られた彼れの特質、即ち演説の鋒鏘があつて單刀直入的なことや、反對黨に對して非讓歩的なことなどは、少しも變化しない。而して此の非讓歩的態度は彼れの内務大臣在勤中にも屢々現はれたのである。

第一はトラファルガー街路事件として知られたる問題に對する彼れの措置である。曩に保守黨政府はトラファルガー街を以て公衆の大集會場とするを禁じた時、アスクイスはグラハム、バルン等の辯護人となつて、トラファルガー街路に於ける集會の權利を主張したことがある。そこで倫敦の自由黨派は此の權利を恢復せむことを内務大臣たるアスクイスに請願した。然るにアスクイスの答は意外であつた。彼れは言つた、千八百八十七年に起つた事件の状態は、忍ぶべからざる公衆の不便を構成する、余は首府の平和と秩序とを保持する責任ある限り、到底斯くの如き請願を許容することが出来ない。但し水曜、日曜、及び銀行祭日だけは、適當な警察上の注意を與へた上で、該街路を集會に使用することを得せしめやうと、彼れの口吻は極めて強固であつた。次は爆裂彈を使用した暴徒の處分問題である。愛蘭人は此等の暴徒を政治上の志士と認め、愛蘭黨の領袖レッドミンドは彼等の放免を内務大臣に請願した。アスクイスは之れを許さない。雷に許さ

ないばかりか、例の非讓歩的態度で極めて嚴肅に下の如く宣言した。彼等暴徒は、寛典を與ふる限りでない。彼等は英國政府に對して何等の考慮を要求し得る人間ではない。又彼等は何等の考慮に價すべき動物ではない。次はフェーザーストンの炭坑に於ける同盟罷工事件である。此の同盟罷工に關する事實は、最早英國人間にも忘れられて居るが、曾てフェーザーストンの炭坑に於て坑夫が同盟して就業を停止した上に、坑害を攻撃し、器械を破壊し、坑業上の建物を焼拂はむと企てたことがあつた。そこで地方官は内務大臣に電報を發し、此の際軍隊を派遣しなければ到底法律を勵行し、秩序を維持することが出来ないといつた。内務大臣は此の電報を接手すると同時に、直ちに陸軍大臣に交渉して軍隊を派遣した。而も猛惡なる坑夫は毫も解散の模様なく、軍隊に抵抗して益々暴行を逞うした。地方官は政府の訓令を讀み聞かせ、彼等に向つて懇篤に其の不心得を諭したけれども、彼等の狼藉は止まないから、其の巨魁とも覺しきも二名を殺した。其れで騒動は鎮まつた。アスクイスは更に委員を任命して事件の真相を審査せしむることにした。其の審査の結果は、地方官及び軍隊に一の過失がないといふことに委員の意見は一致したのである。

如上の事件に對するアスクイスの措置は、一部の社會からは可なり惡評を受けた。然し多數者



は彼を近代英國に於ける最も偉大な内務大臣と賞賛した。彼は立法上に於ては工場條例を設け、行政上に於ては労働者の生活状態を改良すべく有らゆる手段を行つた。婦人を以て工場の監視者としたのも彼れの一案であつた。彼は又雇主の責任法を立案した。監獄を釐革した。彼は社會改良家と目せられたのである。彼れの仕事振りを見た人々、例へばマッシンハムの如きは、アスキス崇拜者の最も極端なるものであつた。

アスキスはグラッドストーン内閣の内務大臣として、首相の信任を得たことは非常なものであつた。閣僚中、特にトウエードマウス卿などは、グラッドストーン隠退の後には、ロースベリーよりも、アスキスの方が首相として適任だと堅く信じて居つた。然しグラッドストーンに代つて首相となつた人は、アスキスにあらざしてロースベリーであつた。而してアスキスはグラッドストーンに忠實であつた如くに亦ロースベリーにも忠實であつた。但し彼は忠實であるだけ其れだけ、場合に依てはロースベリーと激しく論争を爲したこともあつた。屢々堅確なる意見を提出して、優柔不斷なロースベリーの政策を壓倒したこともあつた。又彼は其の首領に忠實なると同時に、其の部下にも親切であつた。彼れの政府に在ることは、恰も内政全體に於ける革命の記章であつた。内務大臣としての彼れの行徑には三個の特色があつた。第一は正義を少しも曲げない行政、第二

は産業に關する立法上の改革、及び智見あつて而も紀律ある行政、第三はウエールズに於ける寺院の特權を廢したること、是れである。彼は自由主義者である。近時英國國民の自由運動は稍々退歩したやうであるが、今日よりも自由運動の旺盛な時代に於ては、アスキスは實に之れがチャムピオンであつた。

### (6) 自由黨分裂後のアスキス

ロースベリー伯が首相を辭職し、アスキスも其の同僚と野に下だつて反對側に立つた時、彼は生活上の必要から再び辯護士を開業した。彼は此の繁劇な事務と衆議院の活動とを結合するとは甚だ困難であつたけども、幸ひに彼れの身體は壯健で、彼れの氣力もなかく強固であるから、裁判所と衆議院とを掛け持ちにして尙ほ綽々餘裕があつた。

既にしてロースベリーは自由黨の首領を罷め、ハーコートも亦引退したので、自由黨は首領を選定すべく大會を開いた。首領としての候補者は二人しかなかつた。即ちヘンリーカメルバンナマンと、アスキスとあるのみだ。大會の多數は年長者たるカメルバンナマンを首領に選舉した。是れ應がて未來の首相たるべき印綬である。アスキスは之れに對して不平もなく失望も



なく、先代の首領に盡くしたと同様の忠實を以て新首領に盡くした。ところがポア戦争に關して、バンナーマンとアスクイスとの間に意見が衝突して一時分裂の狀を呈した。其の事情は次の如くである。

カメルバンナーマンがホルボルン料理屋の宴會に招待せられた時、彼は南弗事件に於ける政府の野蠻的手段を非難したる重要な演説を試みた。此演説は自由黨の運命に大なる變化を促がすものであつた。アスクイスは招待を受けなかつた。開戦に同意したるものは總て招待を受けなかつた。アスクイスはバンナーマンに向つて、成るべく持重の態度を執り、自由黨の非戦論者にも開戦論者にも孰れにも傾かない様にせられたいと請ふたのである。バンナーマンは十分の敬意を表して彼れの意見を聞き取つた。然し此の老政治家の鋭敏なる政治的本能及び熱烈なる感情は、到底アスクイスの勸告に従ふことが出来なかつた。斯くてバンナーマンは宴會の席上に於て、戦争非難の演説をしたのである。此の演説の結果は、ローズベリーを會長としたる自由同盟會を成立せしめ、アスクイス、エドワードクレイ、ハルデー等諸名士も之れに加はり、カメルバンナーマンは比較的少數の非戦派を率ゐて孤立するに至つた。如上の事情は、久しく繼續してあつたが、次の總選舉で形勢は一變した。

アスクイスは南弗事件に付てローズベリーと同一歩調を執つたけれども、彼はカメルバンナーマンとの交友を犠牲にしてまでも、自由同盟會に追隨する人ではなかつた。此の二政治家の關係は従前と毫も異なる所はなかつた。其の證據は、バンナーマンがアスクイスの純粹な性格及び擊實な意見に強き尊敬を拂つて居つたのを見ても分かる。更に他の證據がある。自由同盟會の組織せられた少し後のことであつた。バンナーマンが妻を喪つて深き悲歎に沈んだ時、アスクイスは誰よりも熱切な同情を表したから、バンナーマンは頗る彼れの友誼に感泣した、バンナーマン首相となりて内閣を組織するに當り、第一に入閣の相談を受けたものはアスクイスであつた。アスクイスは欣然として之れを承諾した。與へられたる位地は大藏大臣で、此の就任は自由同盟會が自己の利益の爲に企てたる或る未熟の陰謀を癒弊せしめたのである。而してアスクイスは表裏二様の行動を爲さなかつた。後年バンナーマンはアスクイスを評し、彼は世に二人となき忠實なる同僚なりといつて居つた。兩政治家の個人的關係は、最後まで濃情を極めたる親密であつた。若しバンナーマンが安心して首相を辭職することが出来たとすれば、其れは自己の後任者にアスクイスが在るといふ信念を持つて居るからだといはれた位だ。



(7) アスクイスの政策

アスクイスが自由黨の爲に盡くした功勞を擧ぐるには、先づチャムパーレーンの關稅政策を打破すべく奮闘したことを除く譯けにはいかな。多數の自由主義者は、皆な同一行動に出たけれど、アスクイスの行動は獨り群を抜いて居つた。チャムパーレーンの演説する處には、アスクイスは必らず追躡して駁論をやつた。彼の演説は、思想が緻密で、理論が嚴正で、説破法が犀利で、非常の手傷をチャムパーレーンに負はした、其れが爲に、最近の總選舉で稅關改革派を全然失敗に歸せしめた。

大藏大臣としての彼は、特許條例の提出に付いて國民の智識及び良心に對して一の高貴な演説をやつた外に、立法上に於ては格別の仕事を爲さないやうである。パンナーマン内閣の最後の數個月間に於て、アスクイスは衆議院の院内總理であつた。彼は衆議院に於て、二強國を標準とせる國防論を發表したが、其の演説は、調査委員の報告よりも大なる満足を議會に與へたらしい。然し彼の國防標準は帝國の安固を十分に維持するが爲に必要な標準より低いと認められたやうだ。外交問題に付いては、彼は常に正理を旨として居る。彼は他の英國政治家よりも一層強く英米兩

國の親密な交友を維持せむと努めて居る。米西戰爭の際彼は演説して曰く、余は最初から米國に全然誠實に同情を表して居ると。彼は又キューバの解放に關し、米國の人民は、人道及び自由の要求を容認して居る彼等は世界の大國に向つて一の善良なる實例を示すものであると賞讃した。同年彼は更に語つたことがある。單に變はり易い一時の熱情に依てははなく、一の強固で永久的な紐帶に依て、二個の英國民を結合することは、極めて愉快なことだと。英米兩國間の善感を進むることは從來稍々空想に屬して居るやうだつたが、アスクイスは此の空想が固成結晶して終に現時の如き確乎たる實體を作るに至つたのを大に喜んで居るらしい。

要するに、彼れの外交政策は、世界の平和を目的とするのである。彼は英國民多數者の如き露國嫌ひではないと見られて居る。彼は倫敦とビーターズポルクとの間に好關係を成立せしめむと努力する一人である。彼はカメルパンナーマンの傳來政略を忠實に繼紹する政治家である。彼は日英同盟、英佛協商等の主義を維持すると共に、他の列國に對しても勉めて友交的關係を破らざるの方針を持つて居る。



(8) 總理大臣としてのアスクイス

彼は首相として何を爲すだらうかとは、中外皆目を刮して居るのだ。前首相バンナーマンは無類の熟練と圓満なる超然政略を以て議會に大多數を占めたが、此の大多數をアスクイスが其まゝ引續いたのである。バンナーマンは、自己の内閣及び衆議院に於て、彼れと同僚若くは自由黨内の種々の分子が、各々其の好む所に従がつて勝手に進退することを苦にしなかつた。彼は曾て同僚の行動に干渉したことがない。ヘイグ平和會議の際、彼れと同僚の一人が、自己の政府の立場から考へて、實際有害と思はるゝことに同意したのを見てさへも、公然之れを指摘しては内閣の調和を破ることを恐れ、唯だ内心で悲んだのみであつた。

バンナーマンの手段に遵由して成功を得むことは、アスクイスに限らず、誰れにも出来ないことである。特にアスクイスに在ては、氣質からいつても傾向から言つても、到底バンナーマンの眞似は出来ない。アスクイスはバンナーマンよりは今少し緊つかりと手綱を締めて馬を御する方である。アスクイスは英國の大使が本國政略と少しにても扞格衝突する行動に出づるのを承認せざる人である。アスクイスは不得要領の態度を好まぬ人である。彼は曾て内務省を支配したやう

に内閣を支配せむと努むる人である。即ち彼は彼れの周圍に總ての同僚を充分に統合して自己の命令に服従させずに置かぬ人である。而して彼れの同僚は皆彼れが公務に對して献身的でもあり、又た犠牲的精神の強いといふことも深く信するに相違ない。

然し彼れの位地は甚だ困難である。貴族院は實際に於て最後の票決權を持つて居るから、彼れ及び彼れの内閣並びに彼れの有する多數黨は、常に貴族院の爲めに手足を羈束せられて立法上の自由を行ふことが出来ない。是れ英國政界に現はれた近時の一變象である。彼れは強固なる首相であるけれども、果して貴族院を改造し得べきや否やは、随分覺束ないやうに思はれる。

(四十一年十一月)

英國保守黨首領バルフォア氏

(上) バルフォアの小傳

アーサー、ゼームス、バルフォアは、千八百四十八年に生れたから、當年は丁度六十歳である。父はゼームス、メートランド・バルフォアといひ、母はフランシ、メリー、ハリエットといつて、故サリスバリー侯の第二女である。小バルフォアは初めイトンの學校で教育され、尋いで

英國保守黨首領バルフォア氏



ケンブリッジ大學に於て政治學を修め、卒業後間もなくハートフォルト州から衆議院議員に當選された。千八百七十四年から千八百八十五年までは、一回も落選せずして、ハートフォルト州を代表して居つたのである。

千八百七十八年故サリスバリーがダービー伯に代つて外務大臣となつた時、バルフォアは侯の秘書官に任せられた。これが彼れの政治的練習の上に少なからざる便宜を興ふる恰好の位地であつた。此の年伯林に列國會議があつて、サリスバリー侯は、時の首相ビーコンスフィールドと共に英國の全權大使として此れに出席したが、バルフォアは侯の隨行員となりて伯林に往き、親しく露土事件の協定に關聯せる國際政治の活動を目撃して大なる經驗を得たのである。其頃彼は哲學的懷疑の防禦と題せる一書を著述して、智力の優秀と文學上の才能を發揮した。彼は此の著書に於て、一個の思想家としても確かに相應の位地を占め得べき未來あることを暗示したのである。然し彼れは政治的事業を傳統としたる階級に生れたので、一面に於ては政治界に力を盡くし、他の一面に於ては書齋に於ての研究に時間を割愛する方針を取つた。

千八百八十年の總選舉以來、彼は秘書官の仕事よりも、寧ろ議會の仕事に精力を注ぐことゝなつた。當時彼はランドルフ、チャーチル、ヘンリードラモンドウオルフ、チヨンゴルスド等と四部合奏の政治的同盟を形成し、衆議院の第四黨フオースターと稱せられた。之れが牛耳を執つたものはランドルフチャーチルで、スタッフオードノースコート、クロツス、其他の老人組に反對して盛むに自由批評を事としたのである。然しバルフォアのみは、單に政治趣味の上から此の同盟に加つたわけで、政黨政派の利害關係には極めて冷淡であつたらしい。

彼は元來蒲柳の質であつたから、たとひ彼れの智力は大きいにしたところで、其の體力と氣力が果して政治生活に適して居るかどうかは、最初から疑問であつた。彼は第四黨の變り者であつた、別段是れといふ確乎たる野心もないやうに見え、唯だ他の三人の仲間の爲めに雜役に服して居つた位である。彼れが千八百八十年より八十六年までの議會に於ける名聲は、一種の道樂者といふことであつた。眞面目に政事に従事する模様はなく、氣儘に、無責任な行動を以て議會に浮沈して居つたからである。稀れに演説を試みることもあつても、學究的調子を帯びた言論のみで、政治問題に實際的貢獻を爲すものとは認められなかつた。であるから衆議院に於ても、十分彼れに望みを屬するものはなく、此ののらくら男が議會に在るのは、要するに唯だ彼れが政治的階級に生れた因縁に外ならぬと一般の代議士は想像したのである。然し彼は無頓著の間には稍々犬儒派の狡猾と、どこかに奥床しき所あるを仄めかして居つた。



サリスバリーの第一次内閣には、バルフォアは地方政務局長に任せられ、其の第二次内閣の際には、スコットランド事務大臣として内閣の一椅子を與へられた。然し此等の官職は、單にバルフォアを局部的責任の位地に置いたゞけで、彼れの卓越した才能を現はさしむるには足らなかつた。ところが茲に彼れの政治的生涯を發展せしむる出來事が起つて、俄かに彼れの名譽を高め、彼れをしてサリスバリーに次いで保守黨中の最も傑出したる政治家たらしめた。其の出來事とは外でもない。愛蘭事務大臣ミカエルヒックススピーチが眼病の爲めに辭職したので、サリスバリーはバルフォアを其の後任者としたことである。此の選任は政治界を驚かし、種々の批評を惹き起した。特に愛蘭黨は侮蔑と嘲弄とを以て之れを迎へた。然し何人も彼れの強力なる意思、彼れの討論に長じたること、彼れの戰闘的能力、及び世の毀譽褒貶に動かされざる彼れの冷腦を信せざるを得なかつた。犯罪法案及び愛蘭土地條例案の提出せられた時に於ける彼れの確乎不拔な言動は、衆議院及び國民をして、愛蘭事務大臣としての彼は最も適材であることを認識せしめたのである。彼は愛蘭に對して強壓政略を執つた。彼は何の遲疑する所もなく犯罪法を厲行し、併せて行政上の改革をも施した。彼は今日一つの改革を行ふと、明日又他の改革を行ひ、内外から脅迫する有らゆる危険を物の數ともせずして奮闘した。此の時代の彼れの働らきは近代の英國議

會史及愛蘭行政に於て最も紛亂混雜を極めたる時代に處したる仕事であつた。彼は屈撓せざる勇氣を揮つて、愛蘭國民黨の戰略を打破した。衆議院に於ては、彼は常に愛蘭國民黨の攻撃に抵抗して一步も譲らなかつたばかりでない。更に中央の自治黨と論戰を繼續して花々しく奮闘したのである。彼は鋼鐵狀の意思と、巧みに事實を把持するの力とを結合した。出來事は疑ひなく、彼れの爲めに都合善かつたのである。バーネルの非行審査委員の報告やら、オーシエア夫人の離婚手續やら、バーネルの信用失墜やら、愛蘭國民黨の腐敗やら、此等の出來事は、皆彼れの仕事を助けたのである。而も彼は確乎たる手腕と迷はざる智見とを以て愛蘭國民黨の犯罪者を減少せしめ、此の外彼は愛蘭の物質的繁榮及び社會的進歩を増進せしむるの方針を執つた。

此の時代即ち千八百八十六年より九十二年までの間に、彼れの雄辯は著るしく發達し、彼れをして最も有力なる公會演説家の一人たらしめた。彼れの演説は辯論の方法よりも、材料の豊富と論理の精確を以て印象を聽衆に與へた。稀れにはブライト、若くはグラッドストンの演説に於て見る如き雄辯の妙域に達したこともあつた。特に其の文學的姿態は、單純なる政治家の其れよりも多數の聽衆に満足を與ふる所があつた。

千八百九十一年大藏大臣スミスが死んだので、バルフォアは其の後任者となり、同時に衆議



院に於ける保守黨の首領となつた。其の際彼は愛蘭地方政治法案を提出したけれども、最早保守黨の内閣は倒れかゝつて居つたので、此の法案は其のまゝ葬られて了つた。次の三年間には、彼は其の老練なる技倆と雄辯とを以て、能く反對黨首領の責任を盡くした。千八百九十五年保守黨内閣が再び組織せられたので、彼は復た衆議院の院内總理となつて、大に院の内外から信用を受けた。此年の議會に於て、彼は愛蘭の地方政治改革案を通過せしめ、其の他内治外交に關する諸問題に於て活氣ある討論者であつた。特に自由教育問題に付ては、彼の言動は頗る人の耳目を惹いた。院内總理たらざりし以前に比すれば、彼れの演説も仕事振れも共に大なる進歩を示した。千八百九十八年首相サリスバリーが病氣で事を視ることが出来ないので、外交事務はバルフォアが兼攝して居つた。此の間彼は北支那鐵道問題に付て、露國と重要な協商を始め、確乎たる方針と交讓的用意とを以て、兩強國の國際上に於ける危険を排除し、北支那に於ける機會均等主義を設定した。翌九十九年トランスバールとの交渉事件に付ては、彼は責任ある閣員の一人として、反對黨と論戰する役目を十分に盡くし、尋いで戰爭中に於ては、彼れの崇高なる性格と人を魅する一種の力は、包圍攻撃に陥りたる内閣を助けたことが少なくない。元來彼れが議院に於ける行動の丁寧親切などは、反對黨よりも敬愛を拂はれて居つたのである。越て千九百年の總選

舉には、彼は二千四百五十二票の多数で東部マンチエスターから選出された。此地は千八百八十五年以來彼れの代表選舉區である。内閣に於ける彼は、依然大藏大臣の職を繼續し、而して新議院に於ける彼は、政府黨の院内總理として、其の會期の初めより排難解紛の手腕頗る強固を加へたものゝやうであつた。但し此の新議院には、千八百九十六年に遭遇したやうな批評が再び起つて、彼れを無法と言ひ罵る聲が大分高まつたのである。彼れが新議院に於て最高度の働らきを現はすことの出来なかつたのは、南弗問題に於ける位地の關係に原因したので、此の問題は議院及び國民の智識的勢力を集中しても容易に解決されぬほどの大問題であつたのだ。

千九百二年サリスバリー退隱の後を繼いで、彼は首相となつたが、此の就任は、統一黨の總ての團體から喝采を以て歡迎せられた。爾來彼れが首相として爲したる事業の中、最も重大なるものは、滿洲問題に於て終始日本政府と提携して遂に日英同盟を締結したことである。滿洲問題を正當の方向に進ませたのは、主として此の同盟の力といつても宜うしい。英國は從來外交上に於て他國と同盟條約を締結した歴史を有しない。常に名譽ある孤立を以て自ら誇つて居つたのである。然るにバルフォアの内閣は、英國の歴史に負きて絶東の一帝國と同盟條約を締結した。此の英斷が頗る世界の耳目を驚かしたも無理はない。況して一方の締約者は、宗教人種を異にせ



る日本であるから、一層列國政府に不意打ちを喰はしたやうな感じがあつたに違ひない。此の同盟に依りて北清地方に於ける英國の根據を安全ならしめた効果は至大なるものである。而して此の同盟に付ては、英國國民は殆ど一致して賛成し、反對黨の領袖も公然同意を表明した位であつた。尋いで日露戦争開け、日本軍は連戦連勝して、大局の形勢も略々定まるに及びて、日英兩國政府の間に、同盟條約の意義を更に擴張して攻守同盟となすことに決し、其の條文は千九百五年ボーマス媾和の成立と共に發表し、此年を以て兩國の内閣は、不思議にも殆ど同時に更迭した。

(下) バルフォアとチャムバーレーン

英國人民はバルフォアを首相としたる内閣を保守黨の内閣といはないで、統一派の内閣といつて居つた。これには仔細のあることで、決して偶然ではない。統一派といふはチャムバーレーンを中心とした一派で、元をたゞせばグラッドストンの愛蘭自治案に反對せる連中に與へた名稱である。自由黨は此愛蘭自治案の爲めに分裂して、多くの名士を失つた。是等の諸名士は自由黨を去ると共に、大英國統一を標榜として遂に保守黨と聯合し、自由黨と對抗するやうになつた。サリスバリーの組織した内閣の案外鞏固であつたのは、統一派の援助を得たからである。而して其の統

一派の精神骨髄ともいふべく又其の總代表者ともいふべきものは、實にチャムバーレーンである。サリスバリーの内閣は、疑ひもなくチャムバーレーンに依て鼎の重きを爲したのである。且つ實際に於てもサリスバリーの内閣で最も才幹伎倆の卓出したものは誰れであるかと問ふものがあつたら、英國人民の多数はチャンバーレーンであると答ふに違ひなかつたと思ふ。故に實力からいへばサリスバリーの後を繼いで首相たるべき人はチャムバーレーンであるといはなければならぬ。然しながら保守黨に對するチャムバーレーンの位地は、恰も客將のやうな具合である。又チャムバーレーンの辣腕では却つて敵を作るの恐れもあるから、サリスバリーの親戚で、而も統一派にも受けの好いバルフォアが其の後を承けて首相となつたのである。

バルフォアを首相としての保守黨内閣は、益々チャムバーレーンに感化せられて來た。傳來の保守主義は次第にチャムバーレーン式の模様に変化して、内治に於ても、外交に於ても著るしき異彩を放つに至つた。換言せばバルフォア内閣の政策は、チャムバーレーンに依て創定された新帝國主義を眼目とする傾があつた。統一派の内閣と稱せられたのは、即ち之れが爲であつたのだ。彼はバルフォア内閣に在て殖民大臣たりしに過ぎなかつたけれども、英國人民は彼を一大臣と見ないで、大英國の統御者と認めたのである。極端の人物崇拜家の如きは、彼を以て英國のサー



である、カイザルであると批評した位であつた。

然しながらチャムバーレーンが餘りに手腕を使ひ過ぎたのは、バルフォア内閣の倒れた原因の一つであつたかも知れない。元來個人としてのバルフォアは、政友にも政敵にも同様に敬愛される人である。彼はチャムバーレーンが被むつたやうな激烈な敵對的となる人格ではない。彼が會て愛蘭總督に向て、發砲しても構はないから、暴徒を鎮壓せよと命じた時すらも、愛蘭人はフォルスターを憎みし如くに彼を憎まなかつた。彼は反對黨の悪感を挑發することなしに巧みに敵を挫くの術を最も有効に使用することが出来る。であるから彼は殆ど三十餘年の長い間、保守黨中一個卓出の地位を占めて居つたにも拘らず、未だ一度もチャムバーレーンのやうに酷い攻撃を受けたことがないのである。議院の内外に於ける彼の演説は、概して眞面目な道理を眞面目に語つたものである。是れ一般英國國民の認むる所である。彼は故らに喝采を得むが爲に詭辯を弄することをしない。雅美で而も感興的な會合の席上でも、彼は決して華麗な言語を用ゐることがない。彼れの方法が善くとも悪くとも、彼れの方法が聰慧であつても淺薄であつても、彼れの結果が穩健であつても其の反對であつても、彼れ演説は常に敬意を以て聽かるるのである。彼は感情に訴へずして道理に訴ふることを好む。是れが彼れの眞價の在る所だと思ふ。勿論さうする

ことが輿論の指導者として果して適當であるかどうかは疑問であらう。グラッドストーンは、感動的情想を刺激する力を最も多く使用した政治家であつた。此の力は道理を捕虜として、之れを一般に公衆の熱心と稱する沒理的感情に左右せしむる作用あるものだ。チャムバーレーンも亦此の力を使用するに於てグラッドストーンに劣らない。獨りバルフォアは此點に於て全くチャムバーレーンと異がつて居る。彼れが個人的尊敬を得且つ之れを維持するの能力、及び公問題を論議するに非感情的的方法を使用することは、世間の皆認識する所である。彼れの演説、及び彼れの政略は共に國民の熱心を激動することに失敗して居る。恐らくは之れに成功することは彼れの希望でないかも知れぬ。保守黨といへるものを組織する所の輿論の一體が、道理に據つて動かないで熱烈なる感情で動くことは、彼れの欲しない所であると思える。たとひ彼れがさうしやうと思ふことがあつても、決して之れを濫用することがない。故に彼は公衆の熱心な歓迎を受くることがないけれども、其代りに政敵から毒舌を以て攻撃せらるゝこともないのである。チャムバーレーンの遣り口は全く反對だ。彼は第一に公衆の感情を見る、次に道理に行くといふ方で、バルフォアに比すれば、手管が多い。従つて敵を作ることも多いのである。

バルフォアは現時自由黨内閣の反對黨首領として屹然群を抜いて居る。人望に於ても、政治上



の経験に於ても、天賦の才能に於ても、彼は侏儒中の巨人である。今や彼れと同時代の人物にして政界の巨人たるものは大抵影を無くしてしまつた。彼は議院に於ける最能者の一人で、彼れの間僚の何人も彼れに比敵すべき能力を有するものがない。彼は辯士として、政略家として、又人間の統率者として、殆ど天才を有して居る。議院に於て、彼れの如く巧妙な、敏捷な、そして有力な討論家はない。チャムバーレーンが退隱してより、彼は魚族中に於ける半人半魚の海神である。若しチャムバーレーンの健康が十分回復したならば、彼或はバルフォアアの位地を横奪するかも知れぬけれども、事實の示すが如く、バルフォアアは現に保守黨の唯一可能的首領である。グラッドストーンが公生涯を去らざりし間は、彼は自由黨の絶對的必要な首領であつた。バルフォアアの今日も亦同一である。否、保守黨に於ける彼はグラッドストーンの自由黨に於けりしよりも更に一層高い位置を占めて居る。然しながら彼れの秀でたる能力、大なる経験を以てしても、彼れに對する英國人民の信望は、政治上よりいふときは甚だ不足して居るやうだ。

目下保守黨の有する熱切な政治的感情は、バルフォアアの注意を拂ひつゝある事物に傾かないで、専らチャムバーレーンの注意せる事物に向つて發現して居る。若しチャムバーレーンの健康が不良でないとしたら、バルフォアアは勢ひチャムバーレーンの大傘の下に致さるゝの外はなから

う。さもなくば保守黨の活動的分子、若くは熱心強き部分は、チャムバーレーンの方に赴くであらう。此等の活動的分子は、バルフォアアよりも寧ろチャムバーレーンに望みを屬して居るのだ。其の仔細はかうだ。チャムバーレーンは殖民地特惠關稅策といふ外套の裡面に於て、保守黨の渴望せる保護政策を豫約したからである。チャムバーレーンは最早實際政治の人ではないけれども、保守黨中には、關稅改革を旗幟として自由黨と選舉區で争はむとするものが随分多數である。なせかといふに、選舉區に於ける保守黨の最も活動的な有力者は、其の頭腦常に保護主義で固まつて居るからである。然しながら保護主義は英國に在ては人望あるものでない。英國が農業國として立つならば知らぬこと。製造工業國として立つ限りは、恐らくは自由貿易の論據は容易に頹るゝものではない。故に保守黨にして全然保護主義を採用するに於ては、其の勢力を失ふの狀は、丁度自由黨が自治案で分裂したのと同じであらうと思ふ。千九百六年の總選舉で、保守黨が非常の打撃を受け、其結果自由黨内閣の優勢なる成立を見るに至つたのも、チャムバーレーンの關稅改革が祟つたのである。バルフォアアはチャムバーレーンの關稅改革に賛成しながら、保護主義に對して明白な態度を執らない。これは英國傳來の自由貿易に反對することは、最も恐なる政略であると信じたからである。然しながらチャムバーレーンの關稅改革に賛成することは、其の結論に於て保護主義を



是認すること、ならねばならぬ。斯くてバルフォアはデレンマの位地に陥つたのである。

英國現時の政界は、自由黨萬歳で、保守黨は萎靡不振を極めて居る。純然たる保守黨と、チャムバーレーンを中心として起つた統一派とは多少歩趨を異にして居るやうである。自由黨の内部が分裂するとの無い限りは、保守黨は暫らく蟄伏して時機を待つの外はない。従つてバルフォアも頗る寂寞の境遇に在るのである。唯だ彼れ春秋尙ほ六十年である。六十年といへば、第一流の政治家に在ては尙ほ若手であるから、彼の未來は敢て絶望とはいはれない。特に彼は能力に於ても經驗に於ても、人格に於ても保守黨の一品であつて、自由黨のアスキイスと對抗して優る所あるとも、劣る所はないから、早晚捲土重來の時節が到來するだらう。(四十一年十一月)

## 英國殖民大臣チャムバーレーン氏

### 其一 英國現内閣の第一巨人

我同盟國の人民は、デヨセフ、チャムバーレーンを有するを一大光榮として世界に誇れり。今や英國人民の眼中には、議院もなく内閣もなく、唯だ半神的巨人の如く見ゆる一個のチャムバーレーン氏あるのみ。英國人民の祖先は曾てピットの治世に隨喜したりき。曾てクロンウエルの君臨

に悦服したりき。然れども現代の英國人民がチャムバーレーン氏に對する如き高度の人物崇拜熱は、恐らくは其の祖先の想像し得ざりし所ならむ。チャムバーレーン氏の黨與は少數なり、而して氏の内閣に於ける位地は、亦僅に殖民大臣たるに過ぎずと雖も、英國人民は彼れを一大臣視せずして大英帝國の統御者として無限の權力を有するものと爲せり。太甚しきは、彼れを評して英國のザールといふものあるに至る。以て英國人民が如何に彼れに傾倒するの殷むなるかを見る可し。曩にサリスバリー侯の將に退隱せむとするや、英國人民の多數は以爲らく、サリスバリー侯に繼ぎて英國の首相たる可きものは、必ずチャムバーレーン氏ならざる可からずと。蓋し英國人民は寡頭政治を好まずして、寧ろ獨裁内閣を喜ぶの傾向あり。故に最も能力に富める偉才を首相たらしめて一國の運命を其の指導に托せむことを望めり。唯だ夫れ斯くの如くなるが故に、チャムバーレーン氏の首相たるは、正當なる人物の正當なる地位を占むるものなりと英國人民に信せられたりき。英國人民の彼れを崇拜する所以は彼れが國民の首領として最も適當なる活動的頭腦を有するが爲めなり、其の春秋漸く老いたるに拘らず、他の老政治家の如くに過去の傳來思想に拘束せられざる爲めなり。英語人種の統一的事業に向て、深厚なる愛國心を注ぎたる大英帝國の建設者は、是れ正しく英國人民の要求する理想的首相なるが爲めなり。今後の英國首相たる



ものは、獨り海内英人の首領たるのみならず、又海外英人の首領たる可き人物を必要とするならば、然れども英國人民は、首相の交迭に對して頗る失望したりき。何んとなればサリスバリー侯の後任は、チャムバーレーン氏に襲がれずして、バルフォア氏の手に歸したればなり。若し假に首相を國民に公選せしめば、チャムバーレーン氏が大多數に依て當選せらる可きは論なしと雖ども、彼れは内閣の實權者たるに満足して、自ら首相の位地を要求するに熱心ならざりき。是れ道徳上に於ては極めて立派なる心事なれども、政治上に於ては或は之れを變例なりといふも可なり。顧ふにサリスバリー系の内閣は、英國の内閣史中に在て最も長久なる内閣なり。是れ保守主義の成功に非ずして、自由黨が愛蘭自治法案に由りて分裂したる結果なり。而して自治法案を破りたるものは、實にチャムバーレーン其の人の手腕に依れり。彼れにして自治法案に反對せざりせば、グラッドストーン氏の政略は必らず失敗せざりしなる可く、自由黨は亦決して彼れが如く勢力を失墜せざりしならむ。グラッドストーンの人望を奪ひたるものは、サリスバリー侯に非ずして、チャムバーレーン氏なり。大英國統一の思想を鼓吹して、自由黨を國民の繼子たらしめたるものは、サリスバリー侯に非ずして、チャムバーレーン氏なり。今や大英國統一策は、所謂帝國主義の名に依りて、英國の議院を支配せり。故に英國の内閣を鞏固ならしめむとせば、此の黨與を

指導するに於て、何人も匹敵す可からざる粘着力、實行的識見、及び強大なる戰鬥力あるチャムバーレーン氏に待つの外ある可からず。英國人民の多數は以爲らく、バルフォア氏の行政機關は、チャムバーレーン氏なくては十分に活動する能はず、而してバルフォア氏なきのチャムバーレーン内閣は、反つて行政機關の運用を敏活ならしむるを得べしと。要するにチャムバーレーン氏は英國現内閣の唯一巨人なり。政治的戰場の法則よりいへば彼れは固より首相たる可きの權利を有する人物にして、彼れを背後に有するバルフォア氏の如きは、唯だそれ虚器を擁するの首相たるのみ。

## 其二 彼れの名望

デヨセフ、チャムバーレーン氏は、當年正に六十七歳にして、人生古稀の齡に近かしと雖も、其の精神の獨り壯者を凌ぐものあるのみならず、其の容貌に至ては尙ほ五十臺の健全なる色澤を存せり。英國の一批評家は彼れの容貌を評して曰く、若し人間の容貌を假りに動物のそれに比擬を求めば、チャムバーレーン氏は狐の容貌を具備するものなり。其の黄ばみたる三角形の顔面と、其鋭くして猾智を表する眸子は、恰も人間中の狐を想像せしむと。然れども彼れは虎威を藉る



の狐に非ずして、實力を以て英國人民を指導するの駿馬なり、而も其の千里の逸足は幾多の戰場を経て毫も疲憊せざる健康を保持せり。彼れは戯球、狩獵、競馬等の趣味を有せず、唯だ屹々として國務に執掌するを人生の快樂とせり、彼れは職務曠廢の故を以て議院より彈劾せらる可き一失態なく、其の不斷の勤勉と不撓の精力とは、英國現内閣中復た彼れと争ふものなしといへり。英國の政治家は、動もすれば社交に耽りて職務に熱心ならざるの批難を被むることありと雖ども、獨り彼れに在ては未だ斯の如き批難を加ふるものあるを聞かず。此の點に於て彼れは實に故具翁に類する所ありといふべし、南弗戦争局を結ぶや、彼れは南弗に於ける永久の平和及び其の發達を啓導するの計畫に資せむが爲めに、自ら大英國の使命を帯びて遠く瘴烟蠻雨の地に入れり。其の老來益々壯むなるの意氣は、英國人民をして殆ど萬里の長城を思はざるを得ざらしめたりき。乃ち其使命を全うして歸るに及び、龍動の市民團體は、彼れをギルドホールに招待して歡迎の意を表したりき。各種の階級を代表したる重なる人物は、綺羅星の如く群集して均しく彼れの功勞を讚美したりき。最も注意すべきは、彼れの反對黨すらも、彼れに熱心なる同情を表するに至りしこと是れなり。南弗戦争を開始したる際は、彼れの反對黨は彼れを惡魔の如くに罵したりしに拘はらず、彼れが一點の利己的觀念を雜へざる帝國建設の成功は、反對黨をして、黨派の私

情を抛擲し國民的感謝を表せざるを得ざらしめたりき。否、彼れが南弗巡遊の途に上りたる時までも、反對黨は彼れの行動を嘲けり、彼れが豫期の齟齬すべきを斷言したるに拘はらず、彼れが使命の成功、明かに國民の認識する所となるに及びて、則ち彼れを稱して、内閣の大使に非ず、英國人民の大使なりといへり。初め反對黨は、内閣に對する一切の反感を彼れに集中し、彼れを憎むの太甚しき、内閣の責任を舉げて悉く之れを彼れ一人に負はしむるの亡狀を極めたりと雖ども、今や反つて彼れと内閣とを引き離し、彼れの功業を讚美すると内閣の政策を非難するとは別問題なりと論ずるものあるに至れり。ローズベリー伯の如きは是れなり、伯曰く、殖民大臣に對する舉國一致の同情は、必らずしも内閣に對する信任の表彰にはあらずと。ジョンモーレー氏も亦曰く、チャムバーレーン氏は正しき事業を爲したる正しき人物なりと。若し夫れ黨派的感情の極めて頑強なる政治家も、國民の彼れに傾倒すること到らざるなきを見て、皆瞠若として屏息し、復た公然彼れを攻撃するものあることなし。首相バルフォア氏盛むに彼れの成功を稱揚して曰く、凡そ英國の歴史に於て、斯る短かき時間に斯る大なる事業を成し遂げたる政治家は、唯だ我が殖民大臣チャムバーレーン氏あるのみと。彼れは味方よりも敵よりも、總べての市民よりも同一讚美を與へられて、殆んど得意の絶頂に達したり。若し英國人民をして羅馬人たらしめば、彼れは

英國殖民大臣チャムバーレーン氏



必らずジュリアス、シーザーたる可く、若し佛國人をして彼れを得せしめば、必らず彼れを第二のナポレオンたらしむべし。

彼れはグラッドストーン氏の如き最高の理想を有する賢人に非ず。然れども其の超黨派的經驗は、時代精神の結晶形たる帝國主義に彩色せられて、頗る英國人の虛榮心に投せり。彼れは確かに英國人民の要求に應じたる英雄なり。英國人民は議院政治を尊敬するの國民なりと雖も、更に最も一大人物の議院政治を重からしむるものあるを尊敬す。故に善く時代精神を領解して、巧みに之れを運用するの政治家は、其の自由黨に屬すると保守黨に屬するとを問はず、常に之れを信任し、之れに服従すること、殆んど專制君主に臣事するが如き趣あり。是れチャムバーレーン氏を有する内閣の久しく英國人民に飽かれざる所以なり。

### 其三 彼れの行徑

英國の歴史に於ては、彼れは政治家としては、其の出身比較的の後れ、其の境遇亦決して幸福なりといふ可からず。蓋し彼れの父は製靴を業とする龍動の一小市民なりしを以て、彼れは貴族若くは富豪の子弟の如き完全なる教育を受くること能はざりき。然れども彼れがパーミンナムに

於て叔父某と螺釘製造會社を組織して其の支配人と成るに及で、彼れの事務的材幹は忽ち發揮せられ、其の事業漸く繁榮すると共に、彼れは次第にパーミンナムの市民に知られ、遂に選まられて市參事會員と爲れり。而して彼れは市政に於ても頗る成功し、パーミンナムをして英國に於ける模範市たらしむるを得たるを以て、デヨセフ、チャムバーレーンの名は噴々として遠近に喧傳したりき。且つ彼れは最も激烈なる急進主義の政論家として屢々其の意見を發表し、以て人の耳目を聳動したること少なからざりき。故に千八百七十年パーミンナムより選まれて英國議院に出づるや、自由黨も保守黨も、皆彼れを粗野の木強漢なるべしと思へり。而も彼れの風采及び其の處女演説は、忽ち満場の議員をして意外の感に打たしめたりき。何となれば、彼れは反て溫柔の辯、優美の服裝を以て議院に現はれたる當世紳士なりしを以てなり。爾來彼れは久しからずして、議院に於ける最も巧妙なる討論家の一人たるを得たりと雖も、彼が始めて議院生活に入りしは、年既に四十に達したるの時なれば、之れを他の高名なる政治家に比するに、寧ろ晩年の出身なりといはざる可からず。

彼れは雄辯家に必要なる想像力を有せず、随つて其の議院演説の如きも、唯だ有り觸れたる歴史上の事實と、文學的趣味に乏しき論理とを以て組織したるものなりしがゆゑに、議院の演壇を



飾る可き雄辯は、彼れに於て之れを聴くこと能はざりき。然れども彼れが群衆の間に冷靜を保持するの自制力を有し、其の應答亦甚だ敏捷にして機鋒縱横なりしに於て、優に第一流の討論家たる技倆を認識せられたりき。

彼れは又た夙にグラッドストーン氏に知られ、チャーレス、デルク氏と併びてグラッドストーン氏の兩腕と目せられたりき。然れども愛蘭自治法案出づるに及で、保守黨と聯合して、グラッドストーン氏の政策に反對せざるを得ざりき。是れ獨りグラッドストーン氏の不幸なりしのみならず、又た實に自由黨の不幸なりき。何となれば自由黨は是に依りて最有力者を味方より驅て敵に赴かしめたればなり。彼れが自治法案を破るが爲に奮闘したる目覚ましき働きは、流石のグラッドストーン氏をして回復すべからざる創痕を負はしめ、氏に依て訓練せられたる結合鞏固なる自由黨をして、殆ど收拾すべからざるの頽勢を招かしめたりき。是に於てか、彼れは忽然として英國政界の大立物となりぬ。彼れを迎ひ入れたるサリスバリー侯の内閣は、英國の内政史上未だ曾て見たることなき強力の内閣となりぬ。

#### 其四 彼れの主義

彼れのサリスバリー内閣に入るや、傳來の保守主義は漸次に變色して、其政策方針は總べてチャムパーレーン式の模様を帯び來れり。世人は之れを稱して、新急進主義、新外交主義、新帝國主義といひ、以て保守自由主義以外に發生し成長したる新主義と爲せり。然れども之れを要するに、彼れは大英帝國の繁榮と統一とを以て主義となすこと、猶ほ露國のウイツテ氏が總スラヴ民族の繁榮と統一とを以て其の政策と爲せるが如し。彼れ自ら其主義を説明して曰く、領土統治の舊思想は、唯だ本國の利益の爲めに中央集權の政策を執るに在りしと雖も、帝國統治の新思想は、本國の利益と殖民地とのそれとを調和せしむるに在り、吾人は各殖民地に向て此福音を傳播普及せしめざる可からずと。是れ傳來の保守主義と異なる所にして、又た單純なる自由主義とも同じからざる所以なり。彼れが南弗の絶對的獨立を許さずして、大英國の國旗の下にボア人の自由政治を認めむとせし如き、殖民地の關稅同盟を作り、本國と殖民地との間に於ける利害が、他國の侵害を受けむとする如き、蓋し彼れの所謂政治上の新思想が表現したる政策なるべし。

彼れの新思想は。現時の英國人民を司配せり。英國人民は最早彼れを内閣の一大臣といはずして、英國人民の總代表者なりと信せり。されば現内閣は益々榮えて、自由黨は愈々衰へ、今や英國に於ては、人をして殆ど内閣反對黨の存在するや否やを疑はしむるに至れり。自由黨中にて、

英國殖民大臣チャムパーレーン氏



多少時務を洞見する政治家は、チャムバーレーン式の新思想を自由主義に加味して、時代の要求に應せむとするものなきにあらず。ローズベリー伯が帝國的自由主義を唱道して自由黨を一新せむと企てつゝある如きは是れなり。願ふにローズベリー伯とチャムバーレーン氏とは、其の經世上の所見に於て大なる差違あらざるべしと雖も、伯は其の性極めて溫和にして、野心亦甚だ旺盛ならざれば、伯に依りて自由黨の勢力を復興せしむることは、到底望む可からず。故にチャムバーレーン氏にして健在なる間は、英國の内閣は容易に自由黨の物たらし。 (三十六年六月)

### 露國大藏大臣ウイツテ氏

#### 其一 近代露國の建設者

露國皇帝は、本年露曆一月一日を以て、大藏大臣ウイツテ氏に優詔を賜ひ、在職十年の功勞を嘉稱して曰く、今や卿が財政任務の十年期を經過したるに依り、卿が善く朕の卿に對する信任に酬むが爲め、朕が茲に卿に向つて感謝の意を表するは、朕の甚だ喜ぶ所なり。卿は露國民の勢力に對する信用と帝位に對する忠實とを以て、常に朕を補助して國力及び國防を擴充せしめたるのみならず、金融の獨立及び安全を確保し、國庫の財源を増加し、以て年次膨脹する歳計を故障

なく整理するを得せしめたり。朕は卿が今後又た卿に一任せられたる官省の首長として、國家并に朕に必要な任務を繼續することを希望し、茲に渝らざる好意を表すと。露國皇帝のウイツテ氏を優遇すること斯くの如きは、實に信任の極と謂はざる可からず。

倫動デーリー、ニュースの東洋通信員たりしヘンリー、ノルマン氏、曾てウイツテ氏を評して曰く、露國現在の經濟、生産、及び商業は、殆ど全くウイツテ氏の事業にして、彼れの閱歴は、直に露國最近の國勢を説明するに足るべし。善く彼れを識るものは、彼れが現時の歐洲に於て最も有能にして、且最も遠見に富める經世家なるを疑ふものなかる可く、他の如何なる政治家如何なる財政家も、未だ彼れが如く國家の運命に大なる影響を與へたるものある可からずと。願ふにウイツテ讚美者は、獨りヘンリー、ノルマン氏のみならずして、一たび彼れと會談するの榮を得たる外國人は、大抵彼れの讚美者に化するものゝ如し。凡そ露國を研究すべくセントピーターズボルクに往くものは、先づ第一に大藏大臣の官邸を訪問して、高名なるウイツテ氏に引見を求めざるなく、而して太古の神人傳に現はれたる如き莊嚴魁梧の巨人は亦善く此の外來訪問者を敬服せしめて、自己の事業及び露國の發達状態を世界を廣告せしむ。願ふに彼れは本來愛著すべき人物にはあらず、彼れを訪問したる英國の一新聞記者は曰く、彼れは身材長大にして、膂力頗



る剛なり。其風神の冷淡にして態度の無造作なる、其談話の沈重にして辭令に嫻はざる、是れ恐らくは彼れが露國貴族社會に不人望なる原因ならむ。蓋し露國の貴族は、巧言令色に富めるに於て殆ど佛國の社交家に似たり。獨りウイッテ氏は簡傲粗野、何事を爲すにも一氣呵成にして、些しの矯飾なく、些しの婉曲なければなりと。然れども彼れは最も卓越したる歴史的人物の如く、其の深沈寡黙なる特質は反つて多くの訪問者に彼れの偉大なる所以を認識せしめたり。彼れは欺語せず、多辯せず、常に深沈寡黙なり。而も此の深沈寡黙の中に玄妙の魔力潜めるものあるを知らざる可からず。何となれば彼れの應接間より出で來るものは、皆彼れの忠實なる服従者、彼れの功業の傳令使、彼れの財政計畫の辯護人と爲り、凡そシーザーよりチャムパーレーンに至るまで、彼れに優るべき人物なしと口を極めて讚美すればなり。

彼れは總べての訪問者に對して、常に少しく語りて多くを告ぐるの結果を收めたり。新聞記者の如きは、彼れを訪問するの前、既に彼れに關する一論文を脱稿し、唯だ之れに統計的事項を添加して之れを完成せむが爲に、彼れの應接間に伺候するものゝ如し。然れども新聞記者の要求する統計的事項は實は彼れが便宜次第に製造したるもの多くして、必らずしも悉く信す可からずと雖も、露國の真相に通せざる新聞記者は一も二もなく彼れの授示せる報告を直寫して、彼れを稱して近代露國の建設者といひ、露國の開發進歩皆彼れの方寸より出づと爲せり。

彼れは内國人よりも寧ろ外國人の同情を受くること深し。彼れの財政計畫を領解し得べき智識を有する一般の露西亞人は、列國人が彼れの功德を讚美する如くに彼れを讚美せず。曾て露國に一種の諷刺的風説傳はりき、曰く、露國現皇帝一夜夢に三頭の牛を見る、一頭は肥へ、一頭は瘠せ、而して他の一頭は鈍なり。皇帝夢覺めて其の意を悟る能はず、竊にクロンスタットの教父を召して之を判断せしむ。教父曰く、陛下よ、余は之れを解し得たり、肥へたる牛は大藏大臣なり、瘠せたる牛は露西亞國民なり、さて鈍なる牛は、畏けれども陛下是れなりと。此の風説は恐らくは好事者の捏造したるものなるべしと雖も、要するに亦ウイッテ氏の事業に不信任を表する一感情の發現なりと謂はざる可からず。

然れども近代露國は、ウイッテ氏の既往十年間の財政計畫に依て、實に驚歎すべき國力の發展を世界に示したり。試に本年度の露國歲計豫算を一見せよ、其の歲入總額は、貳拾億七千六百六拾六萬餘留（一留は日本の約一圓）にして、其の内經常部に屬するものは拾八億九千七百〇三萬餘留、他の壹億九千餘萬留は臨時歲入に屬せり。之れを十年前即ちウイッテ氏就職當時の歲入約拾億萬餘留に比すれば、殆ど貳倍の増額なりと謂ふ可く、歲出亦之れに伴ふて膨脹したるは無論な



るも、彼れは綽々之れに處して惑はず、以て善く歳計の均衡を保てり。彼れは既に西比利亞鐵道を完成し、更に絶東經營に必要な陸海軍の大擴張案を平然として施行しつゝあり。今や日本に於ても、ウイッテの名は雷の如く響き渡りて、人をして其の風采を想望せしむ。乃ち露國の一舉一動に關心するものは、固より彼れの人物及び政略を知るの要ある可し。

### 其二 彼れの閱歷

ウイッテ氏は赤手にて起れり、資力なく、友人なく、又た門閥なかりき。父は日耳曼人の血統に屬し、露國政府の一小吏として、コーカサス州に住めり。氏は千八百四十九年に生れ、始めチフリスの高等學校に學び、尋でオデッサの大學に轉じたりしが、學生としての行徑は頗る平凡にして、毫も拔群の異彩を放つ所なかりしに似たり。然れども大學を卒業してオデッサの官設鐵道局に入るや、彼れの能力は忽ちにして發揮せられたりき。當時彼れは小停車場の驛長たるに過ぎざりしも、常に創意と新案とを以て其の所管事務を處理し、未だ數月ならずして顯著なる成績を擧げ、遂に模範停車場を作りて之れを全國停車場の矜式たらしめたりき。彼れは又た千八百七十九年セントピーターズボルグに開きたる鐵道大會議に出席して、鐵道制度に關する報告書を立案し

たりき。此の報告書は精細的確にして、十分彼れの事務的才能を見證したれば、彼れの人格伎倆は頓に人の耳目を助かすに至りき。特に露土戰爭に際して、軍隊及び軍需品の運送を敏活ならしめ、以て行軍の機動に毫末の障害を與へざりし功勞は、最も深く露國政府の感謝する所となりき。

千八百八十七年、大藏大臣ブンジ氏其の職を辭して、ウイシネグラドスキー氏之れに代れり。氏は久しく鐵道事業に關係して、善くウイッテ氏の行徑と手腕とを熟知し居たりしを以て、自ら大藏大臣の位地を退きて、彼れを其の後任に薦めむとしたりき。而も彼れは固く之を辭して起たざりき。後ち皇帝の召に應じて入京するや、彼れは鐵道局長官に任せられ、尋で遞信大臣と爲り、千八百九十二年遂にウイシネグラドスキー氏の後を襲ぎて大藏大臣の椅子に就きたり。時に彼れは四十歳、氣力方に旺盛にして、天才亦漸く圓熟の域に達したりき。

ウイッテ氏の前任者たるウイシネグラドスキー氏は、石より血を搾るの術に長じたる收斂家の稱ありしに拘らず、其の在職五個年の間に増加したる歳入は、僅に一億四千五百萬留に過ぎざりき。ウイッテ氏の大藏大臣と爲るや、最初の五個年間に歳入を増加したること四億五千百萬餘留にして、特に露國大飢饉の年度に於てすら、彼れは歳入豫算を超過すること約八千四百萬餘留の實收額を得たりき。而して千八百九十三年より千九百年に至る八個年間は實收額の豫算額に超過



すること總計約十億餘萬留にして、毎二年の剰餘は二億萬留以上の額に達したりき。今や彼れは二十億餘萬留の大豫算を公表して益々國庫の豊富を示し、以て世界をして露國財政の鞏固を具瞻せしむ。即ち皇帝は彼れの功勞に感謝して、破格の優詔を賜ひし所以のもの豈偶然ならむや。

### 其三 彼れの財政計畫

ウイッテ氏の財政計畫は、其源をフリードリヒ、リストの經濟主義に發せり。リストは十九世紀の初期に於ける歐洲の經濟學者にして、保護政策の使徒なりき。ウイッテ氏は往時會てリストの經濟論と題する一書を著述したることあり。後年彼れが大藏大臣として施設したる財政の根本主義は、疑ひもなくリストの學說に得る所あるを知るべし。顧ふにリストの經濟主義は、米國政治家も亦之れを採用して大に之れに成功し、以て自由主義の英國政治家を驚かしたり。ウイッテ氏の財政計畫に至ても、其リストの經濟主義を基礎としたるに於て米國政治家と一致したりと雖も、其の之れを採用したる精神に於ては甚だ逡巡あり。米國の政治家は、國民を富まさむが爲に、リストの經濟主義を採用し、之れに反してウイッテ氏は、國民の富を國有として國家の權力を擴大せむが爲に之れを採用したり。故に米國は保護政策に依りて、其の國民は次第に榮え、露國は

ウイッテ氏に依りて國家の歳入を増加したれども、國民の窮乏は舊に仍りて依然たり。

彼れは財政計畫の第一著歩として、酒精專賣法を施行したり。彼れの讚美者は之れを目して彼れの政策中最も光輝あるものと爲して曰く、酒精專賣法を施行したる結果は、三重の利益を生じたり、國庫は之れに依りて収入を増加したる是れ一なり。國民は之れに依りて間接に負擔を減じたる是れ二なり、而して之れに依りて得たる國家の収入は、更に生産的費用に化して國力を發達する是れ三なりと。蓋し酒精專賣法に依りて國庫の収入を増加したるは顯著なる事實なり、現に本年度の豫算に於て、酒精製造及び其の販賣を官業としたるに依りて約五億餘萬留を計上したるに非ずや。然れども是れが爲めに、露國の地方政府は邊に一大財源を奪はれたりき、何となれば、酒類營業より徵收する収入額は、市町村に於ける重要な財源なりしを以てなり。其の結果として、地方の行政機關は荒廢し、教育、衛生、殖産等の文明的企業は總べて痲痺の状態に陥りたり。是に於て乎自治團體は其の發達を中止して唯だ貧乏なる國家の腹を肥やすの犠牲と爲りき。

ウイッテ氏の官業政策は、獨り酒精專賣法を以て満足せずして、殆ど奪はずむば屢かざるの趣あり。彼れは總べての生産事業を國家に獨占せしめ、國民を擧げて悉く國家の勞働者と爲さむと企てたり。私設鐵道の大半は既に國有と爲りしのみならず、更に公債支辨法に依りて幾多の官設



鐵道は布設せられむとせり、各種の官立製造場及び官立販賣所は年を逐ふて増設せられむとせり、而して露國生産事業は一切國家の手に依て營まれむとするの傾向を示しつゝあり。而して彼れは國民の資本を統一するの計畫を完成せむと欲するなり。彼れは初め保護主義に依りて國內の生産を奨励保護したり、其の結果は、國民の富を少數者の手に集中したりき。現に一昨年露國の或る産業地に於て死したる二大富豪の遺産を算するに、甲は五千萬留にして、乙は三千萬留なりといへり。又た生産保護の爲めに、四割乃至六割の配當を爲し得るの會社珍らしからずといへば、個人的事業は到底之れと相競争する能はずして破産するもの相尋ぐに至るべきは必然の數なり。然れども生産保護政策は、國家が直接に掠奪し能はざる國民の資本を吸収する海綿たるのみ。國家獨占政策は一層大なる海綿なり、ウイッテ氏と少數富豪との同盟は決して永續すべきものにあらず。故に少數富豪が早晩大なる海綿に吸収せらる可き運命を有するは誰れか復た之れを疑ふものぞ。余は絶對的にウイッテ氏の國家獨占政策を否認するものに非ず。若し彼にして自由競争に原因せる生産組織を改造せむとする大理想の下に、其の所謂國家獨占政策を施行せば、亦た一代の大經世家として尊敬を表するに躊躇せず。然れども若し其の目的單に軍備擴張領土開拓に原因せる炭出膨脹に應せむが爲めに、即ち唯だ不生産的費用を支辨せむが爲に、國家獨占政策を

施行して國庫の歳入を増加せむとするに在らば彼れは畢竟國民を呪咀するの壓制政治家のみ。

彼れの讚美者は、彼れが生産事業を好むの故を以て、彼れを露國に於ける平和主義の代表者と  
いへり。露國の朝廷には武斷主義の化身たるポベドノステエツプの黨多くして、内治外交の政策  
動もすれば之れに左右せられむとせり。例へば故ロバノツフ伯の如きは、ポベドノステエツプの  
思想を以て絶東問題を解決せむとしたる外交家にして、其の滿洲經營に著手したる目的も、亦恐  
らくは武斷主義の指導に由りしならむ。獨りウイッテ氏は非武斷主義の人物として、歐洲に幾多  
の讚美者を作り。彼れは果して讚美者の信する如き人物なる乎。彼れが昨年之末、絶東を巡視  
するや、讚美者は彼れの目的を揣摩して曰く、此の旅行は西比利亞鐵道の生産上及び商業上に與  
へたる効果を視察せむとするの意に出づるのみ。其のセントピーターズボルクに歸へるの日は、  
必らずや軍事的競争の準備を一變して、平和的競争の準備と爲さむと。彼れにして果して讚美者  
の言ふ如くならば、是れ實に露國の幸福なり。何となれば露西亞國民は之れに依りて不生産的費  
用の負擔より免かる可ければなり。  
願ふに彼れの計畫に依りて成れる二十億留の歳入額の大部分は、全く官業及び國有財産の收入  
より來れり。而して直税として徴收する収入は實に僅少にして、本年度の如きは壹億三千餘萬留、



即ち歳入總額の一割を占むるに過ぎず。是れ實に彼れが施行したる國家獨占政策の勝利と謂はざる可からず。若し讚美者の言ふ所の如くならむか、彼れは軍備擴張に投ずる不生産的費用を割て之れを生産的事業に分配するを得べく、然るときは官業の爲に財源を奪はれたる地方政府は、更に新たな財源を發見し、總ての文明的企業は之れと共に亦復活せむ。而して彼れの國家獨占政策は、是に於て乎平和と進歩の要石ならむ。

#### 其四 人物性格

彼れは一方に幾多の讚美者を有すると同時に、又た一方に少なからざる反對者を有せり。然れども公平なる批評家は、彼れに對する讚美と反對との中間に立て、彼れの眞面目を發見するを得べし。公平なる批評家は、先づ彼れが極端の官權信者にあらざるを許すべし。世には彼れを專制政府の柱石、人民の仇敵にして、而も最も嚴格なる人物なりと稱するものあれども、其の實彼れは城府を設けずして頗る近接し易き處ありと認めらる。富豪といはず、小商人といはず、君子といはず、小人といはず、彼れは總べて之れを引見して之れと會談せり。此點よりいへば彼れは正さしく清濁併せ呑む豪傑の體を得たるが如し。彼れは猛烈なる性情を有し、往々屬僚を怒叱す

ることありと雖も、其の平穩なる時は、善く不平者の陳情を聽きて之れに慰藉と満足とを與ふることを厭ふなり。彼れは善く諸の人を引見し、諸の人の爲に謀れり、時としては請托之れに乗じて入ることなきに非ず、何となれば彼れの應接間に入出入するものの中には、私利を目的とせる企業家少なからざりしを以てなり。

然れども請托の行はるゝは、未だ甚だ彼れの徳を累はすに足らず、蓋し公平なる批評家は、彼れが一個の新精神を官廳に注入して行政機關を刷新したるの功を認めればなり。彼れが千八百八十九年遞信大臣と爲るに及びて、先づ執務の手續を簡易にして、百年以來因襲せる繁文縟禮を一掃し、服務規律を嚴重にして、官吏をして職務に勤勉ならしめたる如き、其の他觀るべきもの甚だ多し。彼れは又た平凡、無識、愚鈍を寛假する能はずして動もすれば冷刻に涉ることありと雖も、其の代りに彼れの周圍には、露國に於ける最高の人材を集めたるを以て、彼れの管理せる大藏省は、實に露國政府の能力智見を代表したる状あり。

彼れは懶惰にして廢敗せる露國政府に立ちて、精を勵まして治を圖り、群議の紛々たるを顧慮せずして、其信する所を斷行するがゆゑに、政府部内に於てすらも彼れを嫉惡するもの少なからず。而も彼れは邁往して毫も畏るゝ所なきなり。彼の露國政府に在るは、猶ほチャムパーレオン



○英國政府に在る如く、而して其の人物事業亦伯仲の間に在り。露國の大藏大臣は亞細亞露西亞に一帝國を建設せむとし、英國の殖民大臣は、南亞弗利加に一帝國を建設せむとせり。一は螺旋製造者より身を起して英國政府の大立者と爲り、一は鐵道事務員より身を起して露國政府の最大權力者と爲る。ウイッテ氏は財政家として内治外交の鍵鑰を握り、チャムバーレーン氏は、殖民行政家として英國政治の總問題を指導せり。露國にウイッテ氏ありてセントピーターズボルクの朝廷重きを爲し、英國にチャムバーレーンありてアングロサクソン民族の意氣頗る昂し。何ぞ其の相肖たるの甚しきや。

露國傳來の國是は大露西亞主義を遂行するに在り。ゴルチャコフ、イグナチーフ、ロマノフ等の政治家前後之れを鼓吹し、露國大新聞記者故カトコフ亦尋で盛むに之れを宣傳したりき。ウイッテ氏も、青年時代より早くもカトコフの感化を被むりたりしを以て、其の頭腦思想は、今も大露西亞主義に依りて司配せらるゝを疑はずと雖ども、元來彼れは日耳曼人種の血を稟けたる故を以て、動もすれば露國宮廷の一部に敵視せらるゝことなきにあらず、況むや其の卑賤より起りて國家最高の位地に昇りたるをや。然れども露國の重なる資本家は多くは日耳曼人にして、彼れにあらずむば善く之れを制御するを得べからず。是れ皇帝が彼れに任ずるに財政の樞機を以

てして疑はざる一原因なる歟。兎に角今後彼れの施設する事業は實に列國政治家の張膽明目する所たらむ。(三十七年四月)

### 故ウイリヤム、ハーコート氏

○ウイリヤム、ハーコートは英國衆議院の元老で、十九世紀下半期を代表したる模範政治家の一人であつたが、此頃突然、家人すらも氣付かなかつた位の卒中で、而も極めて靜かに永眠した。享年七十七といふから、先づ天壽には不足がない方だが、グラッドストーンなどは、七十七歳で愛蘭自治方案を提出し、爾後七年間も政治的活動を繼續したことを思へば、ハーコートの死はまだ早かつたやうである。

○一體ハーコートは容貌魁梧で、體力も非常に優れて居つたから、今後五年や十年は決して死ぬやうなことはなからうと信じて居つた。それゆゑ、彼れが當年春、老體任に堪へずと稱して衆議院を退隠した時も、或る新聞は之れを評してハーコートの氣力は依然少しも衰へて居ないから、代議士を辭退した後は、多分文壇で氣焰を吐くのだらうといつた。

○彼れは議會の討論家として英國第一流であつたが、論作家としても亦第二流以下ではなかつ



た。また代議士にならない前のこと、彼れはヒストリカスといふ匿名で、屢々倫敦タイムスに投書して時事を論じた。その著眼の警拔といひ、其の筆力の雄健といひ、忽ち文壇の呼物となつたが、彼れは後年之れを一纏のにして出版した。今も英人には相應に愛讀されて居るさうだ。

◎法律出身の人で、辯護士をしたり、検事をしたり、法科大學の教授をも勤めた。併し彼れは法律家としてよりも政治家として成功した。

◎グラッドストンの組織せる數度の内閣には、常に其の重要な地位を占め、特に大藏大臣として最も伎倆を現はした。グラッドストンが愛蘭自治方案を提出したる時は、自由黨中に分裂を生じ、チャムバーレーンの如きは、グラッドストンと離れて、別に統一黨の旗を押し樹つるといふ騒ぎであつたが、ハーコートも、最初は自治方案に反對しさうに見えたが、後ち斷然之れに賛成しグラッドストン翁を助けて大に勇戦奮闘した一人である。

◎グラッドストンが政界を退隠したるに付て、自由黨に首領後任の問題が起つた。其の候補者として、貴族院ではローズベリー、リボン、キンバレーの三名、衆議院ではハーコート、ジョン・モレー、アスキイスの三名が謳はれた。併し其の内でもローズベリーとハーコートは最も呼聲が高かつた。

◎勿論グラッドストンの相續者としては、孰れも品不足である。又たローズベリーでも、ハーコートでも、貴衆兩院を支配するの勢力は持たなかつた。人物伎倆の上では、グラッドストンに次で自由黨の總理たるべきものはハーコートであるが、彼れには多くの敵が有つた。彼れは世の所謂人望家ではなかつた。之れに反してローズベリーは快活なる社交家で、且つ英國有數の門閥家であるから、ハーコートよりも、人望を收むるに都合よく出來て居つた。

◎それでグラッドストンの死後自由黨内閣を組織するに際し、ハーコートは首相の椅子をローズベリーに譲り、自分は衆議院に於ける自由黨の首領を以て甘んじて居つた。

◎ジョン・モレー彼れを評して、ハーコートの如く黨派に忠實にして、且つ黨派の價値を信ずる人は甚だ少ない。彼れの黨派的感情は殆ど本能なりといつて居る。實に黨派的政治家としては、ハーコートなどは先づ申分のない模型であらう。ローズベリーは帝國的自由主義を唱へ出して、自由黨を改造しやうと企てたが、ハーコートは飽くまで自由黨傳來の主義を固執して、毫も推移する所なかつた。こゝらが彼れの本領であらう。

◎彼れは意力強き人物であつて、其の行動は壓倒的で、不退轉で、且つ勇敢である。暗黒なる政治的災厄に臨める場合でも、決して神経を衝動することなく、從容として喜怒哀色に現はれない



といふ方である。彼れはグラッドストンの死後、自由黨側に於ける最も強大なる論戦家で、常に十分の戦備をして居つた。

◎議院の討論にかけては、グラッドストンは天縱の奇才を有して居つたが、ハーコートも或る點に於ては、グラッドストンに劣らぬほどの辯才があつた。彼れの辯論は、極めて通俗で、多数の代議士が領解しかぬるやうな難句を用ゐて議場を困殺することはなかつた。グラッドストンは時として多数代議士の記憶せざる古書から、むづかしい格言などを引證し、甚だしきは希臘、羅馬の詩句などを演説の間に挿むことがあつた。ハーコートにさういふ癖のなかつたのは、彼れはグラッドストンの如き博學多才の人物でなかつた爲めでもあらうが、又彼れの頭腦が地味で、實際的であつたが爲めである。

◎ヴィクトリヤ女皇時代に於ける英國は、實に人物の淵藪であつたが、今や一人去り、二人去りて、當年の大政治家、大討論家、大外交家漸く凋落した。ハーコートも其の一人で、尙ほ残つて居るものは、チャムバーレン、及びモレー等數人あるのみだ。ローズベリーや、バルフォアは彼れ等に比すれば後進で、寧ろ新時代の人物といつても宜らしい。(三十七年十一月)

## 模範的支那人物

### 其一 老總督の死亡

十月六日午前八時に起れる劉坤一の遠逝は、獨り清國に於ける不幸たるのみならず、或は清國に關係ある列國の不幸たるやも知る可からず。特に最近數年間、彼れは東方危局の支持者として、善く日本國民と默契したるものありしに於て、彼れの計報に接したる日本國民は、殆ど一親友を失ひたるの感に打たれたるものゝ如し。彼れは拳匪の變發したる頃より、健康漸く衰へて、膂力復た舊の如く剛ならざりしに拘らず、其の國歩艱難の間に處して、蹇々匪躬の節を竭くしたる忠誠に至ては、頗る諸葛武侯の人格に髣髴たるものなくむばあらず。去る三十二年の秋、我が近衛公、清國に遊びて彼れを南京に訪ひたることあり。當時彼れは痔を疾みて起居自由ならざりしがゆゑに、公は彼れの静養を妨げむことを恐れて、會談少時にして告別せむとしたりき。而も彼れは其の憔悴したる形貌の内奥に、尙ほ驚く可き強健の氣魄を保存したりき。彼れ曰く、天下の事を語らむとす、肉體の苦痛我れに於て何ぞや。願くは襟を寬うするを得むと。公乃ち席に復し、議論風發の老總督と意見を上下して刻を移したりき。然れども爾來彼れの身體は、次第に衰弱し、



去る九月中旬に至て、俄かに悲む可き凶兆は彼れを襲へり。彼れは終に激烈なる赤痢と苦闘して斃れたりき。齡正に七十四。

世に最も惜むべきは、偉人の死なり。而して時危うして偉人を失ふ、更に最も惜むべしと爲す。今や清國は李鴻章の墳土未だ乾かずして、復た忽ち一大星の墜るに遭ふ。是れ清國の償ひ難き損失に非ずして何ぞや。顧ふに劉坤一は、其の位地よりいへば一地方官たるに過ぎざるを以て、直接に中央政務に關係せざりしと雖ども、其の資望勢力は、隱然として北京政府の一敵國たりき。彼れは滿洲大官の爲に忌憚せられて屢々其の排擠する所と爲らむとしたれども、西太后は彼れの忠肝義膽を冷遇する能はざりき。北京政府の主力は滿洲大官の手に存したりと雖ども、彼等は内外の重大問題を領會するの智識なく、又た之を解決するの伎倆を缺きたりしを以て、清國に於ける一切の難局は、事實上漢人種の血統を享けたる三傑の頭腦を借りたりき。三傑とは他なし、李鴻章、劉坤一及び張之洞是れなり。而して劉坤一の人格は、最も現時の清國に必要なりしを見るに於て、記者は彼れの死を惜むと共に、大に清國の不幸を弔せざるを得ず。

## 其二 劉坤一の略歴

彼れは道光九年を以て湖南寶慶府の新寧縣に生る。父孔澹は篤學能文を以て郷黨に推重せられたるも、剛狷不羈にして官場に競進するを好まず、終に無名の英雄として草莽に老いたりといへば、其の人品の尋常に超越したる者あるを知る可し。彼れは孔澹の長子にして、同族劉長佑と共に夙に新寧の連壁と稱せられたりき。左宗棠會て湖南の名士江忠源に問ふに新寧の人物を以てしてたるに、忠源乃ち劉長佑と劉坤一の二人を擧げて之れに答へたりき。髮匪の亂に際し忠源郷團を組織するや、長佑は其の帷幕に參して貢獻する所多く忠源戦死の後、長佑代つて其部下を領し、坤一之れが幕賓として赫々の殊功あり。是れ實に彼れが二十七八歳の青年時代なりき。彼れは軍功を以て廣東按察使に任せられ、尋で廣西布政使と爲り、到る處頗る治績あり。同治四年江西巡撫に累進するや法を執ること峻厲に過ぎたるの故を以て、一旦御史に彈劾せられて官を去りしも、幾くならずして、廣西總督署理を命せられたりき。光緒六年兩江總督曾國荃の任地に歿するや、彼れは一躍して兩江總督兼通商大臣と爲り、居然南清の重鎮たること十二年。其の政治的生涯は、李鴻章の多面多彩なりしに及ばず、其の組織的施設は、又た張之洞の用意周匝なるに及ばざるに似たりと雖ども、其の人心を鎮むるの威重久しく中外の望を繫きたるは、亦清國第一流の人物たるを失はざるべし。其の薨するや、天子諡して忠誠といひ、一等男爵に追封し太傅を贈る。

模範的支那人物



其三 兩江總督の位地

兩江方域は、清國の中原にして、内治外交上最も樞要の地なるに、髮匪平定後は、哥老會の徒、此の地方を根據とし、屢々亂を作さむとして、統治上の障害たること少なからず。抑も清國に於ける腹心の患は、所謂『教民の争ひ』にして、拳匪の亂も亦實に此に原本せり。蓋し兩江方域は基督教徒最も多く、随つて外國宣教師の往來するもの最も頻繁たる處たるに於て、教民の争、往端を此の地方に啓くを例とせり。而して教民の争ひは、勢ひ國際問題を惹き起すの結果あるがゆゑに、之れを豫防し得ると否とは、正さしく清國休戚の分かるゝ所なりといふも可なり。況むや長江沿岸は、列國通商の要衝たるに於て、教民の争ひ一たび起らば、清國に於ける外國貿易は、殆ど之れが爲に杜絶せらるゝ虞あるを免かれざるをや。然るに夫の哥老會の徒は、排外思想極めて熾むなるを以て、動もすれば愚民を煽動して教徒と衝突せしめ以て教民の争ひを促致せしむるの傾向あり。故に哥老會の鎮壓は、兩江統治の一大難件たり。

哥老會は政治的團結に非ず。彼等は湖南兵勇の後身にして、髮匪平定の後、共濟互保の盟約を以て社を結びたるものなり。元來梁山伯を模範とし、游侠を以て理想としたれば、則ち其の行動の兇暴險詐に流がるゝは亦止むを得ずと謂ふ可し。然れども北京政府の力能く之れを鎮壓するに足らずして、會匪の團結益々鞏固を加ふるものあり。威望の湖南人に瞻仰せらるゝものに非らずむば、到底之れを懾服せしめて事變を未發に防ぐこと能はず。而して曾家の兄弟前後に歿し、左宗棠亦相踵で逝けるに當り、威望勳名の以て兩江方域の平和を維持するに足るものは、實に劉坤一を外にして、復た一人の適材なかりしを以て、北京政府は彼れを選叙して兩江總督の任に當らしむること十二年の久しきに及びたりき。

曩に拳匪亂を北清に發するや、哥老會の徒響應して南清を擾さむとせり。列國の領事館は争ふて駐在地を引揚げたり。英國艦隊は居留民を保護す可く楊子江を遊弋せり。上海の居留地は警戒と恐怖とを以て動搖し始めたり。南清は陰々として漸く噴火的惡兆を表顯し來れり。是れ豈危機一髮の時に非ずや。而も劉總督の強大なる高壓力は、將に來らむとするの大爆發を抑止して、驚く可き成功を此の間に示したりき。彼れは一方に於ては、哥老會の頭領を招撫して猫の如く服従せしむると共に、他方に於ては、張之洞と聯合して東南保安の同盟を作り、以て長江沿岸の平和を破るゝに垂むゝとするに維持したりき。其の功決して北清の平和克復に譲らず。

模範的支那人物



#### 其四 劉張二氏の人物

拳匪事變以前までは、劉張二氏の間には未だ親密なる政治的關係あらざりしに似たり。戊戌の年、清皇康梁一派を登庸して、大に庶政を更張せむとし、屢々上諭を督撫に降だして進言を求むるや、張總督は直に議覆して改革を贊襄せしも、劉總督は恰も上諭を知らざるものゝ如く、一も議覆する所なかりき。清皇改革に失敗して、西太后の訓政復興するや、皇帝の疾治む可からずと詭りて、廢立の密旨を各督撫に諭したりき。此時に當り、劉總督は其不可を西太后に極諫せむとして、張總督に共同運動を謀りしも、張總督は反つて之れに同意を表せざりき。前には張氏新政を贊襄して、劉氏は則ち議覆する所なく、後には劉氏廢立に抗議して、張氏は則ち與らず。二氏の行動の相反對したるもの誠に斯くの如くなりき。

然れども拳匪の亂起るや、劉張二氏は所謂る東南同盟を作りて、大局の壞裂を防遏し、滿洲密約の提議出づるや、劉張二氏復た交もく發議して百方其の締結を妨げ、再度の改革上諭あるや、劉張二氏は旨に違つて籌議し、以て有名なる聯銜奏疏を提出したりき。是に於て乎劉張二氏は、清國に於ける進歩主義の政治家として其の名を齊うし、世の清國の人物を説くもの、必らず先づ

劉張二氏を言はざるなきに至りぬ。近衛公は二氏と最も親交ある人なり。故に二氏の人物を識ること亦最も熟せり。公曰く、

劉坤一の人格は、張之洞に比すれば、一段の高處あるを覺ゆ。張氏は頭腦明晰にして組織的思想を有すれども、大綱を綜攬し、大局を統轄するの巨腕に至ては、寧ろ之れを劉氏に於て見るべし。彼れは覇者の才よりも王者の度を具へ、茫洋として要領を得ざるが如くなりと雖ども、其の爲す所は總べて眞摯にして誠實なり。是れ群衆を司配するに絶大の靈力ある所以なり。

願ふに劉氏は武を以て身を起し、其の半世を軍裝の巡遊者たりしがゆゑに、施政の才或は張氏に及ばざるものある可し。張氏は清國有數の讀書家にして、加ふるに識見の老實を以てす。是を以て其の施設する所穩當著實にして觀る可きもの少なからず。夫の聯銜奏疏の如きも張氏専ら之れを立案し、劉氏は唯だ之れを承認して署名したるに過ぎずといへば、其の學術識見に至ても、張氏固より劉氏に比して一日の長あらむ。然れども能く大節を持ち、大事を斷じて迷はざるの自信、能く士民の心を得て、威重の衆を服するに足るの首領的天才に至ては、張氏決して劉氏の十一を望むべからず。劉氏は實に東洋人物の模範なり。若し其の匹儔を我國に求むれば、西郷南洲の如き殆ど之れに近かし。



其五 愛國者

清國の改革派中には危激の思想を有するものあり。今の清朝を顛覆して共和政體を建設せむと謀る孫逸仙の一派是れなり。而して滿洲大官は一切の改革派を同視して、總べて革命黨と爲し、之れを思むこと蛇蝎の如く、隨つて改革の氣運を成る可く抑へむとするの方針を執るもの、如し。是れ劉張二氏の最も憂る所なり。劉張二氏にして若し危激なる革命黨を煽動して清朝を顛覆せむとせば、拳匪事變は疑ひもなく二氏の運動に好機會を與へたりしを疑はず。而して二氏にして當時若し自ら起つて風雲を指揮せば、其勢ひ或は測られざるものありしならむ。但だ二氏は清朝を扶持するに於て全く保守主義なり。二氏の目的は清朝をして文明政治を行はしめ、以て國勢の危類を救はむとするに在り。此の點に於て、劉氏の思想は實に頗る明截にして玲瓏を極めたり。彼れ死するの前に手記し置きたる一篇あり。其の大意に曰く、余は資性迂疎にして時務を辨するの能力なし。然れども幸ひに上には聖明なる天子ありて、善く時務を識るの新人材を登庸せむとす。是れ余の甚だ喜ぶ所なり。世に海外留學生を非難するの士あり、以爲らく、海外留學生は他國の毒説に浸染して愛國の精神を失ひ、終に畏る可き革命的主義を齎らし來るの弊ありと。案するに

多數の留學生中には、此の類の徒輩も決して必無なりとは言ふ可からず。然れども斯くの如き流弊を矯正するは、別に適當の道あるべし。一二少數の曲學者を出たすことある故を以て、留學生の全體を攻撃するは、亦ただ謬らざるや。今日の急務は、有能の人物をして國事に當らしむるに在り、隨つて余の切に願ふ所は、我皇帝が勉めて達識明智の人物を選叙すること是れのみと。嗚呼、是れ實に彼れが愛國者としての最後の福音なりき。彼れは張之洞の如き冷腦を有せざるがゆゑに、動もすれば是非を直言して他の忌諱に觸るゝことなきに非ず。然れども西太后が彼れを信任して終始渝らざりし所以は、其の心事開明にして一點の私情なかりしが爲めなり。前年北京政府の守舊黨權勢を擅にして新政破壊の方針を執るや、其の領袖たる剛毅は先づ南信を巡回し、兩江省に對して巨額の上納金を課したり。其の結果として劉總督の經營せる各學堂は裁撤せらるゝの不幸を見るに至りたるがゆゑに、彼れは大に其の不法を怒かり、直に現職を去らむことを乞へり。北京政府の守舊黨中には苟かに計策の圖に中たりたるを喜びしものありしに拘らず、西太后は彼れを引見して慰諭懇到、命するに依然留職して國家の爲に盡さむことを以てしたりき。西太后は曾て新政破壊のクー、デ、ターを裁可したるほどにて、其の思想の改革派と相容れざるは論するまでもなし。而も今や反つて皇帝を助けて庶政の更張に精勵し給ふに至りしは、豈劉張二氏の切悞

模範的支那人物



を極めたる聯銜奏疏大に與つて力ありしに由らざらむや。而して劉氏の忠實なる臣節最も西太后を動かすの感化力たりしは疑ふ可からず。

### 其六 劉氏と外人の批評

凡そ清國近代の政治家にして、善く外人の信用を博したるは劉坤一に若くものあらず。李鴻章は最も早く外人に知られたりと雖ども、惜いかな其の晩年の施設には、往々中外の非難を免かれざる缺點多かりき。之れに反して劉坤一は、拳匪事變以前までは、李鴻章に匹敵するの盛名なかりしと雖ども、其の皇帝廢立に反對し、滿洲密約に抗議し、變法自強策を主張するに至て、外人は始めて彼れが遠見ある愛國者たり、進歩主義の政治家たるを認識し、特に英人は彼れを楊子江域の平和擔保者として、頗る其の人格に敬意を表したりき。故に彼れの死を悲むものは、英人に於て最も太甚しきを見る可し。上海に於ける一英字新聞は曰く、

劉坤一の死は、清國の一大不幸なり。彼れは清國の紳士なり、誠實なる愛國者なり。二年前の事變に於て楊子江域の平和を維持したる首功は、疑ひもなく彼れに歸せざる可からず。事變の起りたる際は、彼は年漸く老い、身體も既に健全を缺きたりしと雖も、彼れは躊躇せずして難

局に膺りたりき。當時彼れは諸般の國務を以て壓迫せられたりき。上海在留の列國代表者は、幾多の繁雜なる案件を以て彼れを忙殺せしめたりき。而も彼れは終始冷靜なる頭腦と、強固なる意思とを失はずして、能く此の繁劇の交渉に献酬したりき。楊子江域が拳匪の攪擾より免かれ、南清方面が幸ひにして北清騒亂の波動を受けざりしに付ては、彼れは主として感謝を吾人に要求するの權利あるものなり。彼れは常に能力ある大總督たりしのみならず、又た實に眞摯正義の人物たりき。

該新聞は斯く論じつゝ、更に彼れが西太后に對して責任を盡くすの忠實なりしを賞揚し、彼れが如き好人物を失ひたるは現時の難局に於て重大なる變故なりしとして曰く、

清國の全部は、正さしく土崩瓦解の現状に在り。而して彼れは之れを支持するに於て最大勢力たりき。彼れが清國開發の爲に必要なる改革を企てたるは、彼れを中心より出でたる愛國の至情なりき。彼れは端正なる紳士にして、際物師若くは臨機應變者に非ず。彼れは西太后を善導するに於て偉大の感化力を有したりき。又た通商條約の成功に關しても、最も彼れの助力を藉るの必要ありしに、今や彼れは亡し。願ふに彼れの死が、清國全體に大打撃を與へたるは論なく、外人と雖ども亦其の悲痛を均しくするを疑はず、何となれば吾人は彼れの死に由て重大な



る損失を蒙りたればなり。

是れ彼れに對する英人の感情を代表したるものなり。他の一英字新聞も亦曰く、劉坤一の死に由りて、清國は其の歴史中最も多難なる時代に於て、最も有力なる人物を奪はれたり。此の愛國者にして且つ遠見ある老總督は、既に彼れの年少時代に於て、清國が化石したる文明組織を廢撤して、之れに代ゆるに斬新にして進歩したる制度を以てせざる可からざるの必要を認識したり。彼れは官歴の全時代——事實上彼れの生涯の全部を包括したるに於て、常に清國の改革を以て目的としたりき。然れども彼れは久しき間、其の目的を現實ならしむるを得ずして、空しく之れを自己の胸臆に秘め置きたりき。彼れの臨終に近寄りたる千八百九十八年までは、時代の精神は、彼れをして彼れが最も適好なりと信じたる改革案を發表するを得ざらしめたりき。其の以後とても、彼れが發言は極めて低音なりき。彼れが西太后に與へたる忠言は、『唯だ千八百九十八年のクー、デ、ター以後、改革黨を處分するに於て、過度の慘酷に陥るなかれ』といふに過ぎざりき。然れども彼れは拳匪の亂に際して、揚子江域の平和擔保者として、能く居留外人の生命財産を保護したりき。彼れは名譽ある老總督なり。李鴻章を除きては決して彼れに比すべき人物を清國に求む可からず。

其の如何に英人の爲めに敬愛せられたりしかを想ふ可し。獨り英人のみならず、又た日本國民のみならず、苟も彼れが中外に對する正々堂々の言動と、及び彼れが清國の氣風を開發するが爲に慘澹の經營を費やしたる苦衷を諒するものは、誰れか彼の死を痛惜せざるものあらむや。記者は死せる彼れが將來屢々外人の爲に想起せらるゝの日あるを信せざる能はず。(三十五年十一月)

### 袁世凱氏

清國前直隸總督李鴻章の死するや、其の後任選定は清國の重大問題たりき。何となれば直隸總督は一地方官たるに過ぎずと雖も、其管轄方域は、東は渤海に臨み、南は山東を控へ、北は蒙古に連り、西は大洋に達して、支那本部の首腦を占め、且つ國都北京の在る所にして、十八省中最も尊嚴なる地なるを以て、從來特に重臣を擧げて之れが總督たらしめ、兼ねるに北洋通商大臣の任を以てせしむるを慣例としたればなり。而して袁世凱は、其の系統よりいふも、其才力識量よりいふも、李鴻章の相續者として最も自然にして又最も適材なりしがゆゑに、彼れは山東巡撫より榮轉して直隸總督署理となり、尋で本官に任せられたり。願ふに彼れが此重任を得たるは、西太后が彼れの伎倆を視るの明あるに由りしのみならず、張之洞劉坤一の兩元老も亦裏面より彼れ



を奏薦したりしもの、如し。今や彼れは第二の李鴻章たる位置を有して居然として重きを清國に爲すと共に、其一舉一動は漸く中外の注目を鍾むるに至れり。少くとも彼れは清國の政治家中最も趣味多き未來を有する人物なり。

故李鴻章の幕下は多士濟々を以て稱せられ、而して、袁世凱は實に其の最も卓出したる秀才なり。彼れが駐韓公使として京城に在るや、威權赫々、韓廷を股掌の間に翻弄し、又其縦横の手腕は頗る日本の外交家を惱ましたりき。竹添進一郎、近藤真劔、梶山鼎介、大石正巳、大島圭介、等入替はり立ち替りて彼れと智勇を闘はしたりしに拘らず、彼れは常に優勢を京城の外交舞臺に維持したりしもの、如し。勿論彼れは當時漫に氣を張り聲を大にして跋扈陸梁し、其言動毫も遠見と練達とを示したるものなく、自ら日清の衝突を激成して、終に明治二十七八年の大戦争を速きたりと雖ども、其の三十稔の若輩を以て殆ど韓國を風靡するの勢力を揮ひ得たりしは、亦以て彼れが人格の尋常一様に非るを想ふ可し。

彼れは明治十五年丁汝昌吳長慶等と共に李鴻章の命を啣みて韓國に到り、大院君を強迫して之れを清國に拉し去りしが如き高手段を執りたる一人なり。尋で馬建忠に代つて駐韓公使となりたる後は、終始韓國の内政に干渉して、其主權を清國に移さむとするの方針を厲行したりき。彼れ

は韓國政府が朴定陽を米國駐劄全權公使に任ずるに當り、財政困難の韓國を以て公使を外國に派遣するは不當の舉なりと認むるが故に、宜しく清國政府の協贊を経たる上にて之れを決すべしと主張し、百方威嚇を用ゐて終に朴定陽を罷免せしめたりき。彼れは國王を廢し、李峻容を立て、韓國の政權を自己の手中に收むるの陰謀をも企てたりき。彼れは韓國をして純然たる清國の屬邦たらしめむが爲に、他國の勢力の韓國に侵入するを極力防遏せむとし、一面に於ては日本黨を排斥すると同時に一面に於ては豆滿江上に於ける露國の祕密計畫を打破したることありき。彼れは又咸鏡道監司趙秉式を教唆して防緩令を發布せしめ、其の結果日韓の交渉となるや、彼れは巧みに韓廷を操縦して日本政府の外交を阻礙したりき。

東學黨の蜂起は、彼れをして百尺竿頭の大飛躍を爲さしめたりき。蓋し彼れは善く李鴻章の對韓政略を理會して、之れを運用するの機會を逸せざらむことを勉め、韓國政府を誘致して、東學黨鎮撫の援兵を清國に請はしめ、以て韓國の獨立を打破するの鐵椎を下したりき。是に於てか清國は屬邦救援の名を以て韓國に出兵し、日本亦濟物浦條約に依りて若干の軍隊を派遣し、兩國の衝突は避くべからざる必然の勢となりたりき。而して彼れが此の際に於ける外交的運動は、活潑といふよりも寧ろ暴慢なりき。彼れは韓國政府を使喚して日本軍隊の撤退を要求せしめたるのみ



ならず、自ら韓國政府に代りて抗辯書を作り、以て之れを日本政府に送らしめたりき。而も彼れは其效なきを見るに及で、更に李鴻章と相策應して種々の小刀細工を弄したりしと雖も、日本の外務大臣は智略英發聰明特絶の人たりしを以て、其の作爲する所常に清國の機先を制し、流石の袁世凱をして復た一も施措する所ある能はざらしめたりき。斯くて李鴻章の對韓政略全く失敗に終りしと共に、袁世凱の韓國に於ける十年の經營は亦幻影の如く消滅したりき。

要するに日清戦争以前の袁世凱は唯だ街氣盛むなる一種の切れ者たるに過ぎずして、其言動は殆ど盲目的なりと謂ふも可なりしに似たり。彼れは李鴻章の心を讀むの伶俐を有したれども、文○明○の○外○交○術○を○解○する○能○は○ず、○世○界○の○大○勢○を○察○する○能○は○ず、○而○して○特○に○日○本○の○眞○相○を○揣○摩○す○る○に○於○て、○首○領○の○李○鴻○章○と○共○に○全○く○失○敗○に○陥○り○たり○き。○然○れ○ど○も○彼○れ○は○戰○後○に○於○て、○漸○く○識○見○老○成○の○人○となれり。團匪事變の際は、彼れは山東巡撫として濟南府に在りしが、山東は團匪の巢窟なりしに拘はらず、彼れは能く人心を鎮壓して管内の平和を維持し、以て匪難の波及を避くるを得たりき。尋で露清密約の事あるや、李鴻章は露國の恫喝威迫に耐ゆる能はずして、動もすれば密約の成立を謀らむとするあり。滿洲一帯の地將に露國の包擧する所とならむとするの危機に際し、袁世凱は南方の諸總督と共に、密約の反對を李鴻章に電告して、其調印を拒絶せむことを力争したり

き。當時日本政府は亦露國の滿洲經營を絶東の平和に害ありと爲して、屢々北京政府に警告を與へ、故近衛公の如きは、野に在りて國民同盟會を組織し、清國保全の主義を唱道して國論を統一するに努めたりき。露國は曾て獨佛と聯合し、日本に干渉して遼東半島を清國に還付せしめ、以て自ら北京政府の歡心を收攬し得たるを悦びしと雖も、其の一たび滿洲占領の擧に出づるや、清國の官民漸く露國の野心測る可からざるを悟るもの多きに至れると共に、故近衛公等の唱道したる清國保全の旨義は、彼等をして戰敗の屈辱を忘れて日本に依頼するの却つて安全なるを知らしめたりき。是れ實に清國の一轉機なりと謂ふ可し。而して獨り李鴻章は、遼東還附以來殆ど露國の藥籠中の物となりしが如く、往々滿洲に侵入する露國の勢力を迎へむとするの傾向なきに非ざりき。是を以て時人は李鴻章を目して親露黨の代表者と爲したりき。然れども李鴻章の意、必ずしも露國に親むに非ず。彼れは滿洲をして日露兩國の争點たらしめ、兩國互ひに相牽制するの勢を利用して清國一日の治安を保たむとするの方針を執りしもの、如く、此類の對外策は殆ど支那傳來の外交思想に胚胎したるものなれば、其の何人たるを問はず、一旦局に當れば、大抵李鴻章と大同小異の方針を執るを免かれざる可し。特に袁世凱は久しく李鴻章に従遊して政治的訓練を受け、其性格亦李鴻章の半面を有する人物なるが故に、彼れが滿洲問題に關して果して李鴻章